M-Class

取扱説明書

マーク

この取扱説明書では、以下のマークを使用しています。

⚠ **警告**

警告項目は、お客様ご自身やお車に同乗の方々の健康や生命をおびやかすような危険への注意を喚起するものです。

環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

! 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

i このマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶	このマークは、お客様に従っていただきたい操作を示しています。
▶	連続しているマークは、いくつかのステップがある操作を示しています。
(▷ ページ)	このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。
▷▷	このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。
画面設定	この表記は、マルチファンクションディスプレイ / COMAND ディスプレイのメッセージを示しています。
	このマークは、デジタル版取扱説明書に説明があることを示しています。

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます。

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様ご自身と同乗の方々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

便利な機能の追加情報は、COMAND Online 内のデジタル版取扱説明書に記載されています。

お客様の車両の装備や名称は、オプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは、主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書では、100 km/h 以上の速度での性能に関するデータや車両の状態が記載されています。ただし、公道を走行するときは、常にその場所で適用される法定速度または制限速度を遵守してください。

メルセデス・ベンツ社は、車両を最先端にするために、絶えず改良を行なっています。

そのため、デザイン、装備などが予告なく変更されることがあり、この取扱説明書に含まれる記述やイラストと異なる場合があります。

以下のものは、車両の一部ですので、常に車両に搭載してください。

- デジタル版取扱説明書
- 取扱説明書
- 整備手帳
- 補足版

車両を売却される場合は、必ず次の所有者にすべての書類をご譲渡ください。

Daimler AG の技術文献チームは、お客様が安全で快適な運転をされることを切に望んでおります。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

1665844371

シ

補

あ

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

英字

概要

印刷版取扱説明書の他に、ブックケースには以下の取扱説明書が含まれています。

- デジタル版取扱説明書の CD
- 整備手帳
- 装備付属の補足版

印刷版取扱説明書は、選択された車両の機能に関する情報を提供しています。

また、COMAND システムを使用してデジタル版取扱説明書にアクセスしてもご利用になれます。印刷版取扱説明書に記載されていないご質問がある場合は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ℹ デジタル版取扱説明書のご利用に当たり、お客様には一切費用はかかりません。呼び出しはインターネットに接続せずに行なわれます。

以下の項目に詳しい情報が記載されています：

- COMAND システムへのデジタル版取扱説明書のインストール方法 (▷ 22 ページ)
- デジタル版取扱説明書のアクセスおよび操作方法
- 基本メニューからのさまざまなアクセス方法

デジタル版取扱説明書の基本メニューからのアクセスには、以下の 3 つの方法があります。

- イメージ検索
- キーワード検索
- 目次

インストール

デジタル版取扱説明書がすでにインストールされているかどうかを確認してください。そのためには、以下のようにして COMAND システム経由でデジタル版取扱説明書を呼び出します。

▶ COMAND コントローラーを使用して、COMAND ディスプレイのメニューバーからアイコン 🌐 を選択し、押して ⊛ 確定します。

▶ "取扱説明書"を選択し確定します ⊛ 。
2 つの可能性があります。
1. デジタル版取扱説明書がインストールされています。デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。
2. デジタル版取扱説明書がインストールされていません。以下のメッセージが表示されます：取扱説明書はインストールされていません。対応するディスクを入れてください。

デジタル版取扱説明書がまだインストールされていない場合は、ご自身でインストールするオプションがあります。必要なインストール用 CD はブックケースに入っています。

インストール処理の時間は異なることがあります。

インストール処理には約 5 分 かかります。この時間の長さは、車両が停止していて、COMAND システムの他の機能を使用していない間にデジタル版取扱説明書をインストールする場合にのみ当てはまります。インストール処理の時間は、そのときにナビや電話機能のような COMAND システムの他の機能を使用していると増加することがあります。

インストール中に何か問題が生じた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ **デジタル版取扱説明書をインストールする：** 車両を安全に停止し、道路と交通状況に注意してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ インストール用 CD を CD / DVD ドライブに挿入します。

▶ COMAND ディスプレイのインストール手順に従います。

ℹ チェックに失敗すると、例えば この取扱説明書ディスクは本システムには対応していません。ディスクを取り出します。 というメッセージが表示されます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ **インストールが完了した場合：** COMAND コントローラーを使用して、インストール用 CD の取り出しを確定します。

ℹ **インストールのキャンセル：** インストール処理中にデジタル版取扱説明書のインストールをキャンセルできます。 後でインストールを続行することができます。

インストールの継続：インストール CD を CD/DVD ドライブに再度挿入し、上記に記載されているようにインストールの説明に従ってください。

操作

デジタル版取扱説明書の呼び出し

▶ COMAND システムのコントロールノブ ⓞⁿ を押します。

COMAND システムがオンになります。以前選択したメニューが警告メッセージの後に表示されます。

▶ COMAND コントローラーを使用して、メニューバーのアイコンを選択し 🌐 、確定します ⊛ 。

▶ "取扱説明書"のページを選択して、⊛ で確定してください。

デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

イメージ検索

イメージ検索により、車両を"システム上で"調べることができます。車両のエクステリアあるいはインテリアの図のいずれかから開始し、取扱説明書に記載されているさまざまなトピックにアクセスすることができます。インテリア項目にアクセスするには、項目さくいんページの"インテリア"を選択してください。

① トピックバー

② 選択した項目さくいん

③ 作動している車両構成部品

▶ COMAND コントローラーを回して ⟲◎⟳ 、または、スライドして ←◎→、個別の車両構成部品を選択します。
個別の車両構成部品は、色で強調されます。1 つの図につき 1 個の車両構成部品のみが強調されます。

▶ 今選択されている項目を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◎ 。

項目を選択した後、以下のいずれかが続いて表示されます。

• デジタル版取扱説明書の該当する項目に直接進みます。
• さらに詳細なさくいんが記載されたリストが開きます。COMAND コントローラーを使用して選択できます。
• イメージ検索の階層に下がります。検索はここで絞り込むことができます。COMAND コントローラー をまわして ⟲◎⟳ 、または、スライドして ←◎→ 赤で強調された個別の車両構成部品を選択します ③。

▶ **前回の画面に戻る：** COMAND コントローラー横の [↩] スイッチを押します。
前のページが開きます。

キーワード検索

キーワード検索では、文字入力を使用してキーワード検索を行なうことができます。文字入力の詳しい説明は、"COMAND システム" のさくいん "ナビ - 文字入力（文字バー）"をご覧ください。

① 使用できるキーワードの選択リスト

② 文字バー

③ 戻る

▶ **キーワードを入力する：** COMAND コントローラーを回す ⟲◎⟳ またはスライドさせて ←◎→、文字を選択します。
COMAND コントローラーをスライドして ↑◎↓、文字バーの文字を変更します。

▶ 文字を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
選択リスト ① がフィルタにかけられます。

▶ COMAND システムが自動的に選択リスト ① にジャンプするまで、同様に文字を選択します。
代わりに、 OK を押して選択リスト ① を呼び出すことができます。

目次

目次には、トピックが印刷版取扱説明書と同じ順序で記載されています。項目を選択した後に、小項目を選択することができます。

① トピックバー
② 目次の中で今選択されている項目
③ 目次の中で今選択されていない項目

▶ COMAND コントローラーをまわすか ↺◎↻、またはスライドして ↑◎↓、希望する項目を選択します。
▶ 項目を確定するには、COMAND コントローラーを押します ⊙ 。
さらに該当する小項目を含む選択リストが開きます。
▶ 該当する小項目を同じように選択します。

操作

① リターンマーク ⮌
② 非表示の警告
③ トピックバー
④ 続きの章へのリンク

▶ **目次ページ内をナビゲートする：** COMAND コントローラーを回す ↺◎↻ またはスライドして ↑◎↓、テキストを前後にスクロールします。
▶ **目次ページから移動する：** COMAND コントローラーを左に回して ←◎、⮌ スイッチ①を選択します。または、COMAND コントローラー横の ⮌ スイッチを押します。
前のページが開きます。

または

▶ COMAND コントローラーを回す ↺◎ またはスライドして ↑◎、目次ページの一番上までスクロールします。
▶ COMAND コントローラーを上方へスライドし ↑◎、トピックバー ③ を選択します。
▶ COMAND コントローラーを回すか ↺◎↻、スライドして ←◎→、希望の項目または小項目を選択します。⊙ を押して確定します。
選択したトピックバーがすべての小項目を含めて開きます。
▶ **リンク ④ を選択する：** テキストをスクロールしているときに、リンクが自動的に強調されます。リンクを選択しているときは、COMAND コントローラーを押します ⊙ 。
希望する目次のページが開きます。
▶ **警告、注意、環境関連の注意および故障情報を開く：** テキストをスクロールすると、カーソルが自動的に警告、環境情報や故障情報のドロップダウン表示にジャンプします。注意を選択した場合は、COMAND コントローラーを押します ⊙ 。
警告、注意、環境関連の注意や故障情報は、同じページで開きます。

- ▶ **デジタル版取扱説明書を終了する：** COMAND コントローラー横の [↩] スイッチを押します。
ウインドウが開き、ブラウザーを終了するかたずねられます。
- ▶ "はい"で確定します。
COMAND システム機能の概要が開きます。
- ▶ **COMAND 機能スイッチを使用してデジタル版取扱説明書から COMAND システムに機能を切り替える：** COMAND システムの [RADIO]、[TEL]、[DISC] または [NAVI] スイッチを押します。
希望するメニューが開きます。
- ▶ **デジタル版取扱説明書に戻る：** COMAND コントローラーを使用して、メニューバーのアイコンを選択し 🌐 、押して確定します 🖲 。
前回表示されていたデジタル版取扱説明書のページが開きます。

ℹ 安全上の理由から、"デジタル版取扱説明書"機能は、走行中はオフになります。

環境保護

全体的な注意事項

環境保護に関する注意

Daimler AG は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の操作状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。 以下のことにご留意ください。

操作状況

- 消費燃料が増えますので、短距離の走行は避けてください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 車両の燃費に注意してください。
- 必要でない場合は、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。 整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動する際は、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速は避けてください。
- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の ⅔ までにとどめてください。
- 渋滞している時は、エンジンを停止してください。

製品情報

メルセデス・ベンツでは、車種ごとに承認されたメルセデス・ベンツ純正部品や交換部品、アクセサリーのご使用をお勧めしています。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や変換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。 メルセデス・ベンツでは、継続的に市場調査を行なっていますが、純正でない部品の使用を認めていません。 したがって、これらのメルセデス・ベンツ車への使用については、メルセデス・ベンツは責任は負いかねます。 独自に、または公的に承認されている部品であっても同様です。 承認されていない部品を使用すると、車両の操作安全性に影響を与えることがあります。

したがって、メルセデス・ベンツでは、車種ごとに承認されたメルセデス・ベンツ純正部品や交換部品、アクセサリーのご使用をお勧めしています。

メルセデス・ベンツ純正部品、承認された交換部品やアクセサリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。 ここでは、許可された技術的改造についての助言を受けたり、部品を専門的に装着することができます。

取扱説明書

全体的な注意事項

最初に車をご使用になる前に、本取扱説明書をお読みになり、車両についての理解を深めてください。

お客様ご自身の安全とより長い期間車両をご使用いただくために、本説明書の指示と警告に関する項目に従ってください。 それらに従わないと、車両を損傷したり、けがをするおそれがあります。

車両の装備

車両の標準およびオプション装備については、別添のさくいんをご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書および整備手帳は重要な書類ですので、必ず車内に保管してください。

使用に関する安全

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

車両へのあらゆる作業、特に安全や安全に関連したシステムに関する作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

いくつかの安全システムはエンジンがかかっているときにのみ機能します。そのため、走行しているときはエンジンを停止しないでください。車両の安全システムが適切に機能しなくなり、その結果、想定したようにお客様や他の方を保護できなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

⚠ **警告**

不適切に行なわれた作業、またはカバー内のケーブルの再配線などの車両への変更は、車両の安全システムが適切に作動しなくなる原因になります。そして、安全システムは、想定したようにお客様や他の方を保護しなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

装着や改造など、車両へのあらゆる作業や変更は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

電気装備やそのソフトウェアへの作業が不適切に行なわれたときは、これらの装備が作動しなくなるおそれがあります。電気装備は、インタフェースを通じてネットワークされています。電気装備の変更は、改造を施していないシステムの誤作動の原因になります。これらの誤作動は、車両の安全な操作、さらにお客様自身の安全を著しく損なうおそれがあります。

電気構成部品へのあらゆる作業や改造は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

オンボードダイアグノシスインターフェース

⚠ **警告**

装備を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。 これは走行中の車両の操作安全性に影響を及ぼすおそれがあります。事故の危険性があります。

いかなる装備品も診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ **警告**

診断機の接続部に接続されている装備品やケーブルをゆるめると、ペダル付近の空間の邪魔になることがあります。 急ブレーキ時や急加速時に、装備品やケーブ

ルがブレーキペダルやアクセルペダルに引っかかるおそれがあり危険です。 ペダルの動作に影響をあたえるおそれがあります。 事故の危険性があります。

運転者の足元に装備品やケーブルを装着しないでください。

! エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機の接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で診断機器のみを接続するように想定されています。

診断機器を診断機の接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。 これにより、次回の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなることにつながります。

日常点検および点検整備

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。 それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

オートマチックトランスミッションの使用

全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

"走行および駐車"の指示もご覧ください。 (▷ 132 ページ).

オートマチックトランスミッションの特徴

クリープ現象

エンジンがかかっていてトランスミッションがトランスミッションポジション D または R のときは、駆動輪に動力が伝達されています。 その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要なあらゆる作業の実施に適した、必要とされる専門的な知識や工具、資格を有しています。このことは特に安全性に関する作業に当てはまります。

整備手帳にある注意に従ってください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全性に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツはメルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

車両に記憶されているデータ

車両に装備されている電子部品の番号はデータメモリーに記憶されています。

これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します：

- 車両の作動状態
- イベント
- 故障

この技術情報は、一般的に構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態について記録します。

例えば、以下の通りです：

- システム構成部品の作動条件。 バッテリー液レベルなどを含みます。
- 車両および各車両構成部品からの状況メッセージ。 これには、ホイール回転数 / 速度、減速、横方向の加速度などを含みます。
- 重要なシステム構成部品の故障および異常。 これには、ライト、ブレーキなどを含みます。
- 特殊な走行状況での車両の反応。 これには、エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などを含みます。
- 環境条件。 これには、外気温度などを含みます。

このデータは以下の技術的なことにのみ使用されます：

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 車両機能の最適化

データを使用して、長距離走行に関する車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報がイベントおよび故障メモリーから読み出されます。

メンテナンスには以下が含まれます：

- 修理
- メンテナンス処理
- 保証請求
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。 必要に応じて、詳細をそこで確認することができます。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

通常の車両操作で、サービスデータは他の情報と併せて個人情報となる可能性があり、該当機関への提出を求められる場合があります。

以下に例を示します：

- 事故レポート
- 車両の損傷
- 目撃者証言

さらに、お客様と契約により同意し追加した機能は、同様に独自の車両データを車両から取得することができます。 このような追加機能は、非常時の車両位置などを含んでいます。

著作権の情報

全体的な注意事項

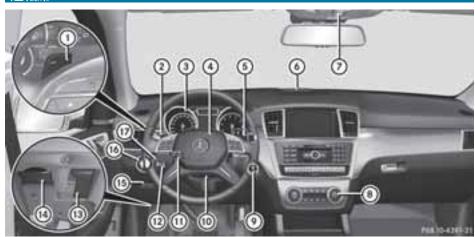
車両やその電子部品で使用されているフリーのオープンソースソフトウェアのライセンスの情報を以下のウェブサイトで見つけることができます。

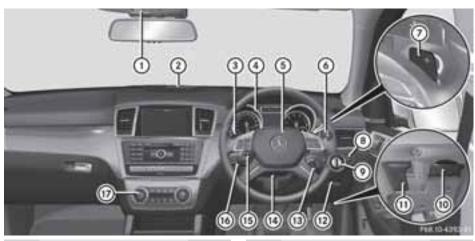
http://www.mercedes-benz.com/opensource

全体的な注意事項

⚠ **警告**

ライターを車内に放置しないでください。 気温が高くなると、車内の温度が急激に上昇することがあります。 これによりライターが爆発し、車両に引火するおそれがあります。

運転席

	機能	ページ
①	パドルシフト	
②	コンビネーションスイッチ	108
③	メーターパネル	34
④	ホーン	
⑤	DIRECT SELECT（ダイレクトセレクト）レバー	132
⑥	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	160
⑦	ルーフオペレーティングユニット	39
⑧	エアコンディショナーシステム	120
⑨	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	127 128

	機能	ページ
⑩	手動調整式ステアリングの調整	
⑪	電動調整式ステアリングの調整 ステアリングヒーター	
⑫	クルーズコントロールレバー	144
⑬	ボンネットを開く	247
⑭	オンボードダイアグノシスインターフェース	28
⑮	パーキングブレーキ	
⑯	ランプスイッチ	106
⑰	ナイトビューアシストプラス	165

	機能	ページ
①	ルーフオペレーティングユニット	39
②	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	160
③	コンビネーションスイッチ	108
④	メーターパネル	34
⑤	ホーン	
⑥	DIRECT SELECT（ダイレクトセレクト）レバー	132
⑦	パドルシフト	
⑧	ナイトビューアシストプラス	165
⑨	ランプスイッチ	106

	機能	ページ
⑩	オンボードダイアグノシスインターフェース	28
⑪	ボンネットを開く	247
⑫	パーキングブレーキ	
⑬	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	127 128
⑭	手動調整式ステアリングの調整	
⑮	電動調整式ステアリングの調整 ステアリングヒーター	
⑯	クルーズコントロールレバー	144
⑰	エアコンディショナーシステム	120

メーターパネル

ディスプレイおよび操作

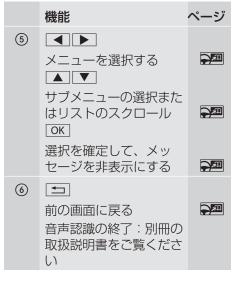
	機能	ページ
①	セグメント付きスピードメーター	
②	燃料計	
③	タコメーター	
④	冷却水温度計	
⑤	マルチファンクションディスプレイ	
⑥	メーターパネル照明	

警告灯と表示灯

	機能	ページ
①	ヘッドライト表示灯	
②	サイドランプ表示灯	
③	ESP®表示灯	199
④	ハイビーム表示灯	
⑤	パーキングブレーキ警告灯（赤色）	
⑥	パーキングブレーキ警告灯（黄色）	
⑦	ブレーキ警告灯（黄色）	199
⑧	車間距離警告灯	199
⑨	方向指示灯	
⑩	SRS 警告灯	199
⑪	シートベルト警告灯	199
⑫	ディーゼルエンジン：予熱	
⑬	冷却水警告灯	199
⑭	リアフォグランプ表示灯	
⑮	エンジン警告灯	
⑯	燃料残量警告灯	
⑰	ESP® オフ表示灯	199
⑱	ABS 警告灯	199
⑲	ブレーキ警告灯（赤色）	199

マルチファンクションステアリング

	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	
②	COMAND ディスプレイ	
③	音声認識の開始：別冊の取扱説明書をご覧ください	
④	通話を拒否する、または終了する 電話帳 / 発信履歴を終了する 発信する、または受ける リダイアルメモリーに切り替える + − 音量の調整 ミュート	

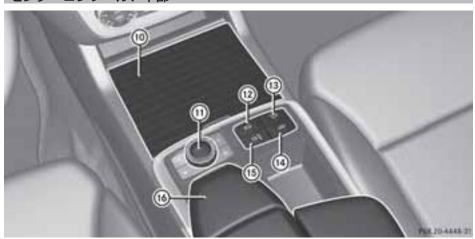
	機能	ページ
⑤	◀ ▶ メニューを選択する ▲ ▼ サブメニューの選択またはリストのスクロール OK 選択を確定して、メッセージを非表示にする	
⑥	前の画面に戻る 音声認識の終了：別冊の取扱説明書をご覧ください	

センターコンソール

センターコンソール、上部

	機能	ページ
①	COMAND システム	
②	シートヒーター	102
③	シートベンチレーター	102
④	OFF P パークトロニック	160
⑤	ECO ECO スタート / ストップ機能	

	機能	ページ
⑥	非常点滅灯	
⑦	助手席エアバッグオフ表示灯	55
⑧	OFF ESP®表示灯	71

センターコンソール、下部

	機能	ページ
⑩	小物入れ カップホルダー 灰皿 ライター 電源ソケット	
⑪	COMAND コントローラー	
⑫	オフロードプログラムの選択（AIR マティックサスペンションパッケージ装備車両） 走行モード選択 走行モード選択（AMG 車）	178
⑬	DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）	176

	機能	ページ
⑭	レベルコントロール（AIR マティックサスペンションパッケージ装備車）	157
⑮	アダプティブダンピングシステム（AIR マティックサスペンションパッケージ装備車） AMG RIDE CONTROL 調整（AMG 車）	159
⑯	小物入れ	

ルーフオペレーティングユニット

	機能	ページ
①	左側読書灯点灯 / 消灯の切り替え	
②	フロントルームライト点灯	
③	リアルームライト点灯 / 消灯の切り替え	
④	フロントルームライト消灯 / ルームライト自動コントロールのオフ	
⑤	右側読書灯点灯 / 消灯の切り替え	
⑥	スライディングルーフの開閉	94
	電動ブラインド付きパノラミックスライディングルーフの開閉	95
⑦	メガネケース	
⑧	けん引防止機能の解除	77
⑨	ルームミラー	
⑩	室内センサーの解除	78

ドア操作パネル

	機能	ページ
①	ドアレバー	
②	車両の施錠 / 解錠	
③	M 1 2 3 シート、ドアミラーおよびステアリングの設定の保存（メモリー機能）	
④	シートの調整	101
⑤	ドアミラーの電動調整および格納 / 展開	
⑥	サイドウインドウの開閉	
⑦	テールゲートの開閉	90
⑧	後席のサイドウインドウのオーバーライド機能の設定 / 解除	

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

乗員安全装備

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

整備作業が適切に行なわれていない場合は、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。 その結果、車両のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。また、安全装備が本来の機能を発揮しなくなり、運転者や同乗者を保護することができなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

⚠ **警告**

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなったり誤作動し、傷害を負うおそれがあります。

- シートベルトとベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

不適切な作業を行なうと、衝突の際に車両の減速度がシステムを作動させるのに十分な高いレベルに達しても、エアバッグやシートベルトテンショナーが正常に作動しなくなったり、誤作動するおそれがあります。 決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、決して車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置） は相互に補完し、連動して作動する乗員保護装置です。(▷ 43 ページ) これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する危険性を軽減して安全性を高めます。 ただし、シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置の機能を十分に発揮させるため、以下の点に注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください。 (▷ 100 ページ)
- シートベルトを正しく着用してください。 (▷ 50 ページ)
- エアバッグが膨らむのを妨げる障害物などがないことを確認してください。(▷ 44 ページ)
- ステアリングを正しい位置に調整してください。 (▷ 100 ページ)
- 乗員保護装置を改造しないでください。

エアバッグは、シートベルトを着用した乗員の保護機能を高めます。 そのため、エアバッグはシートベルトの効果を補助する乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。 車両にエアバッグが装備されていても、乗員全員が常に正しくシートベルトを着用する必要があります。 エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。 たとえば、エアバッグの作動が正しく着用したシートベルトの保護効果を高めると判断されない場合、エアバッグは作動しません。

エアバッグの作動はシートベルトを正しく着用している場合にのみ、高められた保護を提供することができます。シートベルトは第一に、エアバッグとの最適な位置に車両の乗員を保つ補助になります。 第二に、正面衝突などの際に、シートベルトは衝撃を受けた方向に車両の乗員が投げ出されることを防ぐことができます。

SRS（乗員保護補助装置）

概要

SRS は、以下のシステムで構成されています。

- SRS 警告灯 [SRS]
- エアバッグ
- クラッシュセンサー付きエアバッグコントロールユニット
- フロントシートベルト用および後席の外側シートベルト用シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS は、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。 また事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。

SRS 警告灯

⚠ **警告**

SRS に異常が発生すると、各システムが偶発的に作動したり、減速度が大きい事故が起きても正常に作動しなくなるおそれがあります。

以下のときは、異常が発生しています。

- エンジンスイッチをオンにしても SRS 警告灯 [SRS] が点灯しないとき
- エンジンを始動して数秒間経過しても SRS 警告灯 [SRS] が消灯しないとき
- エンジンをかけた状態で SRS 警告灯 [SRS] が再び点灯するとき

このような場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。

SRS の機能は、エンジンスイッチをオンにしたときやエンジンの作動中に定期的に診断されています。 そのため、異常が発生するとただちに検出することができます。

メーターパネルの SRS 警告灯 [SRS] は、イグニッションをオンにすると点灯します。 エンジンが始動した後、数秒以内に消灯します。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグの作動

衝突の初期段階で、エアバッグコントロールユニットは、以下のような車両の減速度または加速度に関する重要な物理的データを判断します。

- 衝撃の作用した時間
- 方向
- 衝撃の強さ

これらのデータを判断して、エアバッグコントロールユニットは衝突の初期段階でシートベルトテンショナーを事前に作動させます。

車両の縦方向の減速度または加速度がさらに大きくなると、フロントエアバッグも作動します。

車両には、衝撃の大きさに応じて展開力を 2 段階に制御するデュアルステージ式フロントエアバッグが装備されています。 エアバッグコントロールユニット

は、衝突の際に車両の減速度または加速度を判断します。 第 1 段階では、フロントエアバッグは乗員の負傷を防ぐのに最適なガス圧で膨らみます。 数ミリ秒以内に第 2 段階の作動基準値に達すると、フロントエアバッグは最大限に膨らみます。

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動基準値は、車両の減速度または加速度に応じて適切に設定されます。 このプロセスは事前に実行されます。 作動決定プロセスは、衝突の初期段階で早い時期に行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形状態
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを展開させる基準とはなりません。

衝突時にボンネットやフェンダーなど車体が著しく変形していながら、エアバッグが作動しない場合があります。 変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。 反対に、車体の変形状態が軽度であってもエアバッグが作動することがあります。 縦方向のボディメンバーなど高剛性の部品が衝撃を受けたため車両の減速度が十分高いレベルに達した場合などです。

ℹ フロントのシートベルトテンショナーは、フロントシートのシートベルトのプレートが正しくバックルに差し込まれている場合のみ作動させることができます。

ℹ 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。 各エアバッグシステムは、それぞれ個別に作動します。

エアバッグシステムの作動条件は、事故の大きさ（特に車両の減速度または加速度）および以下のような事故の形態に基づいて決まります。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転や転覆

エアバッグ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大なけがをしたり死亡したりする危険性を軽減するため、以下の注意事項をお守りください。

- 妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バッククレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。 ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。
- 身長約 150 cm 未満あるいは 12 歳未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに乗せて身体を固定してください。
- 乗員全員がシート位置を正しく調整し、エアバッグとの間隔をできるだけ確保してください。 運転席シートの位置は、安全運転を妨げないように調整してください。 運転者の胸と運転席エアバッグの距離をできるだけ確保してください。
- 助手席シートはできるだけ後方に移動してください。 特に、助手席にチャイルドセーフティシートを装着して子供

を乗せるときは助手席シートを後方に移動することが大切です。

- サイドバッグやウインドウバッグが膨らむウインドウ周辺には頭部を寄りかけないでください。特に、お子様にはご注意ください。
- 助手席シートエアバッグの機能が解除されている場合を除いて、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席に設置しないでください。 チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着する場合は、助手席エアバッグが解除されます。 助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が点灯し続けます。

  助手席にチャイルドセーフティシート検知システムが装備されていない場合や、後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。 やむを得ず助手席に前向きのチャイルドセーフティシートを装着する場合は、助手席シートをもっとも後ろの位置に調整してください。
- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れないでください。
- 特に走行中は、運転席・助手席フロントエアバッグの格納部にもたれかかったりしないでください。
- ダッシュボードの上に足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側を握ってください。 それにより、エアバッグを十分に膨らませることができます。 ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、運転者がけがをするおそれがあります。
- ドアに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックに、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- ドアにカップホルダーなどのアクセサリーを取り付けないでください。

エアバッグは瞬時に作動する必要があるため、エアバッグの作動によりけがをする危険性を排除することは不可能です。

⚠ 警告

エアバッグを確実に機能させるため、以下のエアバッグ格納部には、バッジ、ステッカーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- ステアリング下部のニーバッグ格納部
- 助手席フロントエアバッグカバー
- シートバックレストの外側

⚠ 警告

エアバッグが作動すると、少量の白煙が発生することがあります。 この白煙を吸い込むと、ぜんそくや肺疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。

呼吸障害を防止するため、安全を確認のうえただちに車外に出てください。 または、ウインドウを開いて新鮮な空気を車内に取り込んでください。 この白煙は、人体への影響はありません。また、火災の心配はありません。

⚠ 警告

エアバッグが作動した直後は、エアバッグの構成部品が熱くなっています。 やけどの原因となりますので、エアバッグの構成部品には触れないでください。

作動したエアバッグは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。 交換しないと、次に事故が起こった際にエアバッグで乗員を保護できません。

衝突の際にエアバッグが作動すると、乗員の身体の移動を抑えて拘束します。

エアバッグが作動するときに、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生するこ

とがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出される白煙は人体への影響はありません。 SRS警告灯 [SRS] が点灯します。

エアバッグの格納場所には、エアバッグのマークが付いています。

取付け位置

エアバッグ	格納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード部
運転席ニーバッグ	ステアリングコラム下部の運転席パネル
サイドバッグ	運転席と助手席、および 2 列目シートの外側シートのシートバックレスト外側
ウインドウバッグ	A ピラー側方から C ピラーのルーフフレーム

フロントエアバッグ

! 助手席シートには重い物を置かないでください。 助手席シートに乗員が座っているとシステムが誤って判断する原因になり、衝突の際に助手席エアバッグが作動するおそれがあります。作動したエアバッグは新品と交換してください。

運転席エアバッグ ① はステアリング正面で膨らみ、助手席エアバッグ ② はグローブボックスの正面と上部で膨らみます。

フロントエアバッグは、運転者と乗員の頭部や胸部を保護する効果を高めます。

ヘッドバッグは以下のときに作動します。

- 衝突の初期段階で、車両の縦方向に一定以上の高い加速度または減速度を検知したとき
- エアバッグの作動が、シートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルト着用の有無に応じて作動します。
- 車内の他のエアバッグの作動に関係なく作動します。

車両が横転または転覆したときは、フロントエアバッグは通常作動しません。 システムが車両の縦方向に一定以上の減速度を検知したときに、フロントエアバッグは作動します。

助手席シートチャイルドセーフティシート自動検知装備車両： 助手席エアバッグは、助手席に乗車しているとシステムが判断した場合にのみ作動します。センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 [OFF] は点灯しません(▷ 55 ページ)。

チャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合、以下のときはセンターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] は点灯しません。

- チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダーを内蔵していないチャイルドセーフティシートが装着されているとき、または
- チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダーを内蔵しているチャイルドセーフティシートが正しく装着されていないとき

運転席ニーバッグ

運転席ニーバッグ ① はステアリングコラムの下で展開します。運転席ニーバッグは常に運転席フロントエアバッグと一緒に展開します。運転席ニーバッグは、正面衝突の際に特定の規定値を超えるとフロントエアバッグと一緒に作動するように設計されています。運転席ニーバッグは、シートベルトを正しい位置で着用することで最適に作動します。

運転席ニーバッグは、運転者の以下のような傷害を軽減して乗員保護効果を高めます。

- 膝のけが
- 大腿部のけが
- 下肢のけが

サイドバッグ

⚠ **警告**

シートカバーを装着するときは、安全のため必ずメルセデス・ベンツ車に適合する純正のシートカバーを使用することをお勧めします。

シートカバーには、サイドバッグ専用の裂けた縫い目が必要です。専用の縫い目がないと、事故のときにサイドバッグが適切に作動しなくなり、本来の保護効果を発揮することができません。 適切なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めください。

⚠ **警告**

エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。 そのため、ドアやドアトリムにスピーカーを追加装備したり改造したりしないでください。 ドアが損傷すると、サイドバッグの作動に悪影響を与えるおそれがあります。

フロント SRS サイドバッグ ① および 2 列目シートの SRS サイドバッグ ② はシートバックレスト側面で膨らみます。

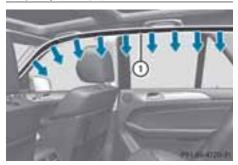
作動すると、サイドバッグは車両の衝撃が発生した側の乗員の胸部および前席では骨盤に補助で保護を行います。 ただし、以下は保護しません。

- 頭部
- 頸部
- 腕

サイドバッグは以下の条件で作動します。

- 衝撃を受けた側
- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。
- シートベルトテンショナーの作動に連動しません。

車両が横転または転覆した場合、サイドバッグは通常は作動しません。 システムが車両の横方向の高い減速度または加速度を検知するか、または車両が横転し、サイドバッグの作動がシートベルトによるものに補助で保護を行なうことができるとシステムが決定した場合は、サイドバッグは作動します。

ウインドウバッグ

ウインドウバッグ ① は、車両の衝撃が発生した側の乗員の胸部や腕ではなく、頭部の保護レベルを高めます。

ウインドウバッグはルーフフレーム側面に内蔵され、A ピラーから C ピラー間の範囲で作動します。

ウインドウバッグ は以下の条件で作動します。

- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- 衝撃を受けた側
- 車両が横転または転覆した際に、ヘッドバッグの作動がシートベルトによる乗員保護効果を高めることができるとシステムが判断したときは、運転席側と助手席側の両方で作動します。
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- 助手席乗員の有無に関わらず作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。

PRE-SAFE®（予期乗員保護）

⚠ **警告**

シートの位置を調整するときは、乗員が挟まれてけがをしないように注意してください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

PRE-SAFE® は車が危険な状態にあることを察知して、乗員保護に備えるための機能を提供します。

PRE-SAFE® は以下のときに作動します。

- 緊急ブレーキの状況などで BAS が作動した場合
- ディストロニック・プラス装備車で BAS プラスが強力に介入した場合

- ディストロニック・プラス装備車で、レーダーセンサーが特定の状況で差し迫った衝突の危険を検知したとき
- 物理的限界を超えて車両が著しくアンダーステアやオーバーステアになった場合など、危機的な走行状況で

PRE-SAFE® は感知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトを引き込み、シートベルトの張力を高めます。
- メモリー機能付き車両：助手席シートが好ましくない位置にある場合は調整されます。
- マルチコントロールシートバック装備車：バックレストのサイドサポートの空気圧が増加します。
- 車が横滑りすると、スライディングルーフ / パノラミックスライディングルーフおよびサイドウインドウが少し開いた状態まで閉じます。

事故が起こることなく車が危険な状態から脱したときは、PRE-SAFE® がシートベルトの張力を緩めます。 マルチコントロールシートバック装備車では、サイドサポートの空気圧が再び低下します。 PRE-SAFE® により変更されたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まないとき

▶ 停車中に、バックレスト角度やシートの前後位置を少し動かします。
シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルトの調整や PRE-SAFE® に内蔵されたコンビニエンス機能に関するさらなる情報は、"シートベルトの調整" (▷ 51 ページ) にあります。

シートベルト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの本来の保護機能が十分に発揮されません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。

- シートベルトは身体に密着させ、ねじれのないように着用してください。 コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。 肩ベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。 腰ベルトは、腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。 必要であれば、ベルトを少し押し下げた後、再び引き戻してたるみを取ってください。
- とがった物やこわれやすい物にベルトストラップをかけないでください。これは特に、メガネ、ペン、鍵などが衣類の中、または表面にあるときがそうです。事故の際にシートベルトが損傷して裂け、運転者や他の乗員がけがをするおそれがあります。
- 各シートベルトは必ず 1 人の乗員が使用します。 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時やブレーキ時、衝突時に子供を保護することができなくなります。 その結果、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長約 150 cm 未満の乗員は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため身長約 150 cm 未

満の乗員は、体格に応じた専用の乗員保護装置を使用してください。
- 身長約 150 cm 未満または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため、適切なシートの適切なチャイルドセーフティシートに常に固定してください。 さらなる情報は、本取扱説明書"安全装備"の章にある"子供を乗せるとき"をご覧ください。 チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着指示に従ってください。
- 乗員が着用しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ **警告**

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトの保護機能が十分に発揮できません。 衝突の際に、乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートが正しい位置に調整され、バックレストがほぼ垂直になっていることを確認してください。

⚠ **警告**

汚れたり損傷しているシートベルトや、改造されたシートベルト、事故で衝撃を受けたシートベルトは、本来の保護機能を発揮することができません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトに汚れや損傷がないか定期的にチェックしてください。

損傷したシートベルトや事故で衝撃を受けたシートベルトはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

安全のため、必ず車両に適合するメルセデス・ベンツ純正のシートベルトを使用してください。

シートベルトは、衝突の際に乗員の身体の移動を最も効果的に抑えることができる拘束装置です。 乗員を拘束することにより、乗員が車内の部品にぶつかるのを防ぎます。

シートベルトの着用

▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い位置にします。 (▷ 100 ページ)

▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくり引き出します。

▶ ベルトにねじれがないように、シートベルトの肩の部分を肩の中央にかけ、腰の部分を腰の位置にかけます。

▶ プレート ② をバックル ③ に差し込みます。
シートベルトの自動調整機能：必要に応じて、フロントシートベルトが乗員の上半身に密着するように自動的に調整します。 (▷ 51 ページ)

▶ 必要であれば、シートベルトの高さを適切に調整します。 (▷ 51 ページ)

▶ 必要であれば、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除スイッチ ④ でのシートベルトの解除に関するさらなる情報は、"シートベルトの解除"(▷ 51 ページ)をご覧ください。

シートベルトの調整

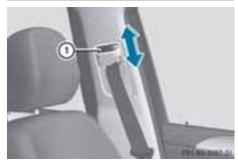
シートベルト調整は、運転席および助手席シートベルトが乗員の上半身に密着するように、自動的にシートベルトを調整します。

以下のときは、シートベルトを少し引き込みます。

- シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ後、イグニッション位置を **2** にしたとき
- イグニッション位置を **2** にした後、シートベルトのプレートをバックルに差し込んだとき

シートベルト調整は、乗員とシートベルトの間にたるみがあることを検知すると、自動的に乗員の上半身に密着するよう調整します。 調整中は、シートベルトを強く保持しないでください。 シートベルト調整は、マルチファンクションディスプレイで選択/解除できます。(▷ 181 ページ)

シートベルト調整は、PRE-SAFE®コンビニエンス機能の一部です。 PRE-SAFE®に関するさらなる情報は"PRE-SAFE®（予見的乗員保護システム）" (▷ 48 ページ) にあります。

シートベルトの高さ調整

フロントシートのシートベルトの高さを調整することができます。シートベルトの上部が肩の中央にかかるような高さにベルトを調整します。

- ▶ **上げる：** ベルトアンカーをそのまま引き上げます。
ベルトアンカーはお好みの位置に調整できます。
- ▶ **下げる：** ベルトアンカーのリリース ① を押して保持します。
- ▶ そのままベルトアンカーを下にスライドさせます。
- ▶ ベルトアンカーのリリース ① をはなし、ベルトアンカーがロックされていることを確認します。

シートベルトの解除

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。 ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。 その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。 損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

① ベルトアンカー

② ベルト先端

③ バックル

④ 解除スイッチ

▶ 解除スイッチ ④ を押して、ベルト先端 ② をベルトアンカー ① の方向に戻します。

運転席および助手席のシートベルト着用警告

メーターパネルのシートベルト警告灯 [警告灯] は、乗員にシートベルトの着用を促します。 警告灯は点灯し続けるか点滅します。 また、警告音が鳴る場合もあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト警告灯 [警告灯] が消灯し、警告音が鳴り止みます。

特定の国のみ：運転者と助手席乗員がシートベルトを着用しているかどうかに関わらず、エンジン始動後にシートベルト警告灯 [警告灯] が約 6 秒間点灯します。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、警告灯が消灯します。

ℹ [警告灯] に関するさらなる情報は、"メーターパネルの警告灯と表示灯、シートベルト" (▷ 199 ページ) をご覧ください。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター

⚠ **警告**

シートベルトテンショナーは一度作動すると、保護機能がなくなり再使用できません。 したがって、作動したシートベルトテンショナーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

シートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄規則をお守りください。 この規則について詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

❗ 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。 衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

▶ 火薬式シートベルトテンショナーが作動していないことを確認するために、事故の後は必ずシートベルトを点検してください。
シートベルトテンショナーが作動していた場合は、それらを交換しなければなりません。

フロントシートベルトと後席外側のシートベルトには、シートベルトテンショナーが装備されています。

シートベルトテンショナーは、衝突時にシートベルトを瞬時に巻き上げ、乗員の身体に密着させる働きをします。

ただし、シートベルトテンショナーは、適切でないシート位置や正しく着用していないシートベルトを補正することはできません。

シートベルトテンショナーは、乗員の上体をバックレストに引き寄せるためのものではありません。

ベルトフォースリミッター付きシートベルトでは、ベルトフォースリミッターが作動して衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと同期しています。その結果、乗員にかかる力はより広い範囲に分散されます。

シートベルトテンショナーは、次のような場合に作動します。

- エンジンスイッチがオンになっているとき
- 乗員保護装置が正常に作動しているとき。"SRS 警告灯" (▷ 43 ページ)を参照してください。
- 助手席シートに乗車していて、助手席側のベルト先端がバックルに固定されているとき

左右リアシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態に関わらず、個別に作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の形態や大きさに応じて次のような場合に作動します。

- 正面衝突または追突の際に、衝突の初期段階で車両の縦方向の減速度または加速度が急激に大きくなった場合
- 側面衝突の際に、衝撃を受けた反対側で車両の横方向の加速度または減速度が急激に大きくなった場合
- 車両が横転または転覆した状況で、シートベルトテンショナーが保護機能を高めるとシステムが判断した場合

エアバッグが作動するときに、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生することがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出される白煙は人体への影響はありません。 SRS 警告灯 [SRS] が点灯します。

事故のとき

事故のとき

- ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。
- ▶ 非常点滅灯を点滅させます。
- ▶ パーキングブレーキをかけます。
- ▶ 周囲の安全を確認して、乗員は車から降りてください。
- ▶ 危険な場所に誰も近づかないようにしてください。 フェンスなどで区切った安全な場所に乗員を避難させてください。
- ▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車道路や高速道路では、後続の交通に警告するため、停止表示板を使用することが法律で義務付けられています。

車が動かなくなったとき

- ▶ シフトポジションを **N** にします。
- ▶ パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 安全な場所まで車を押して移動してください。

  必要な場合は、同乗者か付近の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

ⓘ エンジンスイッチをオンにし車輪が回転し始めると、車が自動的に施錠されます。 そのため、車を押すときやダイナモメーターで性能をテストするときなどは、車外に閉め出されるおそれがあります。

ⓘ 踏切内で車が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。 緊急を要する場合は、非常信号用具も使用してください。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

重要な安全上の注意

⚠ 警告

急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供が致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 身長が約 1.50m 未満および 12 歳以下の子供は常に、車両の適切なシートに装着した特別のチャイルドセーフティシートで固定しなければなりません。 シートベルトは子供向けに設計されていないため、これは必要なことです。
- 助手席の後ろ向きのチャイルドセーフティシートに子供を固定して走行しないでください。例外：助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されている車両でチャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダー付きチャイルドセーフティシートに子供が固定されている場合
- 助手席に前向きのチャイルドセーフティシートを固定する場合は、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。
- 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時に発生する力により、子供を保護することができなくなります。 子供が車内の部品に激しくぶつけられ、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートに固定してあっても、保護者のいない子供を車両に残さないでください。 子供が車両の各部に触れてけがをするおそれがあります。 また、車内が高温または低温になった状態では、命に関わります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。 チャイルドセーフティシートの各部が高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。 子供が車外に出てけがをしたり、通りかかった車にはねられ致命的なけがをするおそれがあります。

ホールド機能に関する注意事項をご覧ください。これは同じキーワードで見つけられます。

⚠ 警告

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供や他の乗員がけがをする危険性が高くなります。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

車内に重い荷物やかたい荷物を積むときは、確実に固定してください。 詳しくは、さくいんにある"荷物を積むときの注意点"をご覧ください。

子供が乗車して走行するときは、メルセデス・ベンツ車のために推奨されたチャイルドセーフティシートを使用して子供を固定してください。チャイルドセーフティシートは、子供の年齢、重量および体格に適していなくてはなりません。チャイルドセーフティシートはできれば適切な後席に装着してください。 走行中は、子供が固定されていることを確認してください。

チャイルドセーフティシートは、一覧表に案内された製品のご使用をお勧めします。(▷ 62 ページ) 適切なチャイルドセーフティシートについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

ℹ チャイルドセーフティシートを清掃するときは、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品のご使用をお勧めします。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドセーフティシート（助手席）

⚠ 警告

助手席フロントエアバッグの機能が解除されていないときは、以下のように対処してください。

- 助手席エアバッグの展開により、助手席シートのチャイルドセーフティシートに固定されている子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。展開したときに子供が助手席エアバッグのすぐそばにいる場合は、特に危険です。
- 後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗せないでください。 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは、必ず適切なリアシートに装着してください。
- 前向きのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して子供を乗せるときは、必ず助手席シートをできるだけ後方に下げてください。

次のような場合、助手席フロントエアバッグの機能は解除されません。

- 助手席シートにチャイルドセーフティシートセンサーが装備されていない車両
- 助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されている車両で、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されていない場合
- 助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装着されている車両で、助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が点灯しない場合

このような危険に注意を促すため、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両側に警告ステッカーが貼られています。

純正のチャイルドセーフティシートについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

助手席側サンバイザーに貼付されている警告ステッカー

後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートの警告マーク

前方に装着されているエアバッグで保護されているシートで、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを使用しないでください。

チャイルドセーフティシートセンサー（助手席）

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートを装着していても助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。 助手席エアバッグが作動した場合、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

安全装備

▷▷

以下のように対処してください。

- 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。
- 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着してください。

または

- 助手席には必ず前向きのチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でチャイルドセーフティシートセンサーの点検を受けてください。

助手席のチャイルドセーフティシートセンサーが正しく機能し、通信を行なうことができるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。 チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接触するようにしてください。 チャイルドセーフティシートが適切に装着されていないと、事故の際に保護機能を発揮することができなくなり、傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

助手席シートには、以下のような電子機器を置かないでください。

- 電源の入ったノートパソコン
- 携帯電話
- IC カードや磁気カード

電子機器からの信号がチャイルドセーフティシート自動検知センサーシステムへの干渉の原因になることがあります。 システムの故障につながります。 チャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダーがチャイルドセーフティシートに装着されていなくても、助手席エアバッグオフ表示灯 が点灯する原因になることがあります。 事故の間に助手席エアバッグが作動しなくなります。 エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわしたときに、SRS 警告灯 が点灯したり、助手席エアバッグオフ表示灯 が少しの間点灯しなくなる可能性もあります。

車両の助手席にチャイルドセーフティシート自動検知がない場合は、特別なステッカーによって示されます。 ステッカーは、助手席側のダッシュボード側面に貼られています。 助手席ドアを開くと、このステッカーが見えます。

助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知のない車両：エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわすと、助手席エアバッグオフ表示灯 が少しの間点灯します。しかし、機能はなく、助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されていることは示していません。

チャイルドセーフティシート用の助手席シートセンサーシステムは、チャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダー付きの特別なメルセデス・ベンツのチャイルドセーフティシートが装着されているかどうかを検知します。 この

ような場合、助手席エアバッグオフ表示灯 [icon] ① が点灯します。 助手席エアバッグが作動しなくなります。

ⓘ チャイルドセーフティシートセンサーにより助手席フロントエアバッグの機能が解除されている場合でも、助手席側の以下の装置は通常どおりに作動します。

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

リアシート用の ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

⚠ **警告**

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置により固定されているチャイルドセーフティシートは、体重約 22 kg 以上の子供には十分な保護機能を発揮することができません。 そのため、体重約 22 kg 以上の子供は、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置で固定されたチャイルドセーフティシートで固定しないでください。 同様に子供の体重が 22 kg 以上の場合は、チャイルドセーフティシートを車両のシートベルトで固定します。さらに、チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの取扱説明書およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法の説明を遵守してください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートは、車両の適切なシートに正しく装着されていないと、保護機能を発揮することができません。 事故、急ブレーキまたは突然の進路変更のときに、子供を保護することができなくなります。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。
このため、チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの取扱説明書およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法の説明を遵守してください。

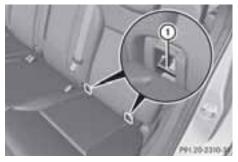
安全上の理由で、チャイルドセーフティシートをリアシートに装着するときは、メルセデス・ベンツ車のために特別にテストおよび承認された ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置付きのチャイルドセーフティシートのみを使用してください。

正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。 チャイルドセーフティシートを装着したら、左右の固定リングに確実に固定されているか必ず確認してください。

⚠ **警告**

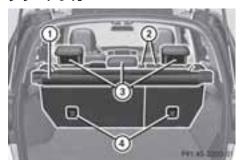
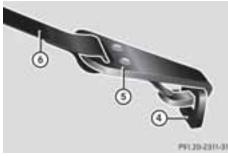
チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護機能が得られなくなるおそれがあります。 その結果、衝突時、急ブレーキ時、急な進路変更時に、この装置で固定された子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央リアシートのシートベルトを挟み込まないように注意してください。 シートベルトが損傷するおそれがあります。

- ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を取り付けます。 ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。

ISO-FIX は、リアシートへの、特別に設計されたチャイルドセーフティシートの規格化された固定システムです。2 つの ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定リング ① は後席の左と右に装着されています。

テザーアンカー

テザーアンカー

テザーアンカーは、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートとリアシートを接続するための補助的な固定装置です。 この装置は、傷害の危険性をさらに低減します。

テザーアンカーは、両方の外側リアシートのバックレストの背面にあります。

- ヘッドレスト ③ を上方に動かします。
- テザーアンカーを使用して、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。 装着時はチャイルドセーフティシートに付属の取扱説明書の指示に従ってください。
- ヘッドレスト ③ の下の 2 本のヘッドレストのバーの間にテザーアンカーベルト ⑥ を通します。
- ラゲッジルームカバー ① とリアシートバックレスト ②の間でテザーアンカーベルト ⑥ を下方へ通します。
- テザーアンカーベルト ⑥ のテザーアンカーフック ⑤ をテザーアンカー ④ に掛けます。
  以下のことを確認してください。
  - 示すように、テザーアンカーフック ⑤ がテザーアンカー ④ に掛かっていること
  - テザーアンカーベルト ⑥ がねじれていないこと
  - ラゲッジルームカバー ① が装着されている場合は、テザーアンカーベルト ⑥ がリアシートバックレスト ② とラゲッジルームカバー ① の間を通っていること
  - セーフティネットが装着されている場合は、テザーアンカーベルト ⑥ がリアシートバックレスト ② とセーフティネットの間を通っていること
- テザーアンカーベルト ⑥ をピンと張ります。そうするときは、メーカーの装着指示に従ってください。
- 必要であれば、ヘッドレスト ③ を再度下方に少し動かします。 (▷ 102 ページ) テザーアンカーベルト ⑥ の正

しい取り回しが妨げられていないことを確認してください。

チャイルドセーフティシートセンサーのトラブル

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
センターコンソールの [助手席エアバッグオフ表示灯] 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。	助手席シートに、チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーを内蔵するメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートが装着されている。 そのため、助手席エアバッグの機能が解除されている。
センターコンソールの [助手席エアバッグオフ表示灯] 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。 または イグニッションをオンにすると警告灯 [警告灯] が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯 [助手席エアバッグオフ表示灯] が短い間点灯しない。	⚠ 警告 助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない。 チャイルドセーフティシートセンサーが故障している。 けがをするおそれがあります。 ▶ 助手席シートの座面に以下のような電子機器が置いてあるときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • IC カードや磁気カード [助手席エアバッグオフ表示灯] 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままのとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

下表の記号説明

X　このカテゴリー（適応体重）の子供には適切でないシート

U　この重量カテゴリーでの使用が承認されている、"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合

UF　このカテゴリー（適応体重）に適合する"ユニバーサル" の前向きチャイルドセーフティシートに適切

L　推奨されているようなチャイルドセーフティシートに適合。以下の"推奨チャイルドセーフティシート"表 (▷ 62 ページ) をご覧ください。

助手席シート

カテゴリー（適応体重）	助手席エアバッグは解除されません。	助手席エアバッグの機能は解除されている
グループ 0：～ 10 kg	X	UL
カテゴリー（適応体重） 0+：13 kg 以下	X	UL

カテゴリー（適応体重）	助手席エアバッグは解除されません。	助手席エアバッグの機能は解除されている
カテゴリー（適応体重） I： 9 ～ 18 kg	UF	UL
カテゴリー（適応体重） II：15 ～ 25 kg	UF	UL
グループ III：22 ～ 36 kg	UF	UL

助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知のある車両： 助手席エアバッグが作動しないときは、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付き"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートを装着しなければなりません。助手席エアバッグオフ表示灯 [icon] が点灯していなければなりません。

リアシート

カテゴリー（適応体重）	左、右	センター部
カテゴリー（適応体重） 0：10 kg 以下	U	U
カテゴリー（適応体重） 0+：13 kg 以下	U	U
カテゴリー（適応体重） I： 9 ～ 18 kg	U	U
カテゴリー（適応体重） II：15 ～ 25 kg	U	U
グループ III：22 ～ 36 kg	U	U

"ユニバーサル" のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルが目印です。

例：純正チャイルドセーフティシートの認証ラベル

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着するための後席の適合性

下表の記号説明

X　この体重やサイズのカテゴリーでISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートに適さない ISO-FIX のポジション

IUF　この重量カテゴリーでの使用を承認されている"ユニバーサル"カテゴ

リーに属する ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートに適合

IL ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートに適切。下表"推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 62 ページ) をご覧ください。

幼児用ベッドカテゴリー（適応体重）

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
F	ISO/L1	X
G	ISO/L2	X

カテゴリー（適応体重） 0： 約 10 kg 以下、生後 6 カ月位まで

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
E	ISO/R1	IL

カテゴリー（適応体重） 0+： 約 13 kg 以下、生後 15 カ月位まで

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
E	ISO/R1	IL
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL

カテゴリー（適応体重） I： 約 9 ～ 18 kg、9 カ月 ～ 4 歳位

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL
B	ISO/F2	IUF
B1	ISO/F2X	IUF
A	ISO/F3	IUF

純正チャイルドセーフティシート

チャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダーを内蔵しないチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合。

▶ 助手席シートを最後方の位置に動かします。

カテゴリー（適応体重）0： 約 10 kg 以下、生後 6 カ月位まで

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146
注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

カテゴリー（適応体重） 0+： 約 13 kg 以下、生後 15 カ月位まで

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146

注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

カテゴリー（適応体重） I： 約 9 ～ 18 kg、9 カ月 ～ 4 歳位

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 3011 33 04 3011 33	03 3011 33 04 3011 33
注文番号 (A 000 ...)	970 11 0 0	970 16 0 0
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応

カテゴリー（適応体重）II/III： 約 15 ～ 36 kg、4 ～ 12 歳位

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッドフィックス	キッドフィックス
認証番号 (E1 ...)	04 3011 98	04 3011 98
注文番号 (A 000 ...)	970 18 0 0	970 19 0 0
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応

推奨 "ユニバーサル" ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート：
幼児用ベッドカテゴリー（適応体重）

サイズ等級	F、G
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 (E1 ...)	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

カテゴリー（適応体重） 0： 10 kg 以下

サイズ等級	E
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 (E1 ...)	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

カテゴリー（適応体重） 0+： 13 kg 以下

サイズ等級	E	D, C
メーカー	Britax Römer	–
タイプ	ベビーセーフ ISO-FIX プラス	–
認証番号 (E1 ...)	04 301146	–
注文番号	B6 6 86 8224	–
チャイルドセーフティシート検知システム	非対応	–

カテゴリー（適応体重） I： 9 ～ 18 kg

サイズ等級	D、C、B、A
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 (E1 ...)	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

サイズ等級	B1
メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301133 04 301133
注文番号	A000 970 11 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

チャイルドプルーフロック

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

子供が同乗しているときは、リアドアとリアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定してください。 走行中に子供がドアやサイドウインドウを開き、子供や他の乗員がけがをするおそれがあります。

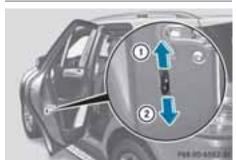
⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートに子供を乗せている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。 子供が車両の各部に触れてけがをするおそれがあります。 また、長時間高温や低温にさらされると、命に関わります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。 チャイルドセーフティシートの各部が高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。 子供が車外に出てけがをしたり、通りかかった車にはねられ重傷を負うおそれがあります。

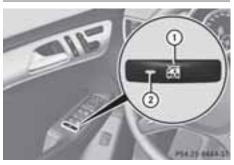
また、ホールド機能に関する注意事項を守ってください。 この情報については、さくいんをご覧ください。

リアドアのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックを使用して、各ドアを個別にロックできます。 チャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。 車が解錠されているときは、車外のドアハンドルを操作してドアを開くことができます。

▶ **作動させる：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ① に押し上げます。

▶ チャイルドプルーフロックが正常に設定されていることを確認します。

▶ **解除する：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ② に押し下げます。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロック

▶ **作動/解除する：** スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点灯する場合は、リアサイドウインドウの操作はできません。 運転席ドアのスイッチを使用してのみ、操作が可能です。 表示灯 ② が消灯している場合は、後席のスイッチを使用しての操作が可能です。

走行安全システム

走行安全装備の概要

この章では、以下の走行安全装備に関する情報を記載しています。

- ABS(**A**nti-lock **B**raking **S**ystem)(アンチロック・ブレーキング・システム)
- BAS(**B**rake **A**ssist **S**ystem)（ブレーキアシスト）
- BAS プラス（**B**rake **A**ssist **S**ystem PLUS）(ブレーキアシストプラス)
- コリジョンプリベンションアシスト
- アダプティブブレーキライト
- ESP®(**E**lectronic **S**tability **P**rogram)（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（**E**lectronic **B**rake-force **D**istribution）(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)
- アダプティブブレーキ
- PRE-SAFE®ブレーキ
- ステアコントロール

重要な安全上の注意

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になると、走行安全装備は事故の危険性を低減できないだけでなく、物理

的法則を超えることもできません。 走行安全装備は、運転を補助するために設計された支援のみを行なうシステムです。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。 常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車との安全な距離を保ってください。 注意して運転してください。

ℹ 記載している走行安全装備は、タイヤと路面が十分に接触しているときにのみ、最大限の効果を発揮することができます。 「タイヤとホイール」の章 (▷ 280 ページ) に記載のタイヤに関する情報やタイヤの溝深さ（摩耗限界値）に注意してください。

冬の走行状況では、必ずウィンタータイヤ (M+S tyres) を、必要であればスノーチェーンを使用してください。 このようにすることで、本章に記載されている走行安全装備の効果を十分に発揮させることができます。

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 65 ページ)

⚠ **警告**

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。 ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。さらに、走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。

注意して運転してください。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で ABS の点検をしてください。

ABS が故障している場合は、走行安全装備を含めた他のシステムも作動しません。ABS 警告灯 (▷ 199 ページ) とメーターパネル (▷ 183 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

ABS は、ブレーキ圧をコントロールすることで、ブレーキ時の車輪のロックを防ぐ装置です。そのため、ブレーキをかけながら、ステアリング操作を続けることができます。

ABS は路面の状況に関わらず、約 8 km/h 以上の速度から作動します。滑りやすい路面では、軽くブレーキを利かせただけのときでも ABS は作動します。

イグニッションがオンのときに、メーターパネルの黄の ABS 警告灯 (ABS) は点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。

ブレーキ操作

▶ **ABS が作動したとき：** 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

▶ **強い制動力が必要なとき：** ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。

ブレーキ時に ABS が作動した場合は、ブレーキペダルに振動を感じます。

ブレーキペダルの振動は、危険な道路状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

オフロード ABS

オフロードプログラムを作動させると、オフロード地形に特に適した ABS システムが自動的に作動します。(▷ 178 ページ)

約 30 km/h 以下の速度では、ブレーキ中は前輪が周期的にロックします。作動中に行なわれる掘る効果により、オフロード走行時は制動距離を減少させま

す。これにより操舵能力が制限されます。

BAS（ブレーキアシスト）

ℹ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 65 ページ)

⚠ **警告**

BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS は、緊急ブレーキ状態で作動します。 ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。 BAS の機能が解除されます。

BAS プラス（ブレーキアシストプラス）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 65 ページ)

BAS プラスは、ディストロニック・プラス装備車でのみ使用できます。

走行中に BAS プラスの効果を発揮させるには、レーダーセンサーをオンにして作動させる必要があります。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

ℹ (▷ 181 ページ)国によっては、レーダーセンサーシステムを解除する必要があります。

レーダーセンサーシステムに関する詳細は、(▷ 308 ページ) をご覧ください。

レーダーセンサーシステムを利用して、BAS プラスは車両の進路にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

レーダーセンサーシステムが誤作動すると、BAS プラスは使用できません。その場合もブレーキシステムは使用でき、ブレーキの倍力装置および BAS は十分に機能します。

BAS プラスは、7 km/h 以上の速度で危険な状態のときにブレーキ操作の支援を行ないます。

約 70 km/h 以下の速度で走行中は、BAS プラスは静止している障害物を検知することもできます。静止している障害物とは、駐停車している車両などです。

前面衝突を避けるため、BAS プラスは以下の状況で必要な制動力を算出します。

- 障害物に接近したとき
- BAS プラスが衝突の危険を感知したとき

約 **30 km/h** 以下の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを踏むと、BAS プラスは作動します。ブレーキはできる限り最後の瞬間で行なわれます。

約 30 km/h 以上の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを素早く踏むと、BAS プラスは交通状況に適した度合いにブレーキ圧を自動的に高めます。

BAS プラスが特に強力な制動力を要求する場合は、PRE-SAFE®（予防的な乗員保護システム）が同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
ABS がホイールのロックを防ぎます。

BAS プラスは以下の状況では解除され、ブレーキは通常通り作動します。

- ブレーキペダルを離したとき
- 衝突の危険がなくなったとき
- 車両前方に検知される障害物がないとき

DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）(▷ 176 ページ)を作動させている場合、BAS プラスも解除されます。

⚠ **警告**

BAS プラスは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。そのような場合、BAS プラスは作動しません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

⚠ **警告**

BAS プラスは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、BAS プラスはすべての危険な状況では作動しない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

車両のフロント端部が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

コリジョンプリベンションアシスト

全体的な注意事項

コリジョンプリベンションアシストは以下に記載するアダプティブブレーキアシストおよび距離警告機能で構成されています。

車間距離警告機能

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 65 ページ)

⚠ **警告**

車間距離警告機能は、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

上記で述べたように、車間距離警告機能はすべての危険な状況で警告を行うとは限りません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

距離警告機能は、常に障害物および複雑な交通状況を明確に識別できるわけではありません。

そのような場合は、距離警告機能は以下のようになることがあります。

- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

常に交通状況に十分注意を払い、距離警告機能のみに頼らないでください。

機能

▶ **作動/解除する：** マルチファンクションディスプレイで距離警告機能を作動または解除します。(▷ 181 ページ)

距離警告機能が作動しているときは、ホールド機能が作動されていない限りは(▷ 155 ページ)、マルチファンクションディスプレイに マークが表示されます。アクティブパーキングアシスト装備車は、ポジション P に入っているか、 あるいは約 35 km/h より速く走行するときは、 マークが表示されます。

距離警告機能は、先行車両との衝突の危険性を最小限にし、またはそのような衝突の影響を低減させるために運転者を補助することができます。距離警告機能が衝突の危険があることを検知すると、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。距離警告機能は、運転者の操作なしに衝突を避けることはできません。

以下の場合、約 30 km/h またはそれ以上の速度になると、距離警告機能が警告を発します。

- 走行速度に対し、数秒間にわたり先行車との距離が近すぎる。そのときは、メーターパネルの距離警告灯 が点灯します。
- 先行車両に急速に接近しているとき。断続的な警告音が鳴り、その後メーターパネルの距離警告灯 が点灯します。

▶ 先行車との距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

走行時に距離警告機能が運転者を支援するためには、マルチファンクションディスプレイで機能を作動させ、作動可能にしなければなりません(▷ 181 ページ)。

システムの性質上、特に複雑な走行状況がシステムの不必要な警告表示の原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの支援で、距離警告機能は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

約 70 km/h までの速度では、距離警告機能は停車または駐車している車両のように、静止している障害物を検知することもあります。

障害物に接近し、距離警告機能が衝突の危険を検知すると、はじめに視覚的および聴覚的両方で運転者に警告を行ないます。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキアシスト

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 65 ページ)

⚠ **警告**

アダプティブブレーキアシストは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。 その場合、アダプティブブレーキアシストは作動しない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ **警告**

アダプティブブレーキアシストは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- 固定障害物
- カーブを走行するとき

その結果、アダプティブブレーキアシストはすべての危険な状況では作動しない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

アダプティブブレーキアシストは、約 30 km/h 以上の速度で危険な状態のときにブレーキを利かせる支援を行ない、交通状況を評価するためにレーダーセンサーシステムを使用します。

アダプティブブレーキアシストを利用して、車間距離警告灯は車両の進路にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

車両が障害物に接近して、アダプティブブレーキアシストが衝突の危険を検知すると、アダプティブブレーキアシストは先行車両との衝突を避けるために必要な制動力を算出します。ブレーキを力強く利かせると、アダプティブブレーキアシストは交通状況に適したレベルまで制動力を自動的に増加させます。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
ABS がホイールのロックを防ぎます。

以下の場合、ブレーキは再び通常通り作動します。

- ブレーキペダルを離したとき
- 衝突の危険がなくなったとき
- 車両前方に検知される障害物がないとき

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

アダプティブブレーキアシストが特に高いブレーキ圧を必要とする場合は、予防的な乗員保護システム（PRE-SAFE®）が同時に作動します。

約 250 km/h の車両速度までは、アダプティブブレーキアシストは、少なくとも 1 度計測時間を超えて認識し、動いている障害物に反応することができます。アダプティブブレーキアシストは静止している障害物には反応しません。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが使用できない場合は、ブレーキシステムは完全なブレーキ倍力効果および BAS とともに使用可能なままになります。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき

- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキライト

約 70 km/h 以上の速度で走行中に急ブレーキをかけると、ブレーキランプを点滅して停止した後に、非常点滅灯が自動で点灯します。 再びブレーキをかけると、ブレーキランプが点灯し続けます。非常点滅灯は、走行速度が約 10 km/h 以上になると自動的に消灯します。 非常点滅灯スイッチ (▷ 106 ページ) を押して、消灯させることもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

全体的な注意事項

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 65 ページ)

ESP® は走行安定性およびトラクション（つまりタイヤおよび路面の間の動力伝達）をモニターします。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本または複数のタイヤにブレーキをかけ、車の走行姿勢を安定させます。また、エンジン出力を調整して、物理的限界内で運転者の意志に沿った方向に車の向きを保つように作動します。ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。また、ESP® はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

4ETS（エレクトロニック・トラクション・システム）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 65 ページ)

4ETS トラクションコントロールは ESP®の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転したときに、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などの滑りやすい路面での発進や加速を可能にします。さらに、車輪または駆動力のある車輪にさらなる走行トルクが伝達されます。

ESP® の機能を解除しても、トラクションコントロールは作動させます。

適切な走行状況で、オフロードプログラム (▷ 178 ページ) を作動させます。

オフロード 4ETS（エレクトロニック・トラクション・システム）

オフロードの地形に特に適した 4ETS システムは、オフロードプログラムが作動すると自動的に作動します(▷ 178 ページ)。

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP®の点検を受けてください。

! ブレーキダイナモメーターでは最大 10 秒間のみ車両を操作してください。イグニッションをオフにしてください。

ESP® によるブレーキの適用により、ブレーキシステムを損傷することがあります。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず 2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

エンジンをかけた状態でメーターパネルの [ESP OFF] 表示灯が点灯し続けるときは、ESP® の機能が解除されています。

警告灯 [ESP] および警告灯 [ESP OFF] が点灯し続ける場合は、故障により ESP® は作動していません。

警告灯 (▷ 199 ページ) とメーターパネル (▷ 183 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

以下のときは、故障 / 警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- エンジンをかけた状態で、立体駐車場のターンテーブルで車を回転させたとき
- 立体駐車場の狭くて長いらせん状のアプローチを走行しているとき

以下のような警告灯 / 表示灯も点灯することがあります。

- ESP® 表示灯 [ESP]
- ESP® オフ表示灯 [ESP OFF]
- ABS 警告灯 [ABS]

▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチをオフにします。

▶ エンジンを再始動してください。
しばらくすると、メッセージが消え、警告灯 / 表示灯が消灯します。消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調査してください。

ℹ 必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズのタイヤを装着した場合のみ、ESP® は正しく機能します。

ESP®の特性

全体的な注意事項

エンジンを始動すると、ESP® は自動的に待機状態になります。

ESP® が作動すると、メーターパネルの [ESP] ESP® 表示灯が点滅します。

ESP® が作動する場合

▶ どのような状況でも ESP® を解除しないでください。

▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。

▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ECO スタート / ストップ機能

ECO スタート / ストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンをオフにします。再び発進すると、自動的にエンジンが始動します。ESP® は、以前の設定状況のままになります。**例：**エンジンを停止する前に ESP® が解除されていた場合は、エンジンを再度始動したときに ESP® は解除されたままになります。

ESP® の解除 / 作動

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 65 ページ)

以下のESP®の状態を選択することができます：:

- ESP® が作動しているとき
- ESP® の機能が解除されているとき

⚠ 警告

ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させせなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

以下の状況では、ESP® を解除したほうが良いことがあります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂地や砂利道を走行するとき

ℹ 上記の状況でなくなったら、ただちに ESP® を待機状態にしてください。そうしないと車が横滑りしたり車輪が空転し始めたときに、ESP® の機能で車の走行姿勢を安定させることができません。

ESP® の解除 / 作動

▶ **オフにする：** スイッチ ① を押します。
メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯します。

▶ **オンにする：** スイッチ ① を押します。
メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が消灯します。

ESP® の機能が解除されているときの特性

ESP® を解除しているとき 1 本または複数の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP® 表示灯 [ ] が点滅します。このような状況では、ESP® は車両を安定させません。

ESP® を解除すると、以下のようになります。

- ESP® は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- エンジンのトルクは制限されなくなり、駆動輪が空転するおそれがあります。駆動輪の空転は掘る動作につながり、より良いグリップをもたらします。
- 4ETS はまだ作動しています。
- ブレーキを踏むと、ESP® は自動的に作動します。

オフロード ESP®

オフロードの地形に特に適した ESP®システムは、オフロードプログラムが作動すると自動的に作動します(▷ 178 ページ)。

オーバーステアリングまたはアンダーステアリングがある場合は、オフロード ESP®は遅れて作動し、これにより駆動力が高まります。

ESP® トレーラースタビライゼーション

⚠ 警告

道路および天候の状況が悪い場合は、トレーラースタビライゼーションは車両/トレーラーの連結が急に逸脱することを防ぐことはできません。重心の高いトレー

ラーは、ESP®がこれを検知する前に横転することがあります。事故の危険性があります。

常に路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。

車両/トレーラー連結が急に傾き始めた場合は、ブレーキをしっかりと踏むことのみにより車両/トレーラー連結を安定させることができます。

このような状況では、車両/トレーラー連結が急に傾き始めた場合は、ESP®は運転者を補助しそれを検知することができます。ESP®は車両/トレーラー連結が安定するまで、ブレーキを利かせ、エンジン出力を制限することにより、車両を減速させます。

トレーラースタビライゼーションは約60 km/h 以上の速度で作動します。

故障のためにESP®が解除されるか、または使用できなくなると、トレーラースタビライゼーションは作動しません。

EBD（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）

ℹ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 65 ページ)

⚠ **警告**

EBD が誤作動すると、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。

表示灯/警告灯に関する情報 (▷ 199 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 183 ページ) を確認してください。

EBD は、後輪のブレーキ圧を監視してコントロールし、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作を可能にします。 最大の制動力を確保するのに加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 155 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 131 ページ) も備えています。

PRE-SAFE® ブレーキ

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 65 ページ)

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラス装備車のみで使用できます。

走行中に PRE-SAFE® ブレーキの効果を発揮させるには、レーダーセンサーをオンにして作動させる必要があります。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

ℹ 国によっては、レーダーセンサーシステム (▷ 181 ページ) を解除する必要があります。

レーダーセンサーシステムに関する詳細は、(▷ 308 ページ) をご覧ください。

レーダーセンサーシステムを利用して、PRE-SAFE® ブレーキは車両の前方にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

PRE-SAFE® ブレーキは、先行車両との衝突の危険性を最小限にし、またはそのような衝突の影響を低減するために運転者を支援します。PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険を検知すると、自動でブレーキを利かせるとともに、視覚的およ

び聴覚的な警告を行ないます。PRE-SAFE® ブレーキは、運転者の操作なしで衝突を防ぐことはできません。

この機能は、以下の場合に警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上の速度で、数秒間に渡り前方を走行している車両と保たれている距離が不十分なとき
  メーターパネルの [⚠] 車間距離警告灯が点灯します。
- 約 7 km/h またはそれ以上の速度で、先行車両に急速に接近したとき
  断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの [⚠] 車間距離警告灯が点灯します。

▶ 先行車との距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

約 7 km/h の速度から、運転者および助手席乗員がシートベルトを着用している場合は、約 200 km/h までの速度で PRE-SAFE® ブレーキは自動的に車両にブレーキを利かせることができます。

システムの性質上、特に複雑な運転状況では PRE-SAFE® ブレーキが不必要な警告や介入を行なうことがあります。

PRE-SAFE® ブレーキは、以下でいつでも作動を解除することができます。

- アクセルペダルをさらに踏み込む
- キックダウンを作動させる
- ブレーキペダルを放す

PRE-SAFE® ブレーキによるブレーキ操作は、以下の状況では自動的に解除されます。

- 障害物を回避する操作を行なっている
- 衝突の危険がなくなったとき
- 車両前方に検知されている障害物がなくなった

DSR を作動させると(▷ 176 ページ)、PRE-SAFE® ブレーキも解除されます。

約 70 km/h 以下の速度で走行中は、BAS プラスは静止している障害物を検知することもできます。静止している障害物とは、駐停車している車両などです。

障害物に接近し、PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険を検知すると、システムは視覚的および聴覚的両面で運転者に警報を行ないます。運転者がブレーキを利かせる、または回避操作を行わなかった場合は、システムは緩やかな自動ブレーキにより運転者に警告します。衝突の危険が高まると、PRE-SAFE®（予防的な乗員保護システム）が作動します(▷ 48 ページ)。約 30 km/h 以上の速度で、衝突の危険がまだあり、運転者がブレーキを利かせる、回避操作を行なう、または著しく加速することを行なわなかった場合は、自動緊急ブレーキのレベルまで自動ブレーキが作動することがあります。自動緊急ブレーキは避けることができなくなった事故のすぐ直前までは作動しません。

⚠ 警告

衝突の危険を感知すると、PRE-SAFE® ブレーキはまず部分的にブレーキをかけて車両を制動します。 ご自身でブレーキをかけないと衝突するおそれがあります。 自動緊急ブレーキにより衝突を防ぐことはできません。 事故の危険性があります。

必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

その場合、PRE-SAFE® ブレーキは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、必ず交通状況に十分注意を払いながら、ブレーキをかける準備をしてください。 危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

特に以下のときは、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

この結果、すべての危険な状況では、PRE-SAFE® ブレーキは警告や作動を行なわない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

先行車との車間距離を十分に維持して衝突を防ぐには、適切にブレーキ操作を行なう必要があります。

▶ **作動/解除する：** マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキを作動または解除します (▷ 181 ページ)。

P に入っているとき、または 35 km/h 以上で走行すると、 マークが表示されます。

車両のフロント端部が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

ステアコントロール

ℹ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 65 ページ)

ステアコントロールは、車両の走行姿勢を安定させるのに必要な向きの操舵力をステアリングに伝達し、運転者が適切な回避操作が行なえるようステアリング操作をアシストする機能です。

このステアリング補助機能は、特に以下のような状況で作動します。

- ブレーキ時に、右側または左側の前後車輪が濡れた路面または滑りやすい路面にあるとき
- 車が横滑りをし始めたとき

ESP® に不具合があるときは、ステアコントロールからの操舵補助は受けられません。 しかし、パワーステアリングは作動し続けます。

盗難防止システム

イモビライザー

- **キー操作で待機状態にする：** エンジンスイッチからキーを抜きます。
- **キーレスゴー操作で待機状態にする：** イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。
- **解除する：** エンジンをかけます。

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。有効なキーが車内に残されていると、誰でもエンジンを始動することができます。

ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

ATA（盗難防止警報システム）

- **待機状態にする：** キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
  表示灯 ① が点滅します。 盗難防止警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。
- **キーでオフにする：** キーを使用して車両を解錠します。

または

- エンジンスイッチにキーを差し込みます。
- **キーレスゴーでオフにする：** キーレスゴーを使用して車両を解錠します。

または

- ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。

システムが待機状態にあるときに以下の部分を開くと、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

- ドア
- 車(エマージェンシーキーによる解錠)
- テールゲート
- ボンネット

- **キーを操作して警報を停止する：** キーの [解錠] または [施錠] ボタンを押します。
  警報が停止します。

または

- エンジンスイッチにキーを差し込みます。
  警報が停止します。
- **キーレスゴー操作で警報を停止させる：** 車外のドアハンドルを握ります。キーは車外にある必要があります。
  警報が停止します。

または

- ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。
  警報が停止します。

開いたドアをすぐに閉じても、警報は解除されません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きを感知すると、サイレンが鳴り非常点滅灯が点滅します。 たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が

持ち上げられたときに警報が作動します。

設定

▶ 以下のことを確認してください。
- ドアが閉じていること
- テールゲートが閉じていること

この場合のみ、けん引防止機能が待機状態になります。

▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
約 60 秒後にけん引防止機能が待機状態になります。

解除スイッチ

▶ **キーでオフにする：** キーを使用して車両を解錠します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

▶ **キーレスゴーでオフにする：** キーレスゴーを使用して車両を解錠します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

解除スイッチ

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短く点灯します。

▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作が行なわれると再び作動します。

- 車両を再度解錠し、
- ドアを再度開いて閉じ、
- 車両を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- 運搬されるとき
- 例えばフェリーや車両運搬車に積載されるとき
- 立体駐車場などのターンテーブルに駐車するとき

室内センサー

機能

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを感知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。 たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

設定

- 以下のことを確認してください。
  - サイドウインドウが閉じていること
  - スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフが閉じていること
  - ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの掛かっている物がないこと

  以上のことは、警報の誤作動を防ぎます。
- 以下のことを確認してください。
  - スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフが閉じていること
  - ドアが閉じていること
  - テールゲートが閉じていること

  この場合のみ、室内センサーは待機状態になります。
- キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
  室内センサーが約 30 秒後に待機状態になります。

解除スイッチ

- **キーでオフにする：** キーを使用して車両を解錠します。

または

- エンジンスイッチにキーを差し込みます。
  室内センサーが自動的に解除されます。
- **キーレスゴーでオフにする：** キーレスゴーを使用して車両を解錠します。

または

- ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。
  室内センサーが自動的に解除されます。

解除スイッチ

- エンジンスイッチからキーを抜きます。
- スイッチ ① を押します。
  表示灯 ② が短く点滅します。
- キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
  室内センサーが解除されます。

室内センサーは以下のときまで解除されたままになります。

- 車両を再度解錠し、
- ドアを再度開いて閉じ、
- 車両を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残ったままであるとき
- サイドウインドウが開いたままであるとき
- スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフが開いたままであるとき

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

キー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを残して車から離れないでください。

- ドアを開けることによって、他の人々や道路利用者を危険にさらすおそれがあります。
- 車両から降りて、通過する車にぶつかるおそれがあります。
- 車両の装備品を操作してしまうおそれがあります。

さらに以下のような場合に、子供が車両を動かしてしまうおそれもあります。

- パーキングブレーキを解除する。
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする。
- エンジンを始動する。

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。 キーは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

車両を離れる場合は、必ずエンジンスイッチからキーを抜き取ってください。キーは常に携帯し、車両はロックしてください。 お子様をチャイルドセーフティシートに座らせ、ロックを解除している車両にアクセスできないようにしている場合でも、保護者のいない状態で車内に残さないでください。 保護者のいないお子様が車両に近づくと、事故や致命的なケガをするおそれがあります。 以下の場合、お子様がけがをする可能性があります。

- 車両の各部に触れてけがをする
- 非常に高温または低温になった状態では致命的なけがをするおそれがある
- シート調整、ステアリング調整またはメモリー機能などはエンジンスイッチからキーを抜いても作動させることができるため、けがをしたり、車両装備が損傷する可能性がある

お子様がドアを開けたときに周囲の人がけがをしたり、車外に出て通りかかった車にはねられ、致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。チャイルドセーフティシートの金属部品など各部が非常に高温になり、お子様がこの部分に触れて火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

キーに、重い物や大きなアクセサリー等を付けていると、キーが突然エンジンスイッチ操作してしまうおそれがあります。 そのため、エンジンが停止するおそれがあります。 事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリー等を付けないでください。 操作の邪魔になるアクセサリー等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

! 強い電磁波を発生する物の近くにキーを保管しないでください。電磁波の影響

で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い磁場は、強力な電気設備の近くで発生します。

- 以下にはキーを近付けないでください。
  - 携帯電話や他のキーなどの電子機器
  - 硬貨や金属片などの金属物
  - 金属ケースなどの金属物の内部

  キーが正常に機能しなくなるおそれがあります。

温度制御カップホルダーにキーレスゴーキーを保管しないでください。さもなければ、キーレスゴーキーが検知されません。

キーの機能

① 施錠ボタン
② テールゲートの開閉
③ 解錠ボタン

▶ **すべてを解錠する：** ボタンを押します。

解錠操作をした後、約 40 秒以内にドアなどを開けないと、以下の状態になります。

- 車を再び施錠する
- 盗難防止警報システムが再び待機状態になります。

▶ **すべてを施錠する：** ボタンを押します。

キーで以下のすべての施錠/解錠操作ができます。

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油口

解錠操作を行なうと、方向指示灯が 1 回点滅します。 施錠操作を行なうと、3 回点滅します。

また、施錠時に確認音が鳴るアンサーバック機能を設定することもできます。アンサーバック機能の設定と解除は、マルチファンクションディスプレイで行ないます。 (▷ 181 ページ)

マルチファンクションディスプレイでロケイターライティング機能を設定しておくと、周囲が暗いときに車外ランプを点灯させることができます。(▷ 181 ページ)

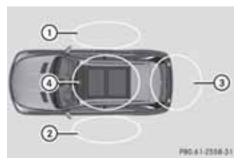
キーレスゴー

重要な安全上の注意

⚠ **危険**

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴーを使用する場合、無線通信がキーと車両の最も近いキーレスゴーアンテナ間で確立されます。 電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。 致命的なけがをするおそれがあります。

車両を操作する前に、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。

キーレスゴーアンテナの検知範囲
① 右側外部アンテナの検知範囲
② 左側外部アンテナの検知範囲
③ リアアンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーが車内にあれば、携帯していない乗員でもエンジンを始動することができますので、注意してください。

セントラルロックシステムでの施錠と解錠

キーレスゴーを使用して、始動、車の施錠または解錠ができます。このためには、必要なのはキーを携帯することのみです。キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせることができます。たとえば、キーレスゴー操作で車を解錠し、キーの 🔒 ボタンで施錠することができます。

キーレスゴーで施錠 / 解錠するときは、キーと目標のドアのドアハンドルとの距離は約 1 m 以内である必要があります。

キーレスゴーは、車両とキーの間で定期的に通信を行ない、車内に有効なキーがあるか確認します。キーの照合は以下のときに行なわれます。

- 車外のドアハンドルに触れたとき
- エンジンの始動時
- 車両の走行中

▶ **車を解錠する：** ドアハンドルの内側に触れます。

▶ **車を施錠する：** ドアハンドルの施錠操作部 ① に触れます。

▶ **コンビニエンスクロージング機能：** 凹部のセンサー表面 ② に一定時間触れます。

テールゲートのハンドルを引くと、車両のラゲッジルームのみが解錠されます。

ロックシステムの設定変更

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーで車を施錠または解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。（▷ 77 ページ）

以下のいずれかの方法で、盗難防止警報システムを解除します。

▶ **キーを操作して警報を停止する：** キーの 🔓 または 🔒 ボタンを押します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

または

▶ **キーレスゴーで警報を停止する：** エンジンスイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。

または

▶ キーレスゴーで車を施錠/解錠します。キーは車外にある必要があります。

エマージェンシーキーで車を解錠しても、燃料給油口は自動的に解錠されません。

▶ **燃料給油口を解錠する：** エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーの取り外し

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから矢印の方向に抜きます。

キーの電池

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。 電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。 致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。 電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

バッテリーの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

電池点検

▶ 🔒 または 🔓 ボタンを押します。キーの表示灯 ① が軽く点灯すれば、電池は正常です。

キーの表示灯 ① が点滅しない場合は、電池が消耗しています。

▶ 電池を交換します。 (▷ 86 ページ)

ℹ 信号の到達範囲内でキーの電池を点検したときは、 🔒 または 🔓 ボタンを押すと、以下の作動をします。

- 車の施錠
- 車の解錠

ℹ 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めいただけます。

電池交換

CR2025 3 V の電池が必要です。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 84 ページ)。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、電池収納部カバー ① が浮き上がるまで矢印の方向に押します。 このとき、指で電池収納部カバー ① を押さえないようにしてください。

▶ 電池収納部カバー ① を取り外します。

▶ キーを裏返して手の平に載せ、電池 ③ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（+）面を上にして、新しい電池を取り付けます。 このとき、毛羽立ちのない布で電池を持つようにしてください。

▶ 電池の表面に糸くず、脂分、汚れが付着していないことを確認してください。

▶ 電池収納部カバー ① の前側にある凸部をキーに差し込んでから、カバーを押して閉じます。

▶ ② エマージェンシーキーをキーに収納します。

▶ キーのすべてのボタンが正常に機能することを確認します。

キーの不具合

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ドア

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

子供だけを残して車から離れないでください。

- ドアを開けることによって、他の人々や道路利用者を危険にさらすおそれがあります。
- 車両から降りて、通過する車にぶつかるおそれがあります。
- 車両の装備品を操作してしまうおそれがあります。

さらに以下のような場合に、子供が車両を動かしてしまうおそれもあります。

- パーキングブレーキを解除する。
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする。
- エンジンを始動する。

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。 キーは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 車内からドアを解錠して開く
- 車内からのリモートコントロールセントラルロック
- 車速感応ドアロック
- クロージングサポーター
- 運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）
- 車両の施錠（エマージェンシーキー）

ラゲッジルーム

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。 エンジン作動中、とくに走行中にテールゲートが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒を起こすおそれがあります。

テールゲートを開く前に、エンジンをオフにしてください。 テールゲートを開いたまま走行しないでください。

! テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ テールゲートを開いたときの寸法 (▷ 306 ページ)

ラゲッジルーム内にキーを置き忘れないようにしてください。外に閉め出されるおそれがあります。

EASY-PACK テールゲート非装備車：
テールゲートは以下のことができます。

- 車外から手動で開閉する
- エマージェンシーリリースで内側から解錠する

EASY-PACK テールゲート装備車では以下のことができます。

- 外側からテールゲートを手動で閉じる
- 外側からテールゲートを自動で開閉する
- 内側からテールゲートを自動で開閉する
- エマージェンシーリリースで内側からテールゲートを解錠する
- テールゲートの開く角度を設定する

車外からの開閉

開く

▶ キーの [🔓] ボタンを押します。

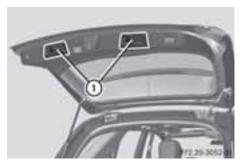
▶ ハンドル ① を引きます。

▶ テールゲートを上げます

EASY-PACK テールゲート装備車： ハンドル ① を引いて放すと、テールゲートが自動的に開きます。

閉じる

⚠ **警告**

テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

▶ 凹部 ① を使用してテールゲートを引き下げます。

▶ テールゲートのロックがかみ合います。

▶ 必要であればキーの [🔒] ボタンか、キーレスゴーで車両を施錠します。

ℹ ラゲッジルーム内にキーレスゴーキーが検知されると、テールゲートは施錠されません。

車外からの自動開閉

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

テールゲートが自動で閉じているときに、身体の一部が挟み込まれるおそれがあります。 さらに、お子様などが閉動作中に、閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。 けがの危険性があります。

閉動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉動作を停止させるため、以下のオプションのうちのひとつを使用してください：

- キーの [ ] ボタンを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。
- テールゲートのクローズ / ロックスイッチ を押します。
- テールゲートのハンドルを引いてください。.

❗ テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ テールゲートを開いたときの寸法 (▷ 306 ページ)

ℹ テールゲートは、オートリバース機能が装備されています。 テールゲートの閉動作中に、荷物が挟まったりまたは動作が制限される場合、テールゲートは自動的に再度開きます。

テールゲートを自動的に開く

リモコンを操作するか、テールゲートハンドルを引くと、テールゲートが自動で開きます。

▶ テールゲートが開くまで、キーの ⌂ ボタンを押して保持します。

または

▶ テールゲートが解錠されているときは、テールゲートハンドルを引き、すぐに手を放します。

テールゲートを自動的に閉じる

⚠ 警告

テールゲートが自動で閉じているときに、身体の一部が挟み込まれるおそれがあります。 さらに、お子様などが閉動作中に、閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。 けがの危険性があります。

閉動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉動作を停止させるため、以下のオプションのうちのひとつを使用してください：

- キーの ⌂ ボタンを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。
- テールゲートのクローズ / ロックスイッチ を押します。
- テールゲートのハンドルを引いてください。.

クローズスイッチとロックスイッチ（例：EASY-PACK テールゲートおよびキーレスゴー装備車）

▶ **閉じる：** テールゲートのクローズスイッチ ① を押します。

または

▶ テールゲートが閉じるまで、キーの ⌂ ボタンを押して保持します。

EASY-PACK 自動開閉テールゲートおよびキーレスゴー装備車は、テールゲートを同時に閉じ、ロックすることができます。

▶ テールゲートのロックスイッチ ② を押します。
キーレスゴーキーが車外で検知されると、テールゲートが閉じて施錠されます。すべてのドアが閉じており、キーがテールゲートの周辺にあることが必要です。

ℹ テールゲートを開閉するには、エンジンスイッチにキーが差し込まれていてはなりません。

テールゲートが閉じている間に障害物に接触すると、閉動作が中断され、テールゲートは再度開きます。

ℹ ラゲッジルーム内にキーレスゴーキーが検知されると、テールゲートは施錠されません。

車内からの自動開閉

重要な安全上の注意

⚠ 警告

テールゲートが自動で閉じているときに、身体の一部が挟み込まれるおそれがあります。 さらに、お子様などが閉動作中に、閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。 けがの危険性があります。

閉動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉動作を停止させるため、以下のオプションのうちのひとつを使用してください：

- キーの [ボタン] ボタンを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。
- テールゲートのクローズ / ロックスイッチ を押します。
- テールゲートのハンドルを引いてください。.

! テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ テールゲートを開いたときの寸法 (▷ 306 ページ)

ℹ テールゲートは、オートリバース機能が装備されています。 テールゲートの閉動作中に、荷物が挟まったりまたは動作が制限される場合、テールゲートは自動的に再度開きます。

開閉

車両が停止していて解錠されているときは、運転席からテールゲートを開閉できます。

▶ **開く：**テールゲートが開くまで、テールゲートのリモート操作スイッチ ① を引きます。

▶ **閉じる：**エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶ テールゲートが閉じるまで、テールゲートのリモート操作スイッチ① を押します。

テールゲートの開口角度の設定

重要な安全上の注意

! 開度を設定するときは、テールゲートを全開するのに十分なスペースがあることを確認してください。 テールゲートが損傷する原因になります。 開度の設定は屋外で行なうことをお勧めします。

設定スイッチ

テールゲートの開口角度を制限することができます。 開口範囲の上半分で、停止する前の約 10 cm まで可能です。

これは、例えばテールゲート上に十分なスペースがない場合に役立ちます。

- **テールゲートを開く：** テールゲートのハンドルを引きます。
- **開く操作を希望位置で停止させる：** テールゲート内のクローズスイッチ (▷ 88 ページ) を押すか、テールゲート外側のハンドルを再度引きます。
- **位置を記憶させる：** テールゲート内のクローズスイッチを押して、短い確認音が 1 回鳴るまで保持します。
  開口角度リミッターが作動します。
  テールゲートを開いたときは、保存した位置で停止します。

解除スイッチ

- テールゲート内のクローズスイッチ (▷ 88 ページ) を押して、短い確認音が 2 回鳴るまで保持します。

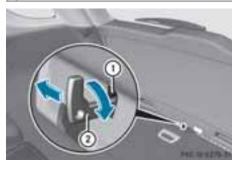
テールゲートの緊急時の解錠

重要な安全上の注意

! テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ⓘ テールゲートを開いたときの寸法 (▷ 306 ページ)

テールゲートを車外から開くことができないときは、テールゲートの内側にあるエマージェンシーリリースを使用してください。

開く

- キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 84 ページ) 。
- エマージェンシーキー ② をトリム ① の開口部に差し込みます。
- エマージェンシーキー ② を時計回りに約 90° 度まわします。
- エマージェンシーキー ② を矢印の方向に押して、テールゲートを開きます。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

サイドウインドウを開けているときに、サイドウインドウが動くにつれて、身体などがサイドウインドウとドアフレームの間に引き込まれて挟まるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

開けている最中は、誰もサイドウインドウに触れないようにしてください。 誰かが挟まれてしまった場合は、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてもう一度サイドウインドウを閉じます。

⚠ **警告**

閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウインドウを開く際に挟まれるおそれがあります。けがをする危険があります。

閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。 誰かが

オープン / クローズ

挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてサイドウインドウをもう一度開きます。

⚠ **警告**

とくに保護者のいない子供を車内に残すと、サイドウインドウを操作して挟まれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックを作動させます。 車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない子供を車内に残さないでください。

サイドウインドウは、オートリバース機能が装備されています。 サイドウインドウの閉動作中に、荷物がブロックまたは制限する場合、サイドウインドウは自動的に再度開きます。

⚠ **警告**

以下のとき、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉動作が 4 mm を超えたとき
- リセット中
- サイドウインドウをオートリバース後すぐに手動で閉じたとき

リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。 けがの危険性があります。

閉動作の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。挟み込まれたら、スイッチを押して、サイドウインドウを再度開きます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- サイドウインドウの開閉
- コンビニエンスオープニング機能
- コンビニエンスクロージング機能
- サイドウインドウのリセット

サイドウインドウの不具合

⚠ **警告**

挟み込み防止機能が作動しない状態で、またはより強い力でサイドウインドウが閉じると、重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。 サイドウインドウを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ガイドレールなどに落ち葉などの障害物が挟まっているため、サイドウインドウが全閉しない。	▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ サイドウインドウを閉じます。
サイドウインドウが全閉しない、また原因がわからない。	サイドウインドウを閉じているとき、ウインドウが障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは、より強い力で閉じます。 サイドウインドウを閉じているときに、ウインドウが再度障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

スライディングルーフ

重要な安全上の注意

車両には、スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが装備されています。この項目では、"スライディングルーフ"という言葉は、スライディングルーフの両方の種類に言及しています。

⚠ **警告**

スライディングルーフを開閉するときに、ルーフの移動範囲に身体を近づけると、はさまれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

開閉操作中は身体を近づけすぎないようにしてください。

はさまれた場合：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動操作中に、どの方向でもスイッチを短時間押します。

開閉手順が中断されます。

⚠ **警告**

とくに保護者のいない子供を車内に残すと、スライディングルーフを操作して挟

まれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。
車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない子供を車内に残さないでください。

スライディングルーフは、オートリバース機能が装備されています。 スライディングルーフの閉動作中に、荷物がブロックまたは制限する場合、スライディングルーフは自動的に再度開きます。

⚠ **警告**

以下のとき、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉動作が 4 mm を超えたとき
- リセット中
- スライディングルーフをオートリバース後すぐに手動で閉じたとき

リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。 けがの危険性があります。

閉動作の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。

! パノラミックスライディングルーフに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。 スライディングルーフが故障する原因になります。

スライディングルーフの開口部から物を出さないようにしてください。 スライディングルーフのシール部が損傷するおそれがあります。

ℹ スライディングルーフが開いているときは、通常の風切り音に加えて空気の振動が発生する可能性があります。これらは、車内の圧力変動が原因で発生します。スライディングルーフの位置を変更するか、またはサイドウインドウを少し開いてください。 ノイズが減るか、またはなくなります。

スライディングルーフの操作

開閉

ルーフオペレーティングユニット
① チルトアップ
② 開く
③ 閉じる/チルトダウン

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ ▭ スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

ℹ ▭ スイッチを抵抗があるところを越えて押すと、自動開閉動作が対応する方向で開始されます。 再度押すと、自動操作を停止できます。

サンシェードは、スライディングルーフと連動して自動的に開きます。 サンシェードは、スライディングルーフがチルトアップしているか、閉じているときに手動で開閉できます。

ℹ エンジンを停止するか、エンジンスイッチからキーを抜いてからも、スライディングルーフを開閉できます。 エンジン停止してから約 5 分間、または運転

席/助手席ドアを開くまでサイドウインドウを開閉できます。

レインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが 0 の位置にあるか、またはそれが抜かれている場合は、スライディングルーフは自動的に閉じます。

- 雨が降り始めたとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 約 6 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

車内を換気するため、スライディングルーフの後部がチルトアップした状態に保たれます。

ℹ レインクローズ機能でスライディングルーフが閉じている間に遮られると、再度少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下のときは、スライディングルーフは閉じません。

- スライディングルーフをチルトアップしているとき
- 障害になる物が挟まっているとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき（車が橋の下やカーポートに入っているときなど）

リセット

! リセット操作を行なっても、まだスライディングルーフが開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

スライディングルーフがスムーズに作動しないときは、リセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。
▶ スライディングルーフの後部をいっぱいまでチルトアップします。（▷ 94 ページ）
▶ [ ] スイッチをそのまま数秒間押し続けます。
▶ スライディングルーフが再度全開閉できることを確認します（▷ 94 ページ）。
▶ そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

パノラミックスライディングルーフの操作

開閉

ルーフオペレーティングユニット
① チルトアップ
② 開く
③ 閉じる/チルトダウン

パノラミックスライディングルーフは、電動ブラインドが開いているときにのみ操作することができます（▷ 96 ページ）。

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。
▶ [ ] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

ℹ [ ] スイッチを抵抗があるところを越えて押すと、自動開閉動作が対応する

方向で開始されます。再度を押すと、自動動作を停止できます。

スライディングルーフが閉じているときのみ、自動で開く機能を使用できます。

レインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが 0 の位置にある場合、またはそれが抜かれている場合は、パノラミックスライディングルーフが自動的に閉じます。

- 雨が降り始めたとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 約 6 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

車内を換気するため、スライディングルーフはチルトアップした状態で維持されます。

ℹ レインクローズ機能でパノラミックスライディングルーフが閉じている途中で遮られると、再度少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下のときは、パノラミックスライディングルーフは閉じません。

- スライディングルーフをチルトアップしているとき
- 障害になる物が挟まっているとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき（車が橋の下やカーポートに入っているときなど）

パノラミックスライディングルーフ用電動ブラインドの操作

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

電動ブラインドの開閉時、身体の一部が電動ブラインドとフレームまたはスライディングルーフ間に挟み込まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

開閉動作の間は、身体を電動ブラインドの動いている部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

開閉動作が停止します。

電動ブラインドは日差しから車内を守ります。2 枚の電動ブラインドは、パノラミックスライディングルーフが閉じている状態で開閉することができます。

電動ブラインドの開閉

ルーフオペレーティングユニット

① 開く

② 開く

③ 閉じる

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。

▶ ▭ スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

ℹ ▭ スイッチを抵抗があるところを越えて押すと、対応する方向で自動開閉動作が開始されます。再度を押すと、自動動作を停止できます。

パノラミックスライディングルーフと電動ブラインドのリセット

! パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドが全閉できない、またはリセットできない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドがスムーズに作動しないときは、パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ パノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、[ ] スイッチを矢印 ③ の方向に抵抗があるところまで繰り返し引きます。

▶ [ ] スイッチを引いたまま数秒間保持します。

▶ 電動ブラインドが完全に閉じるまで、[ ] スイッチを矢印 ③ の方向に抵抗があるところまで繰り返して引きます。

▶ [ ] スイッチを引いたまま数秒間保持します。

▶ パノラミックスライディングルーフ (▷ 95 ページ) および電動ブラインド (▷ 96 ページ) が再度完全に開くことができることを確認します。

▶ そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

スライディングルーフの不具合

⚠ **警告**

スライディングルーフをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、スライディングルーフはより大きなまたは最大の力で閉じます。 リバース機能は作動しません。 この手順のとき、身体を閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。

車両には、スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが装備されています。この項目では、"スライディングルーフ"という言葉は、スライディングルーフの両方の種類に言及しています。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
スライディングルーフを閉じることができず、原因が分からない。	スライディングルーフが閉じているときに挟み込みの抵抗を検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ スライディングルーフがブロックされたらただちに、スライディングルーフが閉じるまでルーフオペレーティングユニットの [ ] スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 スライディングルーフは、より強い力で閉じます。 スライディングルーフが再度挟み込みの抵抗を検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ スライディングルーフがブロックされたらただちに、スライディングルーフが閉じるまでルーフオペレーティングユニットの [ ] スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフが閉じます。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

運転席のシートポジション

⚠ **警告**

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

▶ シート調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 101 ページ)

▶ シート ③ が正しく調整されていることを確認してください。

電動シートの調整 (▷ 102 ページ)

シートを調整するときの留意点

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている。
- 通常の垂直位置で着座している。
- シートベルトをきちんと装着できる。
- バックレストはほぼ垂直の位置になるように調整する。
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整する。
- ペダルをきちんと踏み込める。

▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください。

ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認してください。同様に、後頭部がヘッドレストとできるだけ近くにあり、ヘッドレストに支えられていることを確認してください。

▶ ステアリング調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 104 ページ)

▶ ステアリング ① が正しく調整されていることを確認してください。

手動調整式ステアリングの調整 (▷ 104 ページ)

電動調整式ステアリングの調整 (▷ 104 ページ)

ステアリングを調整するときの留意点

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある。
- 足を自由に動かせる。
- メーターパネル内のすべてのディスプレイが確認できる。

▶ シートベルトに関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 49 ページ)
▶ シートベルト ② を正しく着用しているかどうかを確認します。(▷ 50 ページ)

シートベルトは、以下のように着用してください。

- 身体に密着させる
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨の低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、ルームミラーとドアミラーを道路と交通状況がよく見える角度に調整してください (▷ 104 ページ)。
▶ **メモリー機能装備車：**メモリー機能を使用してシート、ステアリング、ドアミラーの設定を保存します。 (▷ 104 ページ)

シート

重要な安全上の注意

⚠ 警告

保護者のいない状態で、お子様がシートを調整すると、挟み込まれる可能性があります。 けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込まれて負傷するおそれがあります。とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押してしまい、挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手や身体などを入れないでください。

⚠ 警告

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟み込まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触っていないということを確認してください。

⚠ 警告

ヘッドレストが合っていず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。 これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。 走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

⚠ 警告

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトの保護機能が十分に発揮できません。 ブレーキ操作時または事故発生時、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。 常にシートが垂

▷▷

直に近い位置であることを確認してください。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。 シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。 シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。 また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。 シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

i ヘッドレストはフロントシートから取り外すことはできません。ただし、リアコンパートメントのヘッドレストは取り外せます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

i その他の関連テーマ：

- エアバッグに関する重要な安全上の注意 (▷ 44 ページ)
- ラゲッジルームの拡大（リアシートを倒す） (▷ 234 ページ)
- 子供を乗せるときの保護 (▷ 54 ページ)

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- シートの調整
- ヘッドレストの調整
- 電動ランバーサポートの調整
- シートベンチレーターのオン / オフ

シートヒーターの使用

作動 / 停止

⚠ **警告**

シートヒーターを連続して使用すると、シートクッションおよびバックレストが異常に過熱する原因となります。 高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温にも対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。 けがの危険性があります。

したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。

運転席シートと助手席シート

リアシート

スイッチの 3 つの赤い表示灯は、選択したレベルを表します。

システムは約 8 分後にレベル **3** から **2** へ自動的に切り替わります。

システムは約 10 分後にレベル **2** から **1** へ自動的に切り替わります。

レベル **1** に設定してから約 35 分後に、システムは自動的に停止します。

シートクッションとバックレストの暖房部分の配分を設定できます。これに関する情報は別冊の取扱説明書をご覧ください。

COMAND システムを使用して、シートクッションとバックレストの暖房部分の配分を設定できます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。キーワードは"シートバランス (シートヒーター)"です。

▶ エンジンスイッチのキーが **1** か **2** の位置にあることを確認します。

▶ **オンにする：**お好みのヒーターレベルになるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **オフにする：**表示灯が消灯するまで、シートベンチレータースイッチ ① を繰り返し押します。

ⓘ バッテリー電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターが作動しないとき

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
シートヒーターが短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備を使用しているため、バッテリー電圧が低くなっている。 ▶ リアデフォッガーやルームライトなど、必要のない電気装備をオフにしてください。 バッテリーが十分に充電されれば、シートヒーターは自動的にオンになります。

ステアリング

重要な安全上の注意

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

子供にはステアリングの操作をさせないでください。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ステアリングの調整
- ステアリングヒーター
- イージーエントリー機能

ミラー

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームミラー
- ドアミラー
- 自動防眩ルームミラー＆ドアミラー（運転席側）
- 助手席側ドアミラーの駐車時の位置

メモリー機能

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- メモリーの設定
- 記憶した位置を呼び出す

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

ライト

全体的な注意事項

昼間にライトを点灯せずに走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"の設定をオフにしてください (▷ 181 ページ)。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 非常点滅灯
- ヘッドライトウォッシャー
- ヘッドライト内側の曇り

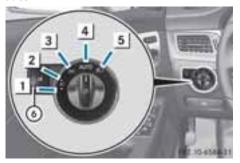
ライトの設定

設定方法

ライトは以下を操作して設定できます。

- ライトスイッチ
- ヘッドライト光軸調整（ハロゲンヘッドライト装備車両のみ）(▷ 106 ページ)
- コンビネーションスイッチ (▷ 108 ページ)
- マルチファンクションディスプレイ

ランプスイッチ

操作

1 ←P≡ 左側パーキングランプ
2 P≡→ 右側パーキングランプ
3 ≡00≡ 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
4 AUTO ヘッドライトのオートモード（ライトセンサーによる制御）
5 ≡D ロービーム/ハイビームヘッドライト
⑥ 0≢ リアフォグランプ

車から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトを消し忘れている可能性があります。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

車外ライト（サイドランプ/パーキングライト以外）は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜き取ったとき
- キーを 0 の位置にして運転席ドアを開いたとき

ヘッドライトのオートモード

⚠ 警告

ライトスイッチを AUTO に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。

このような状況のときは、ライトスイッチを ≣D にまわします。

ライトのオートモードはあくまでも運転者を支援する機能です。ライトの点灯/消灯に関する責任は運転者にあります。

通常は、ライトスイッチを AUTO に設定することをお勧めします。ライト設定は、周囲の明るさに応じて以下のように自動的に選択されます（例外：霧、雪、霧雨などの天候による視界不良）。

- エンジンスイッチを 1 の位置にしたとき：周囲の明るさに応じて車幅灯が自動的に点灯または消灯します。
- エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"機能を作動させている場合は、デイタイムドライビングライトまたはパーキングランプおよびロービームヘッドライトが周囲の明るさの度合いよって自動的にオンまたはオフに切り替わります。

▶ **ヘッドライトのオートモードをオンにする：** ライトスイッチを AUTO にまわします。

ロービームヘッドライトがオンのときは、メーターパネルの緑色の表示灯 ≣D が点灯します。

ヘッドライト

⚠ 警告

ライトスイッチを AUTO に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。

このような状況のときは、ライトスイッチを ≣D にまわします。

イグニッションがオンで、ライトスイッチが ≣D の位置にあるときは、ライトセンサーが周囲の明るさの状況が暗いことを感知していなくても、車幅灯およびロービームヘッドライトがオンになります。これは、霧や雨のときに有利です。

▶ **ロービームヘッドライトを点灯する：** エンジンスイッチを 2 の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを ≣D にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯 ≣D が点灯します。

リアフォグランプ

リアフォグランプは、濃霧時の走行で車両の視界を改善します。 リアフォグランプの仕様についての国別の法律を遵守してください。

▶ **リアフォグランプを点灯する：** エンジンスイッチを 2 の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを ≣D または AUTO にまわします。

▶ 0‡ スイッチを押す。
メーターパネルの黄色の表示灯 0‡ が点灯します。

▶ **リアフォグランプを消灯する：** 0‡ スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の表示灯 0‡ が消灯します。

車幅灯

❗ バッテリーが過放電すると、次回のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングランプが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を

安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯 [車幅灯] を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、[P≤→] 右側または [←P≤] 左側パーキングランプを点灯してください。

▶ **点灯する：** ライトスイッチを [車幅灯] にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯 [車幅灯] が点灯します。

パーキングランプ

パーキングランプを点灯させると、車両の対応する横側が点灯します。

▶ **パーキングランプを点灯する：** キーがイグニッションに差し込まれていないか、または 0 の位置にあります。

▶ ライトスイッチを [←P≤] （車両の左側）または [P≤→] （車両の右側）にまわします。

ヘッドライト光軸の調整(ハロゲンヘッドライト)

0 運転席および助手席に乗員

1 運転席、助手席およびリアシートに乗員

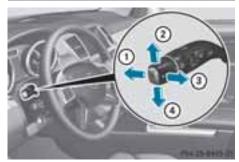
2 運転席、助手席およびリアシートに乗員、車両に積載する際にはリアアクスルの最大許容軸荷重が利用される

3 運転席に乗員、車両に積載する際にはリアアクスルの最大許容軸荷重が利用される

ヘッドライト光軸コントロールは車両重量にあわせたヘッドライトの配光を調整します。

▶ エンジンを始動してください。

▶ ヘッドライト光軸コントロールを車両の該当する荷重の位置にまわします。

コンビネーションスイッチ

① ハイビームヘッドライト

② 右側の方向指示灯

③ パッシングライト

④ 左側の方向指示灯

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 方向指示灯
- ハイビームヘッドライト
- パッシングライト

非常点滅灯

▶ **非常点滅灯の点灯：**スイッチ ①を押します。
すべての方向指示灯が点滅します。 このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示灯を作動させたときは、車両の対応する側の方向指示灯のみが点滅します。

▶ **非常点滅灯の消灯：** スイッチ ①を再度押します。

非常点滅灯は、以下のときに自動的に点滅します。

- エアバッグが作動したとき
- 約 70 km/h 以上の速度から車両が急減速して停止したとき

急ブレーキを効かせた後に車両が再度約 10 km/h 以上の速度に達すると、非常点滅灯は自動的に消灯します。

ℹ 非常点滅灯は、イグニッションがオフのときも点滅させることができます。

インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。 車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる最新機能を提供します。 システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。 システムは周囲が暗いときのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して"インテリジェントライトシステム"を作動させたり解除したりできます。

アクティブライトシステム

アクティブライトシステムは、前輪のステアリングの動きに合わせて、ヘッドライトを動かすシステムです。 このようにして、走行中は対応する範囲が照射されたままになります。 歩行者、サイクリスト、動物などを認識できます。

以下のときに作動します： ヘッドライトが点灯しているとき。

コーナリングライト

コーナリングライトは、曲がる方向の広い角度にわたる路面の照射を向上させ、急カーブなどでのより良い視界を可能に

します。 ヘッドライトがロービームで点灯しているときにのみ作動します。

以下のときに作動します。

- 走行速度が約 40 km/h 以下で、方向指示灯が作動しているかステアリングをまわしたとき
- 走行速度が約 40 km/h から 70 km/h の間で、ステアリングをまわしたとき

以下のときに停止します。走行速度が約 40 km/h 以上のとき、方向指示灯を停止したとき、またはステアリングを直進位置に戻したとき。

コーナリングライトは短時間点灯したままになりますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

ハイウェイモードは、ヘッドライトの範囲を広げます。

作動：約 110 km/h 以上の速度で走行し、約 1000 m の区間で大きなステアリング操作をしていない場合、あるいは約 130 km/h 以上の速度で走行している場合。

この情報はライト機能にのみ適用されます。 必ず法定速度および制限速度を遵守してください。

以下のときに解除されます：作動後に、80 km/h 以下の速度で走行したとき。

フォグランプ強化機能

フォグランプ強化機能は運転者の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

以下のときにオン：70 km/h 以下の速度で走行していてリアフォグランプを点灯したとき

以下のときにオフ：走行速度が約 100 km/h 以上、または作動後にリアフォグランプを消灯したとき

この情報はライト機能にのみ適用されます。 必ず法定速度および制限速度を遵守してください。

オフロードライト

オフロードライトは、オフロード走行中にロービームヘッドライトから左右対称で、広い幅でさらに明るい光が照射されることにより被写体/障害物をすばやく認識する手助けをします。

以下のときに点灯： 約 50 km/h 以下の速度で走行中にオフロードプログラムセレクターダイヤルがポジション 1 または 2 のとき

以下のときに消灯： 約 50 km/h 以上の速度で走行しているとき

オフロードライトが点灯しているとき、コーナリングライト機能は常に作動、アクティブライト機能は作動停止、ヘッドライト光軸コントロールは静止モードにセットされています。

アダプティブハイビームアシスト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシストは、以下の道路利用者には反応しません。

- 歩行者などライトを持っていないとき
- 自転車にライトが装着されていても、ライトが暗いとき
- ガードレールの後ろにいるなど、道路使用者のライトが遮られているとき

まれに、アダプティブハイビームアシストはライトをもっている道路使用者をまったく検知しなかったり、検知が遅れたりします。 このような場合は、ハイビームヘッドライトが自動で切り替わらなかったり、他の道路使用者がいるときに不意に切り替わる場合があります。 事故の危険性があります。

道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。

この機能を設定すると、ヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り替えることができます。システムがライトを点灯している対向車または先行車を検知した場合には、ヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

このシステムは、他車との距離に応じてロービームの照射範囲を自動調整します。他車が検知されなくなると、再びハイビームに戻します。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側のルーフオペレーティングユニット付近に装着されています。

アダプティブハイビームアシストのオン / オフの切り替え

▶ **作動させる：** マルチファンクションディスプレイでアダプティブハイビームアシストを設定します。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向にいっぱいまで押します(▷ 108 ページ)。

周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示灯 [A] が点灯します。

約 45 km/h 以上の速度で走行している場合

ヘッドライトの照射範囲は、他車や他の道路使用者との距離に応じて自動的に設定されます。

約 55 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が認識されていない場合

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの表示灯 [≣D] も点灯します。

45 km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が認識されている、または道路が十分に照らされている場合

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの表示灯 [≣D] が消灯します。マルチファンク

ションディスプレイの表示灯 [icon] は点灯したままになります。

▶ **解除する：** コンビネーションスイッチを通常の位置に戻します。
メーターパネルの表示灯 [icon] が消灯します。

ヘッドライト内側の曇り

外気の湿度が高いときは、ヘッドライト内面が曇ることがあります。

▶ ライトを点灯して走行します。
走行の長さおよび天候状態（湿度と温度）により、曇り具合は低下します。

曇り具合が低下しないとき

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドライトの点検を受けてください。

ルームライト

ルームライトとルーフオペレーティングユニットの概要は"はじめに"をご覧ください。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ルームライトの自動点灯
- ルームライトの手動点灯
- 緊急時点灯機能

電球の交換

重要な安全上の注意

キセノンライト

⚠ **危険**

キセノンバルブには高電圧が発生しています。キセノンバルブのカバーを取外し、電気端子に触れると、感電するおそれがあります。 致命的なけがをするおそれがあります。

決して、キセノンバルブの構成部品や電気端子に触れないでください。 キセノンバルブに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

キセノンバルブが装備されているときは、以下のように確認することができます。エンジンを始動したときに、キセノンバルブからの光の軸が上から下に動き、元に戻ります。この動きを確認するには、エンジンを始動する前にヘッドライトを点灯させなければなりません。

バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

その他の電球の取り扱い

⚠ **警告**

作動時、電球、ランプおよびコネクターは非常に暑くなります。 電球を交換するとき、これらの構成部品を触れると火傷するおそれがあります。 けがの危険性があります。

電球を交換するとき、これらの構成部品を触れると火傷するおそれがあります。

キセノンバルブ以外にも交換できない電球があります。挙げられてる電球のみを交換してください (▷ 113 ページ)。お客様自身で交換できない電球については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

電球交換の補助が必要なときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

新しい電球のガラス管には素手で触れないようにしてください。少しの汚れでもガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球を取り付けるときは常

に、柔らかい布を使用するか、バルブ底部にのみ触れるようにしてください。

適切な種類の電球のみを使用してください。

新しい電球も点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球の交換 / 種類の概要

以下の電球を交換できます。 電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。

ハロゲンヘッドライト

① ロービームヘッドライト：H7 55 W

② ハイビームヘッドライト：H7 55 W

③ 車幅灯 / パーキングランプ：W 5 W BV

テールランプ

① ブレーキランプ: P 21 W-L

フロントライトの電球交換

フロントホイールアーチのカバー取付け / 取外し

フロントの電球を交換する前に、前輪のハウジングからカバーを取り外してください。

- **取り外し：** ライトスイッチをオフにします。
- 前輪を内側にまわします。
- 適切なツールを使用して、固定用ピン ② を取り外します。
- カバー ① を上にずらし、取外します。
- **取り付け：**カバー ① を再び差し込み、かみ合うまで下にずらします。
- 固定用ピン ② を差し込みます。

ロービームヘッドライト（ハロゲンヘッドライト）

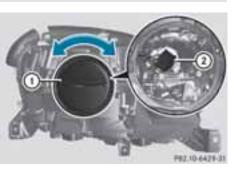
⚠ 警告

電球には圧力がかかっています。

交換するとき、以下の状況で破裂するおそれがあります：

• まだ熱いとき
• 取り外す際に物にぶつけたとき
• 落としたとき

けがの危険性があります。

電球を交換するときは保護メガネやきれいな手袋を着用してください。必要に応じて、電球はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

▶ フロントホイールアーチのカバーを取り外します。(▷ 113 ページ)

▶ ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。

▶ ソケット ② を反時計回りにまわして引き抜きます。

▶ ソケット ②から電球を抜き取ります。

▶ 新しい電球をソケット ②に差し込みます。

▶ ソケット ② をランプに差し込み、時計回りにまわします。

▶ ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

▶ フロントホイールアーチのカバーを交換します。(▷ 113 ページ)

ハイビームヘッドライト（ハロゲンヘッドライト）

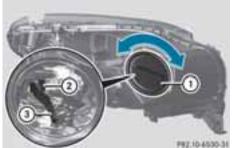
⚠ 警告

電球には圧力がかかっています。

交換するとき、以下の状況で破裂するおそれがあります：

• まだ熱いとき
• 取り外す際に物にぶつけたとき
• 落としたとき

けがの危険性があります。

電球を交換するときは保護メガネやきれいな手袋を着用してください。必要に応じて、電球はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

▶ ライトを消灯します。

▶ ボンネットを開きます。

▶ ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。

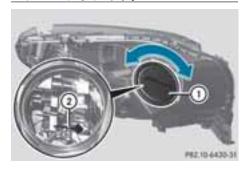
▶ レバー ③ を上方に引き、ソケット ② を取り外します。

▶ ソケット ②から電球を取り外します。

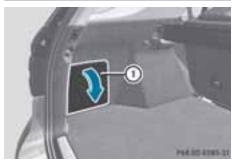
▶ 新しい電球をソケット ②に差し込みます。

▶ 同時にソケット ② を押して、レバー ③ を下方に引きます。

▶ ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

サイドランプ / パーキングランプ（ハロゲンヘッドライト）

▶ ライトを消灯します。
▶ ボンネットを開きます。
▶ ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
▶ ソケット ② を引き抜きます。
▶ ソケット ② から電球を取り外します。
▶ 新しい電球をソケット ② に差し込みます。
▶ ソケット ② を差し込みます。
▶ ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

リアライトの電球交換

メンテナンスフラップの開閉

左側のメンテナンスフラップ

右側のメンテナンスフラップ

ブレーキランプの電球を交換する前に、ラゲッジルーム内のメンテナンスフラップを開く必要があります。

▶ **開く：**メンテナンスフラップ ① の上部を解除し、ドライバーなどを使用して下方の矢印方向に下げます。
▶ 右側：先に救急セットを取り除き、ラゲッジネットを下方に引きます。
▶ **閉じる：** メンテナンスフラップ ① を再びはめます。

ブレーキランプ

- ライトを消灯します。
- ラゲッジルームを開きます。
- メンテナンスフラップを開きます。(▷ 115 ページ)
- ソケット ① を反時計回りにまわして取り外します。
- ソケット ① から電球を抜き取ります。
- 新しい電球をソケット ①に差し込みます。
- ソケット ① をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- メインテナンスフラップを閉めます。(▷ 115 ページ)

フロントワイパー

フロントワイパーのオン / オフ

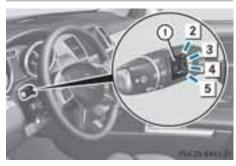
コンビネーションスイッチ

1 [0] ワイパー停止
2 [•••] 低速間欠モード（レインセンサーは低感度に設定）
3 [••••] 高速間欠モード（レインセンサーは高感度に設定）
4 [—] 低速作動モード
5 [=] 高速作動モード
⑥ 1 回のワイパー作動
⑦ ウォッシャー液噴射の位置

- エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置(▷ 127 ページ)にまわします。
- コンビネーションスイッチを作動の位置にします。

[•••] または [••••] の位置では、雨滴量に応じてワイパーの作動が自動的に調整されます。[••••] の位置では、レインセンサーは [•••] の位置よりも高感度となり、ワイパーはより短い間隔で作動します。

ワイパーブレードが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。交通状況の確認を妨げるおそれがあり、そのため事故の原因になります。ワイパーブレードは春と秋の年に 2 回交換してください。

リアワイパーのオン / オフ

コンビネーションスイッチ
① リアワイパースイッチ
2 ウォッシャー液噴射の位置
3 I 間欠ワイパーの位置
4 0 間欠ワイパー停止の位置
5 ウォッシャー液噴射の位置

- ▶ エンジンスイッチのキーを 1 または 2 の位置にします(▷ 127 ページ)。
- ▶ コンビネーションスイッチのスイッチ ① を対応する位置にまわします。
  リアワイパーが作動し、メーターパネル内にアイコンが表示されます。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

! ワイパーアームがフロントウインドウ/リアウインドウから離れて倒れている場合は、ボンネット/テールゲートを決して開かないでください。

ワイパーブレードのないワイパーアームをフロントウインドウまたはリアウインドウの元の位置に決して戻さないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、フロントウインドウのワイパーアームを確実に持ってください。 ワイパーブレードのないワイパーアームを放し、フロントウインドウ/リアウインドウの上に落ちた場合は、フロントウインドウ/リアウインドウが衝撃の力で損傷するおそれがあります。

メルセデス・ベンツはワイパーブレードの交換をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム以外には触れないようにしてください。

フロントワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

- ▶ 解除ノブ ① をしっかりと押し、ワイパーブレード②をワイパーアームから矢印の方向に引き上げます。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレード①をワイパーアームの固定部に合わせ、矢印 の方向へ所定の位置にスライドさせます。ワイパーブレードを音が聞こえるまでかみ合わせます。

▶ ワイパーブレードが確実に固定されたことを確認します。

▶ ワイパーアームをウインドウの元の位置に戻します。

リアワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 固定されるまでワイパーアーム ① をリアウインドウから起こします。

▶ ワイパーブレード ② を、ワイパーアーム ① に対して直角の位置にします。

▶ ワイパーアーム ① を持ち、解除されるまでワイパーブレード ② を矢印の方向に押します。

▶ ワイパーブレード ② を取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレード ② をワイパーアーム ① に合わせます。

▶ ワイパーアーム ① を持ち、固定されるまでワイパーブレード ② を矢印と反対の方向に押します。

▶ ワイパーブレード ② が正しい位置にあることを確認します。

▶ ワイパーブレード ② をワイパーアーム ① と平行の位置にします。

▶ ワイパーアーム ① をリアウインドウの元の位置に戻します。

フロントワイパーの故障

これに関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意

以下のページで推奨されている設定に注意してください。 停止したままにすると、ウインドウが曇りやすくなります。

ウインドウを曇りから防ぐには以下を行います:

- 短時間だけエアコンのオン / オフを切り替える
- 短時間だけ内気循環モードをオンにする
- AC モードをオンにする
- 必要に応じて、フロントウインドウのデフロスター機能を短時間オンにする

エアコンディショナーは温度と車内の湿度を調整して、空気中の汚染物質をフィルターにかけます。

エアコンディショナーは、エンジンが作動中の場合のみ使用可能です。 システムは、サイドウインドウとルーフが閉じている場合のみ、適切に機能します。

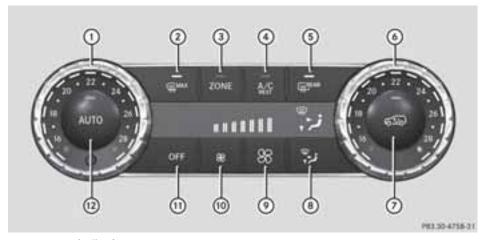
余熱ヒーター機能は、エンジンが停止している場合のみ作動または解除することができます。 デジタル版取扱説明書をご覧ください。キーワードは"余熱ヒーター" です。

ℹ 暖かい気候の間は、例えば、コンビニエンスオープニング機能を使用して少しの間車両を換気します。

これにより、冷却処理が早くなり、より早く希望の車内温度に達します。

ℹ 内蔵フィルターは、ほこりの大部分の粒子をろ過し、花粉を完全にろ過することができます。 詰まったフィルターは車内に供給される空気の量を減らします。 このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換間隔を必ず遵守してください。 重度の大気汚染のような環境の状況によるので、間隔は整備手帳に記述されているよりも短くなることがあります。

ℹ エアコンディショナーシステムを乾燥させるために、キーを抜いてから 1 時間は、余熱ヒーター機能が自動的に作動する可能性があります。 車両は約 30 分間換気を行います。

オートエアコンディショナー（2 ゾーン）の操作パネル

フロント操作パネル

① 温度設定、左

② フロントウインドウの曇りを取る

③ 独立温度設定機能のオン / オフの切り替え

④ AC モードでの冷房を設定 / 解除 または余熱ヒーター

⑤ リアデフォッガーの作動と停止の切り替え

⑥ 温度設定、右

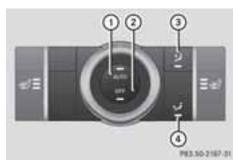
⑦ 内気循環モードの設定 / 解除

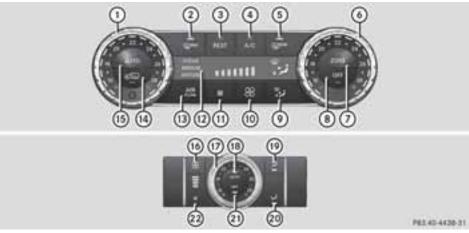
⑧ 送風口の設定

⑨ 送風量を上げる

⑩ 送風量を下げる

⑪ エアコンディショナーのオン / オフを切り替え

⑫ エアコンディショナーを AUTO モードに設定

リア操作パネル
① 後席のエアコンディショナーの自動制御
② 後席のエアコンディショナーのオン / オフを切り替え
③ リアの送風口から送風
④ 足元の送風口から送風

オートエアコンディショナー（3 ゾーン）の操作パネル

フロント操作パネル
① 温度設定、左
② フロントウインドウの曇りを取る
③ 余熱機能の設定 / 解除
④ AC モードでの冷房を設定 / 解除
⑤ リアデフォッガーの作動と停止の切り替え
⑥ 温度設定、右
⑦ 独立温度設定機能のオン / オフの切り替え

⑧ エアコンディショナーのオン / オフを切り替え
⑨ 送風口の設定
⑩ 送風量を上げる
⑪ 送風量を下げる
⑫ ディスプレイ
⑬ エアコンディショナーモードの設定
⑭ 内気循環モードの設定 / 解除
⑮ エアコンディショナーを AUTO モードに設定

リア操作パネル
⑯ 送風量を上げる
⑰ 温度の設定
⑱ 後席のエアコンディショナーの自動制御
⑲ リアの送風口から送風
⑳ 足元の送風口から送風
㉑ 後席のエアコンディショナーのオン / オフを切り替え
㉒ 送風量を下げる

エアコンディショナーシステムの操作

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エアコンディショナーのオン / オフ
- AC モードのオン / オフ
- エアコンディショナーを AUTO モードに設定する
- エアコンディショナーモードの設定
- 温度の設定
- 送風口の設定
- 送風量の設定
- 独立温度設定機能のオン / オフ
- ウインドウデフロスター
- デフロスターモード
- リアデフォッガーの作動と停止の切り替え
- 内気循環モードの作動 / 解除
- 余熱ヒーターベンチレーションのオン / オフ
- 送風口の調整

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

慣らし運転

重要な安全上の注意

交換された新しいブレーキパッド/ブレーキパッドおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適なブレーキ性能を発揮します。 ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少したブレーキ効果を補ってください。

最初の約 1,500 km

最初に十分な注意を払ってエンジンを取り扱えば、その後、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

- 最初の約 1,500 km は、さまざまな車両速度およびエンジン回転数で走行してください。
- アクセルをいっぱいに踏み込むなど、エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン(許容限度)の ⅔ を超えないように、適切にギアシフト操作しながら運転してください。
- エンジンブレーキをかけるためにマニュアルギアシフトでギアをシフトダウンしないでください。
- 走行中にアクセルペダルを限界以上にいっぱいまで踏み込むこと(キックダウン)は避けてください。
- 山間地を走行するときなど、ゆっくりと走行するときにのみ、ギアレンジ **3**、**2** または **1** に入れてください。

約 1,500 km 後は、最大荷重およびエンジン回転数まで車両を徐々に加速することができます。

AMG 車の慣らし運転に関する注意事項

- 最初の約 1,500 km は、約 140 km/h 以上の速度で走行しないでください。
- 短時間のみ、エンジンがエンジン最大回転数 4,500 rpm に達するようにしてください。
- 最初の 1,500 km は、主に走行モード **C** で車両を運転してください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

走行

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

運転席の足元にあるものは、ペダルの動きを制限したり、踏んだペダルを妨げることがあります。車両の操作および道路の安全性がおびやかされます。 事故の危険性があります。

すべてのものが車内に正しく収納され、運転席の足元に入り込むことができないことを確認してください。ペダルとの十分な隙間を確保するために、記載されているようにフロアマットを確実に装着し

ます。固定していないフロアマットを使用しないでください。

⚠ 警告

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下のようになることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- ホールド機能の損失

火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 走行する前に、パーキングブレーキを確実に解除してください。 パーキングブレーキの加熱、誤作動や早期摩耗の原因となります。

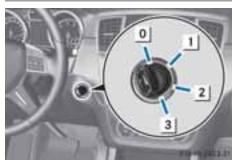
! 素早く暖機運転します。 エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。 駆動系部品が損傷するおそれがあります。

! **AMG 車：**エンジンオイル温度が約 +20 ℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。 エンジンを保護し、スムーズに作動させるため、エンジンが冷えているときはアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。

キーの位置

キー

0 キーを差し込む / 抜く位置

1 エンジン停止時にワイパーなどの電気装備が使用できる位置

2 イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置

3 エンジンを始動する

ℹ キーがその車両のものでなくても、イグニッションロックに差し込んで回すことはできます。しかし、イグニッションはオンになりません。エンジンの始動はできません。

キーレスゴー

全体的な注意事項

- キーレスゴーキーを以下に保管しないでください。
  - 携帯電話や他のキーなどの電子機器
  - 硬貨や金属片などの金属物
  - 金属ケースなどの金属物の内部

  これによりキーレスゴー付きのキーの機能に影響を与えることがあります。

温度制御カップホルダー (▷ 242 ページ) にキーレスゴーキーを保管しないでください。さもなければ、キーレスゴーキーが検知されません。

キーレスゴースイッチ装備車には、キーレスゴー機能が内蔵されたキーと脱着式のキーレスゴースイッチが付いています。

キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに挿入されていて、キーレスゴーキーが車内になければなりません。

キーレスゴースイッチを押すたびに、イグニッション位置が切り替わります。イグニッション位置の選択は、ブレーキペダルを踏んでいない状態で行ないます。

ブレーキペダルを踏んだ状態でキーレスゴースイッチを押すと、ただちにエンジンが始動します。

ℹ 車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押して保持すると、エンジンを停止することができます。この機能は、ECO スタート / ストップの自動エンジン停止機能とは独立して作動します。

キーレスゴースイッチのキーの位置

電源供給をオンにする

▶ キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていなければ、キーはイグニッションから取り外されていることに相当します。

▶ キーレスゴースイッチ ① を 1 回押します。
電源供給がオンになります。これで例えばワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

ℹ 電力供給は以下のときに再度オフになります。

- 運転席ドアが開かれて、そして
- キーレスゴースイッチ ① をこの位置で 2 回押したとき

イグニッションをオンにする

▶ エンジンスイッチ ① を 2 回押します。
イグニッションがオンになります。

ℹ 電力供給は以下のときに再度オフになります。

- 運転席ドアが開かれて、そして
- キーレスゴースイッチ ① をこの位置で 1 回押したとき

キーレスゴースイッチの取り外し

キーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んでまわすことにより、通常の方法でエンジンを始動することができます。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ℹ キーレスゴースイッチ ① をエンジンスイッチ ②に差し込むと、システムは認識に約 2 秒間かかります。その後、キーレスゴースイッチ ①を使用することができます。

ℹ キーレスゴースイッチは、車から離れるときでもエンジンスイッチから取り外す必要はありません。

ℹ トランスミッションがポジション P のときにのみ、キーレスゴーモードとキー操作の間で切り替えることができます。

エンジンの始動

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

子供だけを残して車から離れないでください。

- ドアを開けることによって、他の人々や道路利用者を危険にさらすおそれがあります。
- 車両から降りて、通過する車にぶつかるおそれがあります。
- 車両の装備品を操作してしまうおそれがあります。

さらに以下のような場合に、子供が車両を動かしてしまうおそれもあります。

- パーキングブレーキを解除する。
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする。
- エンジンを始動する。

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。 キーは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ **警告**

排気システム、または熱くなっているエンジンの部品に接触すると、環境の影響または動物によってもたらされた可燃性の素材が発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないことを確認してください。

ℹ 触媒は、冷間始動後、約 30 秒間、予熱されます。この間、エンジンの音が変わることがあります。

オートマチックトランスミッション

▶ シフトポジションを P にしてください。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
マルチファンクションディスプレイにシフトポジション P が表示されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ℹ シフトポジションが N のときも、エンジンを始動することができます。

キーによるエンジンの始動

▶ エンジンスイッチのキーを 3 の位置 (▷ 127 ページ) にまわして、エンジンがかかったらすぐに放します。

キーレスゴースイッチ操作によるエンジンの始動

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
▶ エンジンスイッチ(▷ 128 ページ)を 1 度押します。
エンジンが始動します。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込まなくても、キーレスゴースイッチを使用することで車両をスタートできます。車内にキーがあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。エンジン始動のこのモードは、ECO スタート/ストップの自動エンジンスタート機能と独立して作動します。

発進

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または R に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション D または R に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
▶ トランスミッションをポジション D または R にシフトします(▷ 132 ページ)。
▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。
▶ アクセルペダルを注意しながら踏み、発進します。
パーキングブレーキは自動的に解除されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
メーターパネルの赤い (P) 表示灯が消灯します。

ℹ ブレーキペダルを踏んでいるときのみに、トランスミッションをポジション P から希望のポジションにシフトすることができます。その後にのみ、パーキングロックが解除されます。ブレーキペダルが踏まれていない場合は、DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーはまだ動かすことができますが、パーキングロックは固定されたままになります。

ℹ 発進すると、車が自動的に施錠されます。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます。(▷ 181 ページ)

ⓘ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

⚠ 警告

しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。 事故やけがの危険性があります。

従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

▶ ブレーキペダルから足を放します。
車両はその後、約 1 秒間停止します。

▶ 発進します。

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。 ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

ただし、ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションを **N** にしたとき
- 電気式パーキングブレーキを利かせているとき
- ESP®が故障しているとき

ECO スタート / ストップ機能

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンが自動的にオフになり、車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。 事故やけがの危険性があります。

車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定します。

全体的な注意事項

① ECO スタート / ストップ表示

マルチファンクションディスプレイに ECO マークが緑で表示される場合は、車両が停止したときに ECO スタート / ストップ機能 がエンジンを自動的にオフにします。

再び発進すると、自動的にエンジンが始動します。その結果、ECO スタート / ストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させます。

キーまたはキーレスゴースイッチを使ってエンジンをオンにするたびに、ECO スタート / ストップ機能が作動します。

ECO スタート/ストップ機能が手動で解除された(▷ 132 ページ)、または故障が原因でシステムが解除された場合は、ECO マークは表示されません。

AMG 車：マルチファンクションディスプレイの AMG メニューにある、Stop/Start active または Stop/Start inactive メッセージが消えます。

AMG 車：ECO スタート / ストップ機能は走行モード **C** でのみ使用できます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

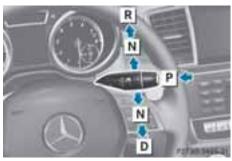
- エンジン自動停止
- 自動エンジンスタート
- ECO スタート / ストップ機能の作動 / 作動解除

エンジンの故障

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

オートマチックトランスミッション

DIRECT SELECT レバー

シフトポジションの概要

P パーキングロック付きパーキングポジション
R リバースギア
N ニュートラル
D ドライブ

DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーは、ステアリングの右側にあります。

ℹ ダイレクトセレクトレバーは常に元の位置に戻ります。現在のシフトポジション **P**、**R**、**N** または **D** がマルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に表示されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シフトポジションおよび走行モード表示
- パーキングポジション P の選択
- パーキングポジション P の自動選択
- リバースギア R の選択
- ニュートラル N(ECO スタート/ストップ機能が作動した状態)
- ニュートラル N の選択
- ECO スタート/ストップ機能が作動した状態でのドライブポジション D
- ドライブポジション D の選択

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 重要な安全上の注意
- シフトポジション
- ギアの変速
- 運転のヒント
- 走行モード選択スイッチ
- パドルシフト
- オートマチック走行モード
- シフトレンジ
- トランスミッションの問題

マニュアルギアシフト

マニュアルギアシフトの作動

マニュアル走行モード **M** では、トランスミッションが **D** の位置の場合に、パドルシフトを使用してギアを変更すること

ができます。現在の走行モードおよび入っているギアは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

- ▶ **AMG 車：**マルチファンクションディスプレイに M が表示されるまで、走行選択スイッチを押します。デジタル版取扱説明書をご覧ください。
- ▶ **オン&オフロードパッケージ装備車：**走行モード選択スイッチを押します。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

シフトアップ(AMG 車を除くすべての車両)

- ▶ 右側のパドルを引きます。詳しくはデジタル版取扱説明書をご覧ください。
  1 段高いギアにシフトします。

シフトアップ(AMG 車)

! マニュアルギアシフト M では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。 エンジンの許容回転数に達すると、エンジンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。 エンジン回転数が許容回転数を超えて、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。 エンジンが損傷するおそれがあります。

① シフトインジケーター

② シフトアップインジケーター

エンジン回転数が赤い範囲に達する前に、シフトアップインジケーターがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- ▶ スピードメーターのマルチファンクションディスプレイの色が赤色に変わり、ディスプレイメッセージ UP が表示される場合は、ギアをシフトアップします。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シフトダウン
- キックダウン
- マニュアル走行モードの解除

給油

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ **警告**

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料が肌、目または衣服と接触しておらず、飲み込まれていないことを確認しなければなりません。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医療補助を求めてください。

- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医療補助を求めてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

⚠ **警告**

静電気の蓄積により、火花が発生したり、燃料の気体に引火するおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。

燃料給油口または給油ノズルを開く前に、必ず車体に触ってください。 蓄積されている可能性がある静電気を放電します。

⚠ **警告**

ディーゼルエンジン装備車両：

ディーゼル燃料とガソリンを混ぜると、引火点は純粋なディーゼル燃料のものよりも低くなります。エンジンがかかっているときは、排気システムの部品が気付かないうちにオーバーヒートすることがあります。火災の危険性があります。

ガソリンを給油しないで下さい。ガソリンをディーゼル燃料と混ぜないでください。

! ディーゼルエンジン車両に給油するためにガソリンを使用しないでください。 ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。 誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入ります。少量の誤った燃料でも、燃料システムとエンジンの損傷につながるおそれがあります。 修理費用が高くなります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

! 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

! 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。 塗装面が損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。 燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

給油中は車内に戻らないでください。再び帯電することがあります。

燃料タンクに補充しすぎると、燃料ポンプノズルを取り外すときに多少の燃料が飛散することがあります。

燃料と燃料の品質に関する詳細 (▷ 303 ページ)。

セルフ式のガソリンスタンド

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

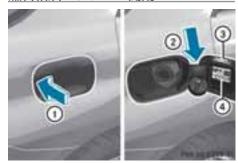
- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。

  給油作業を行なう人以外は燃料給油フラップに近づかないでください。
- 給油作業を行なう人は、身体の静電気を除去するため、給油前に車体などの金属に触れてください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり火傷をするおそれがあります。 火災のおそれがあります。
- 給油中は車内に戻らないでください。再び帯電することがあります。
- フューエルキャップの開閉は確実に行なってください。 火気を近づけないようにしてください。

- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。 燃料があふれるおそれがあります。
- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。 燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

給油

燃料給油フラップの開閉

① 燃料給油フラップを開く
② キャップをはめる
③ 使用燃料表示
④ タイヤ空気圧ラベル

キーまたはキーレスゴーで車を施錠/解錠すると、燃料給油フラップも自動的に施錠/解錠されます。

燃料給油フラップは車両の右側後方にあります。

メーターパネル内には、キャップの位置を示す [fuel icon] が表示されています。給油ノズルの横の矢印は、給油口の取り付け位置を示しています。

開く

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ キーレスゴー：運転席ドアを開きます。
  イグニッション位置が 0 で、"キーを抜き取った"状態と同じになります。
  運転席ドアを再び閉じることができます。
- ▶ 燃料給油フラップ①の矢印の位置を押します。
  燃料給油フラップが開きます。
- ▶ 燃料給油フラップを反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 外したキャップを燃料給油フラップ②の裏側にあるホルダーにかけます。
- ▶ 給油ノズルを取り付け、奥まで差し込み、給油を開始します。
- ▶ 給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止してください。

ℹ 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料があふれるおそれがあります。

閉じる

- ▶ キャップを給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして確実に閉じます。
- ▶ 燃料給油フラップを閉じます。

ℹ 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。

燃料および燃料タンクの不具合

このセクションでは、安全性に関わる不具合の内容と対応方法について説明しています。 詳しい不具合内容および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	燃料供給システムまたは燃料タンクに問題がある。 ⚠ **警告** 爆発または火災の危険性 ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわし、ただちに抜いてください。(▷ 127 ページ). ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

AdBlue® (BlueTEC 車のみ)

使用に関する重要な注意

正しく機能させるためには、BlueTEC 排気ガス後処理装置は還元剤 AdBlue® とともに作動させなければなりません。

AdBlue® の残量が少なくなると、マルチファンクションディスプレイに AdBlue を 補充してください 取扱説明書を参照 というメッセージが表示されます。

AdBlue® 残量が下限まで低下すると、マルチファンクションディスプレイに XXXX km 以内に AdBlue を 補充して ください というメッセージが表示されます。

マルチファンクションディスプレイに XXXX km 以内に AdBlue を 補充して ください というメッセージが表示されたときは、表示された距離まで車両を走行することができます。AdBlue® を補充しないときは、**それ以降エンジンを始動することができなくなります**。AdBlue® タンクに補充します。 AdBlue® タンクへの補充はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。マルチファンクションディスプレイに ｴﾝｼﾞﾝ始動不可 AdBlue を 補充してください というメッセージが表示され、エンジンが始動不能になったときは、約 3.8 L 以上の AdBlue®（AdBlue® 補充用ボトル、約 2 本分）を補充してください。.

ℹ 走行速度が約 15 km/h 以上になると、約 1 分後に AdBlue を 補充してください 取扱説明書を参照 というメッセージが消えます。

外気温度が約 -11 ℃ 以下の場合は、補充することが困難なことがあります。AdBlue® が凍結して警告インジケーターが作動した場合は、補充ができなくなることがあります。AdBlue®が再度液体になるまで、車両を車庫の中などの暖かい場所に駐車してください。その後に、補充が再度可能になります。または、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で AdBlue® タンクを補充してください。

BlueTEC 排気ガス後処理装置や AdBlue®について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

補充手順に関する重要事項

AdBlue® はディーゼルエンジンの排気ガス後処理装置用の水溶性の液体です。以下のような特徴があります。

- 無毒
- 無色および無臭
- 不燃性

AdBlue®タンクを開くと、少量のアンモニアの気体が放たれることがあります。

アンモニアの気体は刺激臭があり、特に皮膚、粘膜そして目に刺激を与えます。目、鼻および喉に燃えるような感覚を感じることがあります。咳き込んだり、涙目になる可能性があります。

アンモニア蒸気が発生したときは、吸い込まないでください。AdBlue® タンクの補充は、必ず換気の行き届いた場所で行なってください。

燃料を吸い込んだり、皮膚、眼、服に付着させたりしないようにしてください。 AdBlue® は子供から離してください。

お客様または他の人が AdBlue®に触れた場合は、以下に従って下さい。

- ただちに肌から AdBlue® を石けんおよび水ですすいでください。
- AdBlue® が目に触れた場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- AdBlue® を飲み込んだ場合は、すぐに口をゆすいでください。多量の水を飲んでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- AdBlue®が付着した衣類は、ただちに着替えてください。

! ISO 22241 に適合した AdBlue®のみを使用してください。AdBlue®にいかなる添加剤を混ぜたり、AdBlue®を水で薄めないでください。BlueTEC 排気ガス後処理システムを損傷することがあります。

! AdBlue® のタンクに補充するためには、車両は水平な路面に駐車していなければなりません。車両を水平な路面に駐車しているときにのみ、意図したようにAdBlue®のタンクに補充することができます。これにより、容量の変動が避けられます。水平でない路面にある車両に補充することは許可されていません。あふれる危険性があり、BlueTEC 排気ガス後処理システムの部品を損傷する原因になることがあります。

! 補充を行なっているときに、カーペットや塗装面などの表面に AdBlue®が付着したときは、十分な水でただちに洗い流してください。洗い流したあとは、ただちに湿らせた布と冷水で AdBlue®を拭き取ってください。 AdBlue®が結晶化してしまったときは、スポンジと冷水で取り除いてください。 AdBlue®の残留物は、一定時間後に結晶化し、表面を損傷させます。

! AdBlue® は燃料の添加剤ではなく、燃料タンクに足してはいけません。AdBlue®を燃料タンクに加えると、エンジンの不具合につながるおそれがあります。

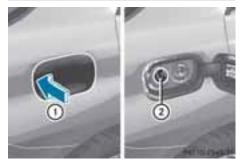
AdBlue® タンクへの補充はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。ただし、以下の方法で AdBlue® タンクへの補充を行なうこともできます。

- AdBlue® 充填ポンプを備えたガソリンスタンド
- AdBlue® 補充用ボトル
- AdBlue® 補充容器

充填ポンプで補充中に給水ノズルが自動的に停止すると、AdBlue® タンクが満タンになります。それ以上 AdBlue® タ

ンクに補充しないでください。AdBlue® があふれるおそれがあります。

AdBlue® についてのさらなる情報は、(▷ 303 ページ) をご覧ください。

AdBlue® 補充キャップを開く

キーまたはキーレスゴーで車を施錠 / 解錠すると、燃料給油フラップも自動的に施錠 / 解錠されます。

▶ エンジンスイッチをオフにします。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。
燃料給油フラップが開きます。

▶ AdBlue® 補充キャップ ② を反時計回りに回して取り外します。
AdBlue® 補充キャップ ② はプラスチック片で固定されています。

AdBlue® 補充容器

! 使い捨てホースを非常に強い力で締めないでください。さもなければ、使い捨てホースが壊れるおそれがあります。

▶ AdBlue® 補充容器 ②上部にある開口部のキャップを外します。

▶ 使い捨てホース ① を AdBlue® 補充容器 ② の開口部に取り付け、時計回りに手締めします。

i 使い捨てホース ① を車両の AdBlue® 補給口に固定するまで、使い捨てホース① は閉じた状態になります。

▶ 使い捨てホース ① を車両の補給口に取り付け、時計回りに手締めします。
抵抗が感じられたら、使い捨てホース ① は十分に固定されています。

▶ AdBlue® 補充容器 ② を持ち上げ、傾けて AdBlue® を注入します。

i AdBlue® タンクが満タンになると、充填が停止します。それ以上 AdBlue® タンクに補充しないでください。AdBlue® 補充容器 ② は、少しでも中身を注入すると抜き取ることができます。

- 車両の補充口の使い捨てホース ① を反時計回りにまわして取り外します。
- AdBlue® 補充容器 ② に接続された使い捨てホース ① を反時計回りにまわして取り外します。
- AdBlue® 補充容器 ② に再びキャップをはめます。

AdBlue® 補充缶は多くのガソリンスタンドまたはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。 AdBlue® 補充缶は、しばしば補充ホースとともに販売されています。車両の AdBlue® タンクに適切に装着しない補充ホースは、過補充を防止することができません。過補充の結果、AdBlue® が漏れることがあります。メルセデス・ベンツは過補充防止の専用使い捨てホースを提供しています。これは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。AdBlue® は様々な容器入りで入手できます。使い捨てホースは、必ずメルセデス・ベンツ指定の AdBlue® 補充容器とともに使用してください。

AdBlue® 補充用ボトル

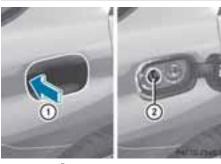
! AdBlue® 補充ボトルは手の力でのみ締めてください。さもないと、壊れることがあります。

- AdBlue® 補充用ボトル ① の保護キャップを外します。
- AdBlue®補充ボトル ① を補充口の記載どおりにセットし、手で締め付けます。
- AdBlue® 補充用ボトル ① を補給口側に押し付けます。
  AdBlue® タンクが満たされます。最大約 1 分かかることがあります。

i AdBlue® 補充用ボトル ① を押すのをやめると充填が停止し、少しでも注入すればボトルを抜き取ることができます。

- AdBlue® 補充用ボトル ① を抜き取ります。
- AdBlue® 補充用ボトル ① を反時計回りにまわして取り外します。
- AdBlue® 補充用ボトル ① の保護キャップを再び閉じます。

AdBlue® 補充缶は多くのガソリンスタンドまたはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。 スレッドシールの付いていない補充用ボトルには、過充填防止機能がありません。過補充の結果、AdBlue® が漏れることがあります。メルセデス・ベンツ日本株式会社でも、スレッドシール付きの専用補充用ボトルを提供しています。この補充用ボトルは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご購入いただけます。

AdBlue® 補充キャップを開く

▶ AdBlue® 補充キャップ ② を補給口に取り付け、時計回りにまわします。

▶ 燃料給油フラップを閉じるには、矢印の方向 ①に押します。

▶ 約 15 km/h より速く走行します。
約 1 分後に AdBlue を 補充してください 取扱説明書を確認 というメッセージが消えます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに AdBlue を 補充してください 取扱説明書を確認 というメッセージが表示され続けるときは、AdBlue® をさらに補充する必要があります。

駐車

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

葉、草または小枝のような可燃性の素材が熱くなった排気システムの部品にさらされて長く接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

可燃性の素材が熱い車両の部品に接触しないように車両を駐車します。乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないように特に注意してください。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ **警告**

保護者のいない子供を車両に残すと、例えば以下のようにして動かし始めるおそれがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション P からのシフト
- エンジンの始動

彼らは車両装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 子供だけを車内に残して車両から離れないでください。

❗ 車両が動き出さないように、必ず適切な方法で固定してください。車体または駆動系を損傷するおそれがあります。

車両が不意に動き出さないように、以下の方法で車を固定してください。

- パーキングブレーキを利かせなければなりません
- トランスミッションをポジション P にし、キーをエンジンスイッチから抜かなければなりません
- 上り坂または下り坂の勾配では、前輪を縁石方向に向けなければなりません
- 上り坂または下り坂の勾配では、荷物のない車は例えば輪止め、または似たようなもので前軸を固定しなければなりません
- 上り坂または下り坂の勾配では、積載車両は例えば輪止め、または似たようなもので後軸を固定しなければなりません

エンジンの停止

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション N に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション P に切り替えてください。 パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

デジタル版取扱説明書の情報

オートマチックトランスミッション装備車でエンジンをオフにする方法に関する記載は、デジタル版取扱説明書にあります。

パーキングブレーキ

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

駐車

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

運転のヒント

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 一般的な運転のヒント
- ブレーキ操作
  - 重要な安全上の注意
  - 下り坂
  - 高負荷 / 低負荷
  - 濡れた路面
  - 凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限
  - 新品のブレーキパッド / ライニング
  - AMG セラミック強化ブレーキシステム
- 濡れた路面の走行
- 寒冷時の走行
  - 全体的な注意事項
  - サマータイヤでの走行
  - 滑りやすい路面
- オフロード走行
  - 全体的な注意事項
  - 砂地の走行
  - わだちや砂利道
  - 障害物を越える走行
- 上り坂の走行
  - アプローチ / デパーチャーアングル
  - 登坂能力
  - 丘の頂上
  - 下り坂の走行

オフロード走行

重要な安全上の注意

⚠ 警告

急な斜面で斜めに走行している、または斜面で走行しているときに曲がる場合は、

走行と駐車

▷▷

車両が横に滑り、傾き、横転することがあります。事故の危険性があります。
急な斜面では常に落下線（直進での登りまたは下り）内を走行し、車両を旋回させないでください。

⚠ 警告
車高が高い場合は、車両の重心位置が上がります。これにより、上り坂または下り坂勾配で車両がより簡単に横転することがあります。事故の危険性があります。
最も低い可能な車高を選択します。

オフロード、砂、泥および水辺を走行するときに、例えばオイルが混ざったりすると、ブレーキに入り込むことがあります。これにより、ブレーキ性能は減少、またはブレーキ全体の故障、または磨耗や亀裂が増加することもあります。ブレーキ特性は、ブレーキに入り込んだ材質によって変化します。オフロード走行後にブレーキを清掃してください。ブレーキ性能の減少、または耳障りな音を検知した場合は、できるだけ早くブレーキシステムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。変わったブレーキ特性に運転スタイルを合わせてください。

オフロード走行は、曲がるときに機械部品、またはシステムの故障につながるおそれがあるような車両の損傷の可能性を増やします。運転スタイルを地形の状態に適するように合わせてください。注意して運転してください。 車両の損傷はメルセデス・ベンツ指定サービス工場でただちに修理してください。

オフロードを走行しているときは、トランスミッションをポジション **N** に切り替えないでください。 サービスブレーキを使用して、ブレーキを利かせようとすると、車両のコントロールを失うことがあります。 勾配がとても急な場合は、リバースギアで後退します。

オフロード走行前のチェックリスト

▶ **エンジンオイルレベル：**エンジンオイルを点検し、必要であれば補充します。
急な勾配を走行するときは、車両に適切にオイルを供給するようにオイルレベルが十分に高くなければなりません。

▶ **AdBlue®タンク(BlueTEC 車)：**液量レベルを点検し、必要であれば最大(13 L)まで補充します(▷ 136 ページ)。

▶ **タイヤ交換工具キット：**ジャッキが作動することを点検し、車両に輪止め、頑丈なけん引ケーブルおよび折りたたみ式シャベルがあることを確認してください。

▶ **ホイールおよびタイヤ：**タイヤトレッドの深さおよびタイヤ空気圧を点検してください。

▶ 損傷を点検し、小さな石のような異物をホイールおよびタイヤから取り除きます。

▶ 紛失したバルブキャップを再度取り付けます。

▶ 変形または損傷したホイールを取り替えます。

▶ **ホイール：**変形または損傷したホイールは、タイヤ空気圧の損失につながり、タイヤビードが損傷するおそれがあります。オフロード走行前に、ホイールを点検し、必要であればそれらを交換して下さい。

オフロード走行後のチェックリスト

! オフロード走行後に車両の損傷を検知した場合は、車両をすぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

▶ **オン&オフロードパッケージ非装備車：** オンロードプログラムを解除しま

す。 これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
- ▶ DSR を解除します。 これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
- ▶ ハイウェイ/高速レベルのように道路状況に適したレベルまで再度車高を下げます。
- ▶ ヘッドライトおよびリアライトを清掃し、損傷を点検します。
- ▶ 前と後のライセンスプレートを清掃します。
- ▶ 水流でホイール/タイヤを清掃し、異物を取り除きます。
- ▶ 水流でホイール、ホイールアーチ、および車両の下側を清掃し、異物や損傷を点検します。
- ▶ 小枝や植物の他の一部が挟まっていないかどうか点検してください。 これらにより火災の危険性が増加し、燃料パイプ、ブレーキホース、またはアクスルジョイントおよびプロペラシャフトのラバーベローズが損傷するおそれがあります。
- ▶ 走行後は必ず、車台全体、ホイール、タイヤ、ブレーキ、車体構造、ステアリング、シャーシ、および排気システムの損傷を検査してください。
- ▶ 砂、泥、砂利、水または似たように汚れた状態で長期間走行した後は、ブレーキディスク、車輪、ブレーキパッド/ライニングおよびアクスルジョイントを点検し、清掃してください。
- ▶ オフロード走行後に強い振動を検知した場合は、車輪や駆動系の異物を点検し、必要であればそれらを取り除いてください。 異物は、バランスを妨げ、振動の原因になることがあります。

起伏のある地形の走行は、通常の道路を走行するよりも車両に大きな負担を与えます。 オフロード走行後は、車両を点検してください。 これにより、損傷をすぐに検知し、お客様や他の道路使用者の事故の危険性を減らすことができます。

走行装備

クルーズコントロール

重要な安全上の注意

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、クルーズコントロールは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。クルーズコントロールは道路、天気、交通事情を考慮することはできません。クルーズコントロールは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例、混雑してる交通やカーブしている道路）。
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、不十分な視界のとき。

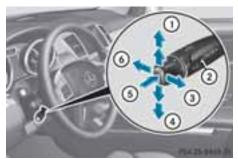
運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

全体的な注意事項

クルーズコントロールは走行速度を一定に維持するシステムです。 設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。 長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。 そうすることにより、エンジンブレーキを効かせることができます。 その

結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

クルーズコントロールは、一定の走行速度を長時間維持するのに適している道路・交通状況で使用してください。 約30 km/h 以上の任意の速度を設定できます。

クルーズコントロールレバー

① 速度を設定する/上げる

② LIM 表示灯

③ 現在の速度/前回の設定速度に設定する

④ 速度を設定する/下げる

⑤ クルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを切り替える

⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

▶ **可変スピードリミッターおよびクルーズコントロールを切り替える：**クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯②は現在選択されている機能を表示します。

- **LIM 表示灯②が消灯：**クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯②が点灯：**可変スピードリミッターが選択されています。

クルーズコントロールを作動させると、設定速度がマルチファンクションディスプレイに約 5 秒間表示されます。マルチファンクションディスプレイで、設定速度と最高速度のあいだのセグメントが点灯します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 作動条件
- 速度の記憶、維持、呼び出し
- 速度の設定
- クルーズコントロールの解除

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、可変スピードリミッターは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。 可変スピードリミッターは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 可変スピードリミッターは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

全体的な注意事項

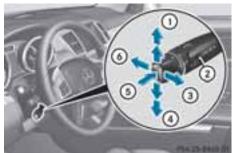
設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。 長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。そうすることにより、エンジンブレーキを効かせることができます。 これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。 さらにブレーキが必要な場合は、踏み続けるのでなく繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

可変スピードリミッターまたはスノータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変**スピードリミッターは市街地などで速度制限するためのシステムです。
- **スノータイヤ**スピードリミッターは、ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長時間の速度制限ためのシステムです。 (▷ 146 ページ)

ℹ スピードメーターに表示された速度は設定された制限速度と若干異なる場合があります。

可変スピードリミッター

クルーズコントロールレバー

① 速度を設定する/上げる
② LIM 表示灯
③ 現在の速度/前回の設定速度に設定する
④ 速度を設定する/下げる
⑤ クルーズコントロール/ディストロニックプラスおよび可変スピードリミッターを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターの解除

クルーズコントロールレバーで、クルーズコントロール/ディストロニックプラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

▶ **可変スピードリミッターおよびクルーズコントロール/ディストロニックプラスを切り替える：**クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯②は現在選択されている機能を表示します。

- **LIM 表示灯②が消灯：**クルーズコントロールまたはディストロニックプラスが選択されています。
- **LIM 表示灯②が点灯：**可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを操作して、約 30km/h 以上の任意の制限速度を設定できます。

現在の速度の記憶

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④に軽く押します。

現在の速度が設定されマルチファンクションディスプレイに表示されます。

マルチファンクションディスプレイのスピードメーターで、設定速度から下のセグメントが点灯します。

現在の速度の記憶および最後に記憶した速度の呼び出し

⚠ **警告**

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。

速度の設定

▶ **設定速度を約 10 km/h 単位で調整する：**設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるにはレバーを下 ④ に軽く操作します。

または

▶ 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを保持します。 速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、速度を下げるには下 ④ に操作します。

▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：**高い速度には上方へ ①、低い速度には下方へ ④ 、クルーズコントロールレバーを圧力点まで軽く押します。

または

▶ 希望する速度になるまでクルーズコントロールレバーを保持します。 速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、速度を下げるには下 ④ に操作します。

可変スピードリミッターの解除

可変スピードリミッターを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯②が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニックプラスが選択されます。

以下のときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを圧力点を越えて踏んだが(キックダウン)、現在の速度が保存した速度と約 20 km/h 以上の差がないときにのみ。このときは警告音が鳴ります。
- DSR を作動させたとき
- オフロードプログラム 2 を起動したとき(オン&オフロードパッケージ装備車)

ブレーキ操作で可変スピードリミッターを解除することはできません。

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを操作して、約 160 km/h(例えばウィンタータイヤで走行するとき) から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます(▷ 181 ページ)。

設定速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでも（キックダウン）、設定された制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行ないません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者や複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

その場合、ディストロニック・プラスは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 不意に加速する

事故の危険性があります。

特に、ディストロニック・プラスから警告が送られた場合は、慎重に運転しブレーキをかける用意をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは最大制動力の約 40% までで車両にブレーキをかけます。 制動力が不十分なときは、ディストロニック・プラスが音とランプで警告を送ります。 事故の危険性があります。

その場合は、必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能が解除されます：

- けん引されるとき
- 洗車時

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、ディストロニックプラスは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。 ディストロニックプラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。ディストロニックプラスはあくまでも運転を支援するシステムです。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

以下のときは、ディストロニックプラスを使用しないでください：

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき(例、混雑してる交通やカーブしている道路)。
- 滑りやすい路面のとき。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、不十分な視界のとき。

ディストロニックプラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なるラインを走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき

ディストロニックプラスが先行車を検知しなくなると、設定速度に予期せず加速することがあります。

以下の場合は加速するおそれがあります：

- 車線変更やスリップする道路を走行しているとき
- 左側通行で右車線のとき
- 右側通行で左車線のとき

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

全体的な注意事項

ディストロニックプラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する補助を行ないます。ディストロニック・ラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

ディストロニックプラスが前方に速度の遅い車両を検知すると、事前に設定された先行車との距離を維持するため、車両にブレーキをかけて減速させます。

ディストロニックプラスが衝突の危険があることを検知すると、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。 ディストロニックプラスは運転者の操作なしで衝突を回避することはできません。 断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯 が点灯します。安全な場合のみ、ただちにブレーキを操作して先行車のと距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

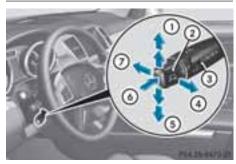
走行中にディストロニックプラスの効果を発揮させるには、レーダーセンサーをオンにして作動させる必要があります。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

ℹ 国によっては、レーダーセンサーシステムを解除する必要があります (▷ 181 ページ)。

レーダーセンサーシステムに関する詳細は、(▷ 308 ページ) をご覧ください。

前方に車両がいない場合は、ディストロニックプラスは、約 30 km/h から 200 km/h の速度範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。前を走行している車両がいる場合は、ディストロニックは約 0 km/h ～ 200 km/h のあいだの速度範囲で作動します。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニックプラスを使用しないでください。

クルーズコントロールレバー

① 速度を設定する/上げる
② 指定最小車間距離の設定
③ LIM 表示灯
④ 現在の速度/前回の設定速度に設定する
⑤ 速度を設定する/下げる
⑥ ディストロニックプラスおよび可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニックプラスの解除

クルーズコントロールレバーで、ディストロニックプラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

▶ **可変スピードリミッターおよびディストロニックプラスを切り替える：**クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑥ に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯③は現在選択されている機能を表示します。

- **LIM 表示灯③が消灯：**ディストロニックプラスが選択されています。
- **LIM 表示灯③が点灯：**可変スピードリミッターが選択されています。

ディストロニック・プラスの設定

作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件を満たさなければなりません。

- エンジンがかかっていること。ディストロニック・プラスが使用できる前に最大 2 分間走行していること
- パーキングブレーキを解除していること
- ESP® を使用しているが機能が介入していないこと
- トランスミッションがポジション **D** であること
- **P** から **D** にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが装着されていること
- 助手席ドアとリアドアが閉じていること
- DSR は解除されていること
- 車両が滑っていないこと
- ディストロニック・プラスの機能が選択されていること (▷ 149 ページ)

走行時の作動

▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く ④ か、上 ① または下 ⑤ に操作します。
ディストロニック・プラスが選択されます。

▶ 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを上 ① にまたは下 ⑤ に繰り返し操作します。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
希望の記憶した速度までのみ、先行車の速度に自車の速度が合わせられます。

先行車が検知され、マルチファンクションディスプレイに表示されると、約 30 km/h 以下の速度で走行するときも

ディストロニック・プラスを作動させることができます。例えば車線変更などで先行車が検知されなくなり、表示されなくなると、ディストロニック・プラスは解除されます。このときは警告音が鳴ります。

ℹ アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイにディストロニックプラス制御待機中というメッセージが表示されます。このときは、ゆっくり走行している先行車との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止車両に向かって走行しているときの作動

▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く ④ か、上 ① または下 ⑤ に操作します。
ディストロニック・プラスが選択されます。

▶ 希望の速度になるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ⑤ に操作したまま保持します。

自車の先行車が停止している場合は、自車が同様に停止したときにのみディストロニック・プラスを作動させることができます。

ℹ 約 30 km/h 以下では、先行車が検知されたときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。そのためには、メーターパネルのディストロニック・プラスの距離表示を作動させなければなりません (▷ 181 ページ)。

ℹ クルーズコントロールレバーを操作して希望の速度を設定したり、クルーズコントロールレバーのコントローラーを操作して規定最小距離を設定することができます。(▷ 152 ページ)

現在の速度 / 前回の設定速度に設定する

⚠ **警告**

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ④ に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニック・プラスが作動します。初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。それ以外のときは、以前に記憶させた値に車両の巡航速度を設定します。

ディストロニック・プラス作動時の運転

発進および走行

▶ **先行車が発進した場合は、**ブレーキペダルから足を放します。

▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く④ か、上①または下 ⑤ に操作します。

または

▶ 軽く加速します。
自車が発進して、速度を先行車の速度に合わせます。

先行車がいない場合は、ディストロニックプラスはクルーズコントロールと同じ方法で作動します。

先行車が減速したことをディストロニックプラスが検知すると、車両にブレーキを効かせます。このようにして選択された距離が維持されます。

より速く走行している先行車をディストロニックプラスが検知すると、走行速度が上がります。しかし、記憶した速度までのみ車両は加速します。

ブレーキを踏んだとき、自車が停止していないときはディストロニックプラスは解除されます。

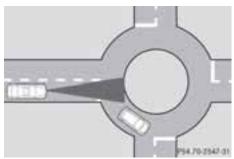
車線の変更

追い越し車線に移るときは、以下の条件でディストロニックプラスが運転者をサポートします。

- ディストロニックプラスが先行車との距離を維持しているとき
- 該当する方向指示灯を点滅させているとき
- ディストロニックプラスが衝突の危険を検知しないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が狭すぎるときは、加速は中断されます。

ℹ 車線変更を行なうとき、ディストロニックプラスは左ハンドル車では左側の車線、右ハンドル車では右側の車線をモニターします

COMAND システム装備車

例：ロータリー

ℹ 以下の機能はすべての国で操作可能なわけではありません。

ディストロニックプラスは、特定の交通状況に適応できるようにナビゲーションシステムからの追加情報を利用します。車両に追従しているときに、ディストロニックプラスが作動していて、以下のような場合がこれにあたります。

- ロータリーに接近しているときや走行しているとき
- T 字路に接近しているとき
- 高速道路の出口で分岐するとき

先行車が検知範囲から出てしまった場合でも、ディストロニックプラスは一時的にそのときの走行速度を維持し、加速はしません。これは、ナビゲーションシステムのそのときの地図データに基づいています。

以下のときは、そのときの速度が維持されます。

- ロータリー/T 字路の手前の約 10 秒間、およびロータリー走行中の約 1.5 秒間
- 高速道路出口に達する前の約 12 秒間、および高速道路出口の後約 4 秒間

その後、車両は指定した設定速度に戻るために加速します。

停止

⚠ **警告**

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっていても以下の場合は車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき

- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

先行車が停止したことをディストロニックプラスが検知すると、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。

しばらくするとパーキングブレーキにより車両が固定され、サービスブレーキは解除されます。

指定した最短距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。指定最短距離はクルーズコントロールレバーのコントローラーを使用して設定します。

ディストロニックプラスが作動していて以下のようなときにパーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- 運転席ドアを開いたときに運転席シートベルトが着用されていないとき
- ECO スタート/ストップ機能によりエンジンが自動的にオフになったのでない場合、エンジンがオフになっているとき
- システムに異常が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

急勾配の道路を走行しているときや異常が発生したときは、トランスミッションが自動的に P にシフトされることがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 速度の設定
- 指定最小車間距離の設定
- メーターパネルのディストロニック・プラスのディスプレイ表示

ディストロニック・プラスの解除

ディストロニック・プラスを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 車両が停止していない場合はブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ③ の方向に軽く押します。
可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーのLIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに約 5 秒間ディストロニック・プラスオフというメッセージが表示されます。

ⓘ エンジンを停止するまで、最後に記憶された速度がそのまま記憶されます。

ℹ ディストロニック・プラスは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越すために一時的に加速したときは、追い越しが終了した後にディストロニック・プラスは、最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

以下のときはディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを効かせたとき、または車両がパーキングブレーキで自動的に固定されたとき
- 約 25 km/h 以下で走行していて先行車両がいないとき、または先行車両が検知されなくなったとき
- ESP®が作動したときや ESP®の機能を解除したとき
- トランスミッションが **P**、**R**、または **N** ポジションにあるとき
- レーダーセンサーシステムを停止したとき (▷ 181 ページ)
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを手前に引き、助手席ドア、またはリアドアのどちらかが開いているとき
- DSR を作動させたとき
- 車両が滑ったとき

ディストロニック・プラスが解除されると警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイにディストロニック・プラス オフというメッセージが約 5 秒間表示されます。

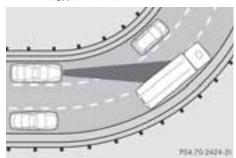
ディストロニック・プラス使用時の運転のヒント

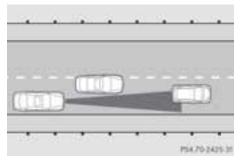
全体的な注意事項

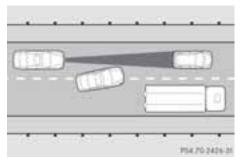
以下の交通状況では特に注意して運転してください。

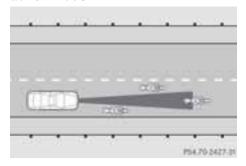
- カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき
- 車線の中央を走行していない車両があるとき
- 車線変更する他の車両があるとき
- 幅の狭い車両があるとき
- 障害物や停止車両があるとき
- 横切る車両があるとき

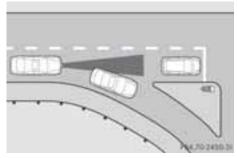
そのような状況では必要であればブレーキを効かせてください。ディストロニック・プラスは解除されます。

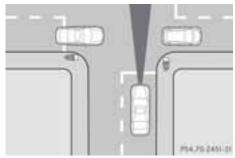
カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき

カーブではディストロニック・プラスの車両を検知する能力には限界があります。予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

車線の中央を走行していない車両

ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を認識することができません。先行車との距離は非常に短くなることがあります。

車線変更する他の車両

ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。この車両との距離は非常に短くなることがあります。

幅の狭い車両

ディストロニック・プラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しないことがあります。先行車との距離は非常に短くなることがあります。

障害物や停止車両

ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないことがあります。例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

横切る車両

ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、例えば不意に車両が発進することがあります。

ホールド機能

重要な安全上の注意

⚠ 警告

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを利かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された

事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能が解除されます：

- けん引されるとき
- 洗車時

ホールド機能 (▷ 156 ページ)を解除してください。

全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を補助します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

i オフロード走行時や急勾配の道路、滑りやすい路面などグリップが低い状況では、ホールド機能を使用しないでください。このような路面では、ホールド機能で停車した状態を維持できません。

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっている、またはエンジンを ECO スタート/ストップ機能によって自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転者がシートベルトを着用しているとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- トランスミッションがポジション D、R、N のとき
- ディストロニック・プラスが解除されます。

ホールド機能を作動させる

▶ 作動条件が合っていることを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んでください。

▶ マルチファンクションディスプレイに HOLD が表示されるまでブレーキペダルを素早く深く踏み込みます。
ホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を放すことができます。

i 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- 加速したとき、およびトランスミッションがシフトポジション D または R のとき
- トランスミッションをシフトポジション P にシフトしたとき
- マルチファンクションディスプレイの HOLD が消えるまでブレーキペダルを再度深く踏んだとき
- パーキングブレーキを効かせて確実に停車したとき
- ディストロニック・プラスを作動したとき

ℹ しばらくするとパーキングブレーキにより車両が固定され、サービスブレーキは解除されます。

ホールド機能が作動した状態で以下の状況になると、パーキングブレーキが自動的に車両を固定します。

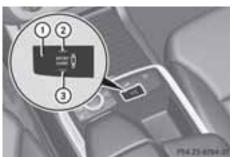
- 運転席ドアを開いたときに運転席シートベルトが着用されていないとき
- ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが自動的にオフになったのでない場合、エンジンがオフになっているとき
- システムに異常が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

急勾配の道路を走行しているときや異常が発生したときは、トランスミッションが自動的に P にシフトされることがあります。

AIR マティックサスペンションパッケージ

全体的な注意事項

AIR マティックサスペンションは、走行状況に合わせてサスペンション特性を切り替えたり、車高や減衰力を調整できるシステムです。このシステムは 2 つ以上の機構で構成されています。それらは、ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）(▷ 156 ページ) とレベルコントロール (▷ 157 ページ) です。さらに、車両にはアクティブカーブシステム (▷ 156 ページ) が装備されている場合もあります。

ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）

例：ON&OFFROAD パッケージ非装備車

① サスペンションモード選択スイッチ

② スポーツモード表示灯

③ コンフォートモード表示灯

アクティブカーブシステム

アクティブカーブシステムは、可変スタビライザーにより走行快適性と車両の俊敏性の両方を最適化します。選択されている ADS モード (▷ 156 ページ) に応じて、アクティブカーブシステムも設定を変化させます。

ADS コンフォートモードを選択すると、以下の制御が行なわれます。

- 起伏のある路面で車体のローリング（横揺れ）を低減します。
- コーナリング時のロール角を低減します。
- 車両の俊敏性を確保します。

ADS スポーツモードを選択すると、以下の制御が行なわれます。

- ロール角を大幅に低減します。
- 車両の俊敏性がさらに向上します。

レベルコントロール

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合、挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

⚠ **警告**

高すぎる車高で走行すると、車両の重心が高すぎるため走行特性が損なわれることがあります。 車両がカーブする際などに横滑りすることがあります。 事故の危険性があります。

常にできるだけ低い車高レベルを選択し、走行スタイルを調整してください。

⚠ **警告**

シャーシを上げたり、下げたりして走行するとき、車両のブレーキ操作や車両操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。 さらに、シャーシを上げると、車両が許容車高を超える可能性があります。 事故の危険性があります。

発進する前に、必要な車高レベルに設定してください。

⚠ **警告**

車両の重心位置が高いため、あるいは走行状況に適していない速度で走行すると、車両が横滑りしたり、急ハンドル時に横転するおそれがあります。 事故の危険性があります。

常に車両の走行特性および路面や天候の状態に応じた速度で慎重に運転してください。

! 極めて険しい地形を走行するときは、適切なタイミングで車高レベルを上げてしてください。 十分な地上高が確保されているか確認してください。 そうでないと車体を損傷するおそれがあります。

! 車高を下げるときは、十分な地上高が確保されていることを確認してください。 そうでないと、車体が地面に当たりアンダーボディを損傷するおそれがあります。

- ·SUV は他の車種と比較して、走行により横転する可能性があります。

  車両を安全な方法で運転しないと、横転するなどの事故を引き起こし、重傷や致命傷を負うおそれがあります。
- 車両が横転する事故が発生した際、シートベルトを着用していない乗員の方は、シートベルトを着用している乗員の方よりも死亡する確率が高くなります。

  運転者と乗員全員が常にシートベルトを着用する必要があります。

全体的な注意事項

"オフロード走行"に関するさらなる情報は、(▷ 141 ページ) をご覧ください。

レベルコントロールは、走行状態や路面状況に応じて車高を自動的に調整します。これにより、燃料消費率と走行安定性の向上を図ります。

ADS コンフォートモード (▷ 156 ページ) を選択すると、走行速度が増すにつれて車高が高速レベルまで下がります。

減速するにつれて車高がハイウェイレベルまで再び上がります。

ADS スポーツモード (▷ 156 ページ) を選択すると、基本設定に応じて車高はハイウェイレベルを飛ばして直接高速レベルまで下がります。 (▷ 158 ページ)

車高調整は走行中に行なってください。これにより、選択した車高レベルに素早く変更することができます。

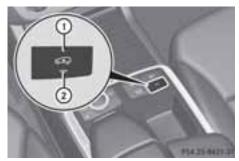
駐車中に外気温度が変化すると、車高レベルが変化したように見えることがあります。気温が下がると車高が下がり、気温が上がるにつれて車高も上がります。

車両を解錠するかドアを開くと、駐車している間に車両が荷重の不均衡を補正し始めます。ただし、長期間駐車した後などに大幅な車高調整を行なうには、エンジンをかける必要があります。安全のため、ドアが閉じているときのみ車高を下げることができます。ドアが開くと、車高の下がる動作が中断されます。ドアを閉じると、車高調整が継続されます。

基本設定

車高調整レベルは、選択された基本設定によって異なります。オフロード走行時は上昇レベル、通常の道路ではハイウェイレベルまたは高速レベルを選択してください。

個々の車高レベルは、ハイウェイレベルと次のように異なります。

- ハイウェイレベル：約 +/– 0 mm
- 高速レベル：約 –15 mm
- 上昇レベル：約 +60 mm

上昇レベル

例：ON&OFFROAD パッケージ非装備車

① レベルコントロールスイッチ

② レベルコントロール表示灯

上昇レベルは、路面状況に合っているときのみ選択してください。そうしないと、燃料消費量が増加し車両操縦性が損なわれるおそれがあります。

ハイウェイ / 高速レベル

! 車高を下げるときは、十分な地上高が確保されていることを確認してください。 そうでないと、車体が地面に当たりアンダーボディを損傷するおそれがあります。

以下のとき、車両は自動的にハイウェイレベルに調整されます。

- 約 80 km/h より速く走行した、または
- 約 65 km/h ～ 80 km/h の速度で、約 20 秒以上走行したとき

選択されている ADS モード (▷ 156 ページ) に応じて、高速時には車両が高速レベルに下がります。

AMG RIDE CONTROL スポーツサスペンション

サスペンションの制御

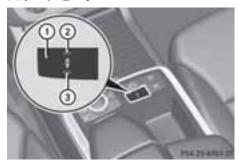
全体的な注意事項

電子制御サスペンションシステムは常時作動しています。 このシステムは走行時の安全性と乗り心地の向上を図ります。

以下の状況に応じて減衰力は車輪ごとに個別に調整されます。

- 運転者の走行スタイル（スポーティな走行など）
- 路面の凸凹など状況
- スポーツモード、スポーツモード+またはコンフォートモードの設定

スポーツモードまたはスポーツモード+を選択しても、次にエンジンを始動したときはコンフォートモードに戻ります。

スポーツモード

スポーツモードではサスペンション制御が固くなり、路面追従性が向上します。カーブの多い道路などでスポーツ走行をするときは、このモードを選択してください。

▶ スイッチ ① を 1 回押します。
　表示灯 ② が点灯します。 これでスポーツモードが選択されます。
　マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control SPORT というメッセージが表示されます。

スポーツ＋モード

スポーツモード+では、サスペンション制御がより固くなり、最適な路面追従性を確保します。 サーキット場で走行するときにのみこのモードを選択します。

表示灯 ③ と ② が消灯しているとき：

▶ スイッチ ① を 2 回押します。
　表示灯 ③ と ② が点灯します。 これでスポーツ+モードが選択されます。
　マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control SPORT +というメッセージが表示されます。

表示灯 ② が点灯しているとき

▶ スイッチ ① を 1 回押します。
　2 番目の表示灯 ③ が点灯します。 これでスポーツ+モードが選択されます。
　マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control SPORT +というメッセージが表示されます。

コンフォートモード

コンフォートモードでは、車両の走行特性がより快適になります。 快適な乗り心地を重視するときは、このモードを選択してください。 高速道路や直線の多い道路で高速走行するときも、コンフォートモードを選択してください。

▶ 表示灯 ③ と ② が消えるまでスイッチ① を繰り返し押します。
　これでコンフォートモードが選択されます。
　マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control COMFORT というメッセージが表示されます。

パークトロニック

重要な安全上の注意

パークトロニックは超音波センサーによる駐車時に運転者を支援するシステムです。車両と物体との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは駐車を支援するシステムです。 運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。 運転者には、常に安全にステアリング操作を行ない駐車する責任があります。 ステアリング操作や駐車を行なうときに、進行方向に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは超音波を吸収しやすい雪やその他のものを感知しないことがあります。

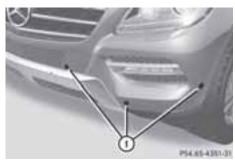
自動洗車機や大型車の排気ブレーキ、空気圧ドリルなどの超音波により、パークトロニックが誤作動することがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロニックは以下のようなときに自動的に作動します。

- エンジンスイッチを 2 の位置にしたとき
- トランスミッションをポジション D、R または N にしたとき
- パーキングブレーキを解除したとき

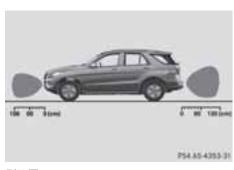
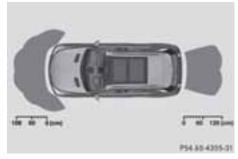
パークトロニックは約 18 km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

パークトロニックはフロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。

① 例：左側フロントバンパーのセンサー

センサーの感知範囲

全体的な注意事項

以下のとき、パークトロニックは障害物を考慮しません：

- 人や動物、障害物などが検知範囲の下にあるとき
- 車両から突き出た荷物や車両後部、積載用スロープなどが検知範囲の上にあるとき

側面図

上面図

センサーに汚れ、氷、泥などが付着していない状態にしてください。適切に機能しないことがあります。センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。(▷ 255 ページ)

フロントセンサー

センター部	約 100 cm
コーナー部	約 60 cm

リアセンサー

センター部	約 120 cm
コーナー部	約 80 cm

最小範囲

センター部	約 20 cm
コーナー部	約 15 cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告灯が点灯して警告音が鳴ります。最短感知距離以下になると、警告灯が表示されなくなることがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 警告灯
- パークトロニックの解除 / 作動
- パークトロニックの不具合

360° カメラ（サラウンドビュー）

重要な安全上の注意

360° カメラはあくまでも運転を支援するシステムです。運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。 運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。 ステアリング操作や駐車を行なう間は、進行方向に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

360° カメラは、状況によっては障害物の歪んだ映像を映し出したり、障害物が正確に映し出されなかったり、まったく映らないことがあります。 以下のエリアにある障害物は、カメラで映し出すことができません。

- フロントバンパーの下
- フロントバンパーの近接部
- リアバンパーの近接部
- リアバンパーの下
- トランクハンドルの真上
- ドアミラーの近接部

運転者には安全を確保する責任があり、駐車や運転操作を行なうときは、常に周囲の状況に注意しなければなりません。車両の後方、前方および両側の状況を直接確認してください。お守りいただかな

いと、運転者や他の人に危険がおよぶおそれがあります。

360° カメラは、以下のときはまったく機能しなくなるか、機能が制限されます。

- ドアが開いているとき
- ドアミラーが格納されているとき
- トランクが開いているとき
- 激しい雨、雪または霧のとき
- 夜や非常に暗い場所のとき
- カメラに強い光が直接当たったとき
- エリアが蛍光灯の光、または LED の光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります)
- 冬に暖かい車庫に入るなど、急激な温度の変化があったとき
- カメラのレンズに汚れや付着物があるとき
- カメラ設置部の車両部品が損傷したとき このようなときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置や設定を点検してください。

このような場合は、360° カメラを使用しないでください。駐車をしているときに、他の人にけがをさせたり、物や車両を損傷するおそれがあります。

全体的な注意事項

360° カメラは 4 つのカメラで構成されるカメラシステムです。

システムは以下のカメラからの映像を判断します。

- パーキングアシストリアビューカメラ
- フロントカメラ
- ドアミラーの 2 つのカメラ

カメラは車両周辺の状況を映し出します。 システムは、駐車時や見通しの悪い出口などで運転者を支援します。

360° カメラの映像は、COMAND ディスプレイに全画面表示モードまたは 6 種類の分割画面表示で表示することができます。 分割画面表示には車両の上面表示も含まれます。この表示は、車載カメラにより提供されたデータから生成されます（バーチャルカメラ）。

6 つの分割画面表示は以下とおりです。

- 上面表示とパーキングアシストリアビューカメラの映像（130° の表示角度）
- 上面表示とフロントカメラの映像（最大ステアリング角度は非表示）
- 上面表示と拡大リア表示
- 上面表示と拡大フロント表示
- 上面表示と後面ミラーカメラの映像（後輪表示）
- 上面表示と前面ミラーカメラの映像（前輪表示）

機能が作動していて、トランスミッションを **D** または **R** の位置から **N** にシフトしたときは、COMAND ディスプレイに以前の画面が表示されます。動的なガイドラインは非表示になります。

シフトポジションを **D** または **R** に切り替えると、直前に選択されたフロントビューまたはリアビューが表示されます。

作動条件

360° カメラの映像は、以下のときに表示できます。

- 車両に 360° カメラが装備されている場合
- COMAND システムがオンのとき。別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください。
- 360° カメラ の機能が作動しているとき

SYS スイッチで 360° カメラを作動させる

▶ SYS スイッチを約 2 秒以上押し続けます。別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください。
D または R のシフトポジションによって、以下の画面が表示されます。
- フロントカメラ映像の全画面表示
- リアビューカメラ映像の全画面表示

COMAND システムで 360° カメラを作動させる

▶ SYS スイッチを押します。別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください。

▶ COMAND コントローラーをまわして、システムを選択し、押して確定します。

▶ 360° カメラを選択し、を押して確定します。
D または R のシフトポジションによって、以下の画面が表示されます。
- 上面表示とフロントカメラ映像を含む分割画面、または
- 上面表示とパーキングアシストリアビューカメラの映像を含む分割画面

COMAND コントローラーの詳細については、別冊の COMAND システム取扱説明書をご読みください。

リバースギアに入れて 360° カメラを作動させる

リバースギアに入れると、自動的に 360° カメラの映像が映し出されます。

▶ エンジンスイッチのキーが 2 の位置にあることを確認します。

▶ COMAND システムでリバース連動設定が作動していることを確認します。
別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください。

▶ **360° カメラの映像を表示する：** リバースギアに入れます。
COMAND ディスプレイは、分割画面に以下の車両後方のエリアを示します。
- ガイドラインのある車両
- 車両の上面表示

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- COMAND ディスプレイの表示
- パークトロニックディスプレイでの映像表示

360° カメラの表示を停止する

機能を作動させていて、速度が 30 km/h を超えるとすぐに、機能はオフになります。 COMAND ディスプレイに前回の画面が表示されます。 ディスプレイの マークを選択し、COMAND コントローラーを押して選択することでもディスプレイを切り替えることもできます。

アテンションアシスト

重要な安全上の注意

アテンションアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 疲労や集中力低下の度合いを検出するのが遅すぎたり、全くしないことがあります。 十分な休憩を取ったり、集中力のある運転者の代わりになるものではありません。

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間の変化の少ない走行をするときに運転者を補助します。約 80 km/h から 180 km/h の範囲で作動します。

アテンションアシストが運転者の疲労の増加や集中力の欠如などの典型的な兆候を検知したときは、休憩を促します。

アテンションアシストは以下のような基準を考慮して、運転者の疲労や集中力欠如の度合いを判断します。

- ステアリング操作などのお客様の運転スタイル
- 時間や走行の長さなどの走行に関する要因

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。

- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪いとき
- 横風が強いとき
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
- 主に約 80 km/h 以下や 180 km/h 以上の速度で運転しているとき
- COMAND システムを使用しているときや COMAND システムで電話を発信しているとき
- 時刻が正しく設定されていないとき
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況のとき

マルチファンクションディスプレイの警告とディスプレイメッセージ

▶ マルチファンクションディスプレイを使用してアテンションアシストを作動させます(▷ 181 ページ)。
マーク ① がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ **マルチファンクションディスプレイに** アテンションアシスト 休憩しませんか？ **というメッセージが表示されます。** 必要であれば、休憩を取ってください。

▶ OK または ⮌ スイッチを押して、メッセージを確認します。

アテンションアシストが作動しているときは、警告は走行を開始して約 20 分が経過してから行なわれます。マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されるとともに、断続警告音が 2 回鳴ります。

長時間の運転では、適切な休憩をするために、適切な時間に定期的に休憩を取るようにしてください。休憩を取らずに、アテンションアシストがなお集中力の欠如の増加を検知しているときは、約 15 分後に再度警告が行なわれます。

走行を継続するときは以下のときに、アテンションアシストはリセットされ、運転者の疲労の評価を開始します。

- エンジンを停止したとき
- 運転者を交代したり、休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席のドアを開いたとき

ナイトビューアシストプラス

重要な安全上の注意

ナイトビューアシストプラスはあくまでも補助装置であり、注意を払った運転の代わりになるものではありません。ナイトビューアシストプラスの映像のみに頼らないでください。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責

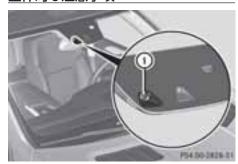
任は運転者にあります。常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。

以下のときはシステムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- カーブや上り坂、下り坂を走行しているとき

以下のような状況下では歩行者が正常に検知されなかったり、まったく検知されないことがあります。

- 歩行者の身体の一部または全部が駐車車両などの障害物で隠れているとき
- ナイトビューアシストプラスのディスプレイに表示される歩行者の輪郭が強い光の反射などで不完全になったり途切れているとき
- 歩行者が周囲の背景などに溶け込んでいるとき
- 座っている、かがんでいる、または横たわっているなど、歩行者が立っていない状態のとき

全体的な注意事項

通常のヘッドライトの照明に加え、ナイトビューアシストプラスは赤外線を利用して路面を照射します。 ナイトビューアシストプラスのカメラ ① は、赤外線を検知して COMAND ディスプレイに白黒の映像として表示します。 COMAND ディスプレイには、ハイビームヘッドライトで映し出される路面と同じ映像が表示されます。 進行方向の道路状況や障害物を素早く確認することができます。 歩行者検知機能が作動しているときは、システムで認識された歩行者がナイトビューアシストプラスのディスプレイに強調表示されます。

対向車のヘッドライトの光は、マルチファンクションディスプレイに表示されるナイトビューアシストプラスの映像に影響を与えることはありません。 対向車がいるために、メインビームヘッドライトをオンにできないときも同様です。

ⓘ 赤外線は人の目に見えないため、対向車を眩惑させることはありません。 したがって、対向車がいる場合でもナイトビューアシストプラスを作動させることができます。

ナイトビューアシストプラスの作動

作動条件

ナイトビューアシストプラスは、以下のときに作動させることができます。

- エンジンスイッチが 2 の位置のとき
- 周囲が暗いとき
- ライトスイッチが AUTO または ≣D のとき
- リバースギアになっていないとき

ナイトビューアシストプラスの作動

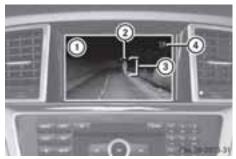
▶ COMAND システムがオンになっていることを確認します。

▶ スイッチ ① を押します。

COMAND ディスプレイにナイトビューアシストプラスのディスプレイが表示されます。

COMAND ディスプレイの照度の調整方法については、COMAND システム取扱説明書をご覧ください。

ℹ 赤外線照射ヘッドライトは走行速度が約 10 km/h 以上になると赤外線を照射します。したがって、停車中は十分な視界を確保することができません。また、ナイトビューアシストプラスが作動しているか確認することはできません。

歩行者検知機能

① ナイトビューアシストプラスの映像

② 検知された歩行者

③ フレーム

④ 歩行者検知のマーク

ℹ 歩行者検知機能では動物を検知することはできません。

ナイトビューアシストプラスは人の輪郭などの特徴により歩行者を認識します。

歩行者検知機能は以下のときに自動的に作動します。

- ナイトビューアシストプラスが作動しているとき
- 走行速度が約 10 km/h 以上のとき
- 街路灯がない郊外を走行するときなど、周囲が暗いとき

歩行者検知機能の作動中は、マーク ④ が表示されます。歩行者が検知された場合、フレーム ③ 付きで強調表示されます。歩行者検知システムが歩行者を検知したときは、フロントウインドウ越しに前方を直接確認してください。ディスプレイ表示だけでは障害物や歩行者までの距離を正確に把握することはできません。

歩行者だけでなく障害物が強調表示される場合もあります。

フロントウインドウの曇りまたは汚れ

カメラの前のフロントウインドウの内側や外側が曇っていたり汚れていると、ナイトビューアシストプラスのディスプレイに影響します。

▶ **曇りを取る：** エアコンディショナーの設定を確認し(▷ 123 ページ)、カメラのカバーを開きます(▷ 255 ページ)。

▶ **フロントウインドウの内側の曇りを取る：** カメラのカバーを開いて(▷ 255 ページ) フロントウインドウを掃除します(▷ 255 ページ)。

ナイトビューアシストプラスの不具合

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ナイトビューアシストプラスの画質が低下している。	ワイパーの汚れがフロントウインドウに付着している。 ▶ ワイパーブレードを交換してください(▷ 117 ページ)。
	洗車場で洗車した後で、フロントウインドウに汚れが付着している。 ▶ フロントウインドウを掃除してください(▷ 255 ページ)。
	フロントウインドウのカメラ装着部分が傷付いている。 ▶ フロントウインドウを交換してください。
	フロントウインドウの内側が曇っている。 ▶ フロントウインドウの曇りを取ってください(▷ 123 ページ)。
	フロントウインドウが凍っている。 ▶ フロントウインドウを解凍してください (▷ 123 ページ)。
	フロントウインドウの内側に汚れがある。 ▶ フロントウインドウの内側を掃除してください(▷ 255 ページ)。

レーントラッキングパッケージ

全体的な注意事項

レーントラッキングパッケージはブラインドスポットアシスト (▷ 167 ページ) とレーンキーピングアシスト (▷ 169 ページ) で構成されます。

ブラインドスポットアシスト

重要な安全上の注意

ブラインドスポットアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 状況によっては車両を検知できないことがあり、運転者の代わりに安全確認を行なうことはできません。

全体的な注意事項

ブラインドスポットアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して車両の両側のエリアをモニターします。約 30 km/h からの速度で運転者を支援します。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。そのときに車線変更する側の方向指示灯を作動させると、視覚的および聴覚的な衝突警告が行なわれます。検知のためにアクティブブラインドスポットアシストはリアバンパーのセンサーを使用します。

走行時にブラインドスポットで補助するためには、レーダーセンサーシステムを以下のようにしてください。

- 作動している (▷ 181 ページ)
- 使用可能である

ℹ 国によっては、レーダーセンサーシステム (▷ 181 ページ) を解除する必要があります。

レーダーセンサーシステムに関する詳細は、(▷ 308 ページ) をご覧ください。

センサーの感知範囲

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 霧や激しい雨、雪、霧雨などで視界が悪いとき
- オートバイや自転車など、幅の狭い車両
- 非常に幅の広い車線
- 狭い車線
- 車線の中央を走行していない車両
- 隔壁その他の道路分離帯

モニター範囲にある車両は検知されません。

ブラインドスポットアシストは図に示すように、約 3.0 m までの車両後方、および車両のすぐ側方の範囲をモニターします。

車線の幅が狭い場合、2 車線横の車両が（中央を走行していない場合などに）検知されることがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

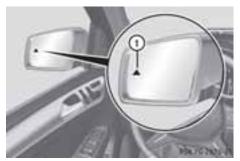
以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または似たような高さのある車線境界の近くを走行しているときに警告が間違って発せられることがあります。
- トラックなど特に長い車両が長い時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

ブライドスポットアシストの 2 個のレーダーセンサーは、リアバンパーの両側に内蔵されています。バンパーのセンサー付近に汚れ、氷や泥が付着していないことを確認してください。車両に装着された自転車のキャリヤや垂れ下がった荷物などでセンサー付近が覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダー

センサーの状態を点検してください。これらのことをお守りいただかないと、ブラインドスポットアシストが正常に作動しなくなるおそれがあります。

表示灯と警告表示

ブラインドスポットアシストは、約 30 km/h 以下の速度では作動しません。モニター範囲にある車両は検知されません。

① 黄色の表示灯/赤の警告灯

ブラインドスポットアシストがオンになると、約 30 km/h の速度までドアミラーの表示灯 ① が黄に点灯します。約 30 km/h 以上の速度では、表示灯が消え、ブラインドスポットアシストが作動可能になります。

約 30 km/h 以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯 ① が赤に点灯します。この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ると常に行なわれます。車両を追い越すときは、速度差が約 12 km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

黄色の表示灯はリバースギアになると消灯します。次に、ブラインドスポットアシストが解除されます。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

衝突の警告

ブラインドスポットアシストのモニター範囲に車両が検知されている状態で検知された側の方向指示灯をオンにすると、警告音が 2 回鳴ります。赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯をそのままにすると、検知された車両が赤色の警告灯 ① の点滅により表示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

デジタル版取扱説明書の情報

以下に関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

- ブラインドスポットアシストの作動
- トレーラーのけん引

レーンキーピングアシスト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

レーンキーピングアシストは常に明確に車線ラインを検知することはできません。

このような場合、レーンキーピングアシストは以下を行うことがあります

- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

特にレーンキーピングアシストが警告しているときは、必ず交通状況および車線内を保つように特に注意してください。

⚠ **警告**

車両が元の車線に戻らないと、レーンキーピングアシストによって警告が発せられます。 事故の危険性があります。

レーンキーピングアシストが警告しているときは、頻繁にステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を必ず車両に行ってください。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、レーンキーピングアシストは事故被害を軽減したり、物理的限界

を超えて安全を確保することはできません。 アクティブレーンキーピングアシストは、道路、天候、交通状況を考慮することはできません。アクティブレーンキーピングアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

レーンキーピングアシストは車線内を自動的に走行させる機能ではありません。

以下のときはシステムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- 対向交通や太陽、または他の車からの反射光（路面が濡れているなど）でまぶしいとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- 工事などで 1 車線の車線マークが全くない、いくつかある、不明瞭なとき
- 車線ラインが摩耗しているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できないとき
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わるとき
- 道路が狭かったりカーブしているとき
- 道路上の日陰との差が大きいとき

全体的な注意事項

レーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部に装着されたカメラで車両前方をモニターします。レーンキーピングアシストは路面の車線ラインを検知し、車線を外れそうになる前に運転者に警告を行ないます。

① レーンキーピングアシストカメラ

マルチファンクションディスプレイの表示単位 速度/距離: で機能 (▷ 181 ページ)km を選択すると、レーンキーピングアシストが約 60 km/h 以上の速度で作動を開始します。miles 表示が選択されているときは、走行速度が約 40 mph 以上のときに作動を開始します。

前輪が車線マークを超えると警告が行なわれます。警告はステアリングを約 1.5 秒間以上振動させることにより行なわれます。

レーンキーピングアシストの作動

詳細は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

アクティブドライビングアシスタンスパッケージ

全体的な注意事項

アクティブドライビングアシスタンスパッケージは、ディストロニック・プラス (▷ 147 ページ) 、アクティブブラインドスポットアシスト (▷ 171 ページ)、およびアクティブレーンキーピングアシスト (▷ 173 ページ) で構成されています。

アクティブブラインドスポットアシスト

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットアシストはレーダーセンサーシステムを使用して、運転者後方の車両側方のエリアをモニターします。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。そのときに車線変更する側の方向指示灯を作動させると、視覚的および聴覚的な衝突警告が行なわれます。側方衝突の危険性が検知されると、修正のためのブレーキが衝突回避を補助します。進路修正ブレーキの機能を支援するために、アクティブブラインドスポットアシストは前方レーダーセンサーシステムも使用します。進行方向のスペースがモニターされます。

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以上の速度で運転者を支援します。

走行中にアクティブブラインドスポットの効果を発揮させるには、レーダーセンサーをオンにして作動させる必要があります。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

ⓘ 国によっては、レーダーセンサーシステムを解除する必要があります (▷ 181 ページ)。

レーダーセンサーシステムに関する詳細は、(▷ 308 ページ) をご覧ください。

重要な安全上の注意

アクティブブラインドスポットアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 状況によっては車両を検知できないことがあり、運転者の代わりに安全確認を行なうことはできません。

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは、以下のときは作動しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 隣接車線の接近車両との速度差が約 11 km/h を超えているとき

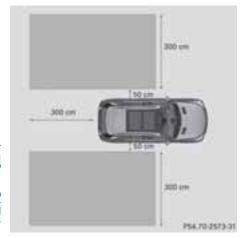
この場合、アクティブブラインドスポットアシストは警告も介入も行ないません。 事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側と安全な車間距離を維持してください。

モニター範囲

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

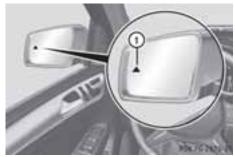
- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 霧や激しい雨、雪、霧雨などで視界が悪いとき
- オートバイや自転車など、幅の狭い車両
- 非常に幅の広い車線
- 狭い車線
- 車線の中央を走行していない車両
- 隔壁その他の道路分離帯

モニター範囲にある車両は検知されません。

車線が狭い場合は、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または似たような高さのある車線境界の近くを走行しているときに警告が間違って発せられることがあります。
- トラックなど特に長い車両が長い時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

アクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、前後のバンパーおよびラジエターグリルのカバー裏側に内蔵されています。バンパーとラジエーターグリルのカバーに汚れや、氷、泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。アクティブブラインドスポットアシストが正しく作動しないことがあります。

表示灯と警告表示

① 黄色の表示灯/赤の警告灯

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動しません。モニター範囲にある車両は検知されません。

黄色の表示灯はリバースギアになると消灯します。アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

視覚と音声による衝突警告

運転者が車線変更のために方向指示灯を作動させ、モニター範囲に車両が検知されると、視覚と音による衝突警告を発します。その後、2 重の警告音が鳴り、赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯をそのままにすると、検知された車両が赤色の警告灯 ① の点滅により表示されます。 警告音はそれ以上鳴りません。

車線修正ブレーキの適用

⚠ 警告

車線修正ブレーキの適用は、常に衝突を防ぐわけではありません。 事故の危険性があります。

特に、アクティブブラインドスポットアシストが警告するまたは車線修正ブレーキの適用をする場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。常に両側との安全な車間距離を維持してください

⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。まれに、システムが適切でないブレーキの適用を行なうことがあります。 事故の危険性があります。

ステアリングを反対方向に軽く操作する、または加速すると、適切でないブレーキの適用を中断できます。他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。

アクティブブラインドスポットアシストがモニター範囲で側方の衝突の危険性を検知すると、車線修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を補助するために設計されています。

車線修正ブレーキが介入すると、ドアミラーの赤色の警告灯 ① が点滅して、2 重の警告音が鳴ります。さらにマルチファンクションディスプレイにマーク ② が表示されます。

以下の場合には、車線修正ブレーキの作動は走行状況に適合するか、あるいはまったく適合しないかのいずれかです:

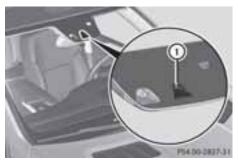
- 車両の両側に車両や障害物があるとき
- 側方すぐのところに車両が接近しているとき
- 高い速度でカーブを曲がるスポーティな運転を行なっているとき
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なうとき
- ESP® または PRE-SAFE® ブレーキのような走行安全システムが介入しているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されたとき

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書では、以下に関する情報を確認できます。

- アクティブブラインドスポットアシストの作動
- トレーラーのけん引

アクティブレーンキーピングアシスト

全体的な注意事項

アクティブレーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部に装着されたカメラ①で車両前方をモニターします。アクティブレーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、意図せずに車線を外れる前に運転者に警告を行ないます。警告に反応しない場合は、車線修正ブレーキを適用することにより車両を元の車線に戻すことができます。

マルチファンクションディスプレイの表示単位 速度/距離:(▷ 181 ページ)機能で km を選択すると、アクティブレーンキーピングアシストは約 60 km/h の速度のときに作動を開始します。miles 表示が選択されていると、支援範囲は約 40 mph から始まります。

重要な安全上の注意

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、アクティブレーンキーピングアシストは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。 アクティブレーンキーピングアシストは、道路、天候、交通状況を考慮することはできません。アクティブレーンキーピングアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

アクティブレーンキーピングアシストは車両を車線内に保ち続けることはできません。

> ⚠ **警告**
>
> アクティブレーンキーピングアシストは必ずしも明確に車線ラインを検知することはできません。
>
> このような場合、アクティブレーンキーピングアシストは以下を行うことがあります
>
> - 意味のない警告を行ない、車両に車線修正ブレーキをかける
> - 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
>
> 事故の危険性があります。
>
> 特にアクティブレーンキーピングアシストが警告しているときは、必ず交通状況に注意を払い車線内に保つようにしてください。 危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

以下のときはシステムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- 対向交通や太陽、または他の車からの反射光（路面が濡れているなど）でまぶしいとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- 工事などで 1 車線の車線マークが全くない、いくつかある、不明瞭なとき
- 車線ラインが摩耗しているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できないとき
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わるとき
- 道路が狭かったりカーブしているとき
- 道路上の日陰との差が大きいとき
- 隣接したレーンに車両がいないと検知され、車線ラインが壊れているとき

ステアリングの振動による警告

前輪が車線ラインを超えると警告が行なわれます。警告はステアリングを約 1.5 秒間以上振動させることにより行なわれます。

車線ラインを越えたとき、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線ラインに近づいたとき
- 高速道路などの非常に幅の広い道路のとき
- システムが実線の車線マークを検知したとき

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 狭い車線の道路のとき
- カーブの内側をまたいだとき

車線修正ブレーキの適用

⚠ 警告

車線修正ブレーキを適用しても車両が元の車線に戻るとは限りません。 事故の危険性があります。

特に、アクティブレーンキーピングアシストが警告する、または車線修正ブレーキが適用される場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは交通状況や道路を利用している人を検知しません。まれに、実線の車線マークの上を故意に走行した後などにシステムによって適切でないブレーキが適用されることがあります。 事故の危険性があります。

ステアリングを反対方向に軽く操作すると、適切でないブレーキの適用を中断できます。他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。

車線修正ブレーキが介入すると、マルチファンクションディスプレイに ① が表示されます。

特定の状況で車線から外れた場合には、片側の車輪にブレーキが軽くかかります。これは車両を元の車線に戻すのを補助するために設計されたものです。

車線修正ブレーキの適用は、実線の認識可能な車線マークの上を走行した後のみ行なわれます。これ以前は、ステアリングの断続的な振動により警告が発せられます。さらに、両側に車線マークのある車線を認識しなくてはなりません。ブレーキの適用により、走行速度も少し低下します。

ℹ 車両が元の車線に戻った後にのみ、車線修正ブレーキの適用は行なわれます。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は行われません。

- 明確に、および活発にステアリング操作やブレーキ操作、加速操作を行なったとき
- きついカーブの内側をまたいだとき
- 方向指示灯をオンにしたとき
- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入したとき
- 高い速度でカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- トランスミッションがシフトポジション D でないとき
- トレーラーけん引ヒッチ装備車で、トレーラーを正しく電気的に接続したとき
- オフロードプログラムを起動しているとき
- タイヤ空気圧の減少やタイヤの不具合が検知されて表示されたとき

アクティブレーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知しません。適切でないブレーキの適用は以下のときに、いつでも中断されます。

- ステアリングを反対方向に軽く操作したとき
- 方向指示灯を作動させたとき
- 明確にブレーキ操作または加速操作を行なったとき

車線修正ブレーキの適用は以下のときに自動的に中断されます。

- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入したとき
- 車線マークが認識できなくなったとき

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書では、以下に関する情報を確認できます。

- アクティブレーンキーピングアシストの作動
- トレーラーのけん引

オフロード走行装備

4MATIC（フルタイム 4 輪駆動システム）

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、4MATIC は事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。 4MATIC は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 4MATIC はあくまでも運転を支援するシステムです。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

! 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。 トランスファーケースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。 全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていなければなりません。 車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず 2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

4MATIC は 4 輪すべてが常に駆動力を維持するシステムです。システムは、ESP® や 4ETS と連動して、タイヤのグリップが低く駆動輪が空転する状況で車両の駆動力を高めます。

i 冬に走行するときには、ウィンタータイヤ (M+S タイヤ)や必要であればスノーチェーンを装着すると 4MATIC の効果が最大限に発揮されます。

"オフロード走行"に関するさらなる情報は、(▷ 141 ページ) をご覧ください。

DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）

重要な安全上の注意

DSR は下り走行時に運転者を支援するシステムです。このシステムを使用して、マルチファンクションディスプレイで設定した速度を保つことができます。下り坂が急勾配になるほど DSR のブレーキ作用が増大します。平坦な道路や上り坂を走行するときは、DSR のブレーキ作用は最小限になるか、まったく効かなくなります。

DSR は、作動可能な状態でオートマチックトランスミッションのシフトポジショ

ンが D、R または N のときに設定速度を制御することができます。アクセルペダルまたはブレーキペダルを操作すれば、マルチファンクションディスプレイで設定した速度よりも高い / 低い速度で走行することができます。

"オフロード走行"に関するさらなる情報は、(▷ 141 ページ) をご覧ください。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、DSR は事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。 DSR は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 DSR は補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

下り走行時の危険回避や安全確保については、常に運転者に全責任があります。路面やタイヤの状態によって DSR は設定された速度を維持できない場合があります。路面や交通状況に合わせて設定速度を選択し、必要であればブレーキペダルを踏んでください。

⚠ **警告**

走行している速度と設定している速度が異なり、滑りやすい路面で DSR を作動させているとき、ホイールはトラクションを失う可能性があります。 車輪がトラクションを失うと、操舵不能になります。 これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい路面で DSR を決して作動させないでください。

⚠ **警告**

設定した速度よりも高い速度で走行し、DSR を作動させた場合、車両は急な下り坂で減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。 事故の危険性があります。

DSR が作動する前に、設定速度に減速してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

全体的な注意事項

AIR マティックサスペンションパッケージ非装備車

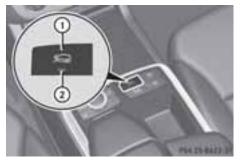
AIR マティックサスペンションパッケージ装備車

① DSR スイッチ

② DSR 表示灯

以下に関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

- DSR の作動
- DSR の解除
- 設定速度の変更

オフロードプログラム（ON&OFFROAD パッケージ非装備車）

① オフロードプログラムスイッチ

② オフロードプログラム表示灯

オフロードプログラムは、オフロード走行時に運転者を支援します。 エンジンの性能特性やオートマチックトランスミッションのギアシフト特性がオフロードの走行状況に合わせて調整されます。 オフロード走行に最適化された ABS、ESP®および 4ETS のプログラムが起動します。 緩やかなアクセルレスポンスが選択されます。そのため、加速時はアクセルペダルをより深く踏み込む必要があります。

積雪路や凍結路の走行時またはスノーチェーンを装着しているときはオフロードプログラムを使用しないでください。

オフロード走行については、(▷ 141 ページ) をご覧ください。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。 安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

⚠ **警告**

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能が認められません。 走行安全性が損なわれる可能性があります。 事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。 そのため、常に安全に走行してください。 車両を安全に操作しないと、事故の原因になるおそれがあります。

メーターパネルの図は、をご覧ください。

表示および操作

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- エンジン冷却水温度計
- タコメーター
- セグメント付きスピードメーター
- マルチファンクションディスプレイ
- 外気温度計

マルチファンクションディスプレイの操作

概要

① マルチファンクションディスプレイ

② 音声認識の開始：別冊の取扱説明書をご覧ください

③ 右側操作パネル

④ 左側操作パネル

⑤ リターンスイッチ

▶ **マルチファンクションディスプレイを起動する：** イグニッション位置を **1** にします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの操作と設定を行なうことができます。

左側操作パネル

	• メニューやメニューバーの呼び出し
	軽く押す： • リストのスクロール • サブメニューや機能の選択 • オーディオ メニュー：保存した放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL(電話)メニュー：電話帳の表示、名前や電話番号の選択
	長押しする： • オーディオ メニュー： 高速スクロールによる、前/次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択 • TEL(電話)メニュー： 電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始
OK	• 選択項目/ディスプレイメッセージの確定 • TEL(電話)メニュー： 電話帳への切り替えと発信の開始 • オーディオ メニュー： 放送局サーチ機能による希望の放送局の選局

右側操作パネル

	• 通話を拒否する、または終了する • 電話帳/発信履歴を終了する
📞	• 発信する、または受ける • リダイアルメモリーに切り替える
+ / −	• 音量の調整
🔇	• ミュート

リターンスイッチ

↩	**軽く押す：** • 前の画面に戻る • 音声認識の終了：別冊の取扱説明書をご覧ください • ディスプレイメッセージの消去/最後に使用したトリップ メニュー機能の呼び出し • 電話帳/発信履歴の終了
↩	**長押しする：** • トリップ メニューの基本画面の呼び出し

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メニューバーを呼び出し、メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 180 ページ)

デジタル版取扱説明書には、個々のメニューについての詳しい情報が記載されています。

車両に取り付けられている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- ﾄﾘｯﾌﾟ メニュー
- ﾅﾋﾞ メニュー（ナビゲーション案内）
- ｵｰﾃﾞｨｵ メニュー
- TEL メニュー（電話）
- ｱｼｽﾄメニュー（支援機能）
- ﾒﾝﾃﾅﾝｽメニュー
- 設定 メニュー（設定）
- AMG メニュー（AMG 車両）

ディスプレイメッセージ

概要

全体的な注意事項

本項目では、安全に関わるディスプレイメッセージおよびその対応方法などについて記載しています。 他のメッセージおよびその対応方法の記載については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

特定のディスプレイメッセージには、警告音、または連続音が伴います。

車両を駐停車するときは、ホールド機能 (▷ 155 ページ) および駐車 (▷ 140 ページ) に関する注意に従ってください。

ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの OK または ↩ スイッチを押します。
ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。 一部の優先順位の高いディスプレイメッセージは、非表示にできません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは、特定のディスプレイメッセージを **メッセージメモリー**に保存します。以下のようにしてディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。
メッセージがある場合は、ディスプレイに 2 メッセージ のように故障の件数が表示されます。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、2 メッセージ を選択します。

▶ OK を押して確定します。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

エンジンスイッチからキーを抜くと、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。 故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

安全装備

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
現在使用できません 取扱説明書を参照	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 メーターパネルの [icon]、[icon]、[icon] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 考えられる原因 • セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの [!] [車]、[OFF]、[ABS] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの [ESP] と [ESP OFF] 警告灯も点灯している。 たとえば、セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していないと考えられる。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの [icon] と [icon OFF] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 ブレーキ液レベル 点検して ください	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 さらに、メーターパネルの (!) 警告灯が点灯し、警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキの性能が損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 140 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。 ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
プレセーフ 作動できません 取扱説明書を参照	PRE-SAFE®の重要な機能に異常がある。 エアバッグなどの他の乗員保護装置はすべて機能している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	アクティブドライビングアシスタンスパッケージ非装備車：アダプティブブレーキアシストが一時的に作動しない状態になっている。 考えられる原因 • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • バンパーに装着されたセンサーが汚れている • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない状態になっている • AMG 車：ESP® が解除された • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低下している 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。 アダプティブブレーキアシストが再び作動する。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 140 ページ) ▶ バンパーを清掃してください。 (▷ 255 ページ) ▶ エンジンを再始動してください。 ▶ AMG 車：ESP® を再び作動させてください。(▷ 72 ページ)

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	アクティブドライビングアシスタンスパッケージ装備車：PRE-SAFE® ブレーキが一時的に作動しない状態になっている。 考えられる原因 • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーが汚れている • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない状態になっている • AMG 車：ESP® が解除された • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低下している 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。 PRE-SAFE® ブレーキが再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 140 ページ) ▶ ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーを清掃します(▷ 255 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。 ▶ AMG 車：ESP® を再び作動させてください。(▷ 72 ページ)
プレセーフ 機能が 制限されています 取扱説明書を参照	アクティブドライビングアシスタンスパッケージ非装備車：アダプティブブレーキアシストが故障している。 車間距離警告機能も故障した。 アクティブドライビングアシスタンスパッケージ装備車：PRE-SAFE® ブレーキが故障している。 BAS プラスまたは車間距離警告機能も故障した。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
SRS システム 故障 工場で点検	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 メーターパネルの [SRS] 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 乗員安全についての詳しい情報 (▷ 43 ページ)
フロント左 SRS システム故障 工場で点検またはフロント右 SRS システム故障 工場で点検	フロント左側またはフロント右側の SRS に異常がある。 メーターパネルの [SRS] 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リア左 SRS システム故障 工場で点検 または リア右 SRS システム故障 工場で点検	リア左側またはリア右側の SRS に異常がある。 メーターパネルの [SRS] 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 リア中央 SRS システム故障 工場で点検	リア中央の SRS に異常がある。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ウインドウバッグ 故障 工場で点検 または 右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	左側または右側のウインドウバッグに異常がある。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** 左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 冷却水が減少 停車して エンジンを停止	冷却水の温度が高すぎる。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがある。 ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがある。 けがの危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▷ 140 ページ) ▶ エンジンが冷えるまでお待ちください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ ディスプレイメッセージが消え冷却水温度が約 120 ℃以下になるまではエンジンを再始動しないでください。エンジンが損傷することがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、通常の作動条件で冷却水温度が約 120 ℃に上がるまではオーバーヒートは起こしません。

走行装備

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
速度を落として運転	車高を変更できない場合 考えられる原因 • 設定した車高レベルに対し速度が速すぎる ▶ 速度を落として、希望の車高レベルに再度設定してください。 (▷ 157 ページ)
コンプレッサ 冷却中	より高い車高レベルを設定した。車高レベルが頻繁に変化するため、コンプレッサーを冷却する必要がある。 ▶ 現在の車高レベルに適した運転をしてください。 ▶ 十分なロードクリアランスが確保されているか確認してください。 ▶ コンプレッサーが冷却されるまで待ちます。 コンプレッサーが冷却されるとディスプレイメッセージが消えます。車高が設定したレベルまで上がります。
故障	AIR マティックサスペンションに異常がある。 ▶ 現在の車高レベルに適した運転をしてください。ただし、約 80 km/h を超えないように走行してください。 ▶ 十分なロードクリアランスが確保されているか確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ACTIVE CURVE SYSTEM 故障 取扱説明書 参照	アクティブカーブシステムに異常がある。車両の操縦安定性が著しく損なわれる。警告音も鳴った。 ⚠ **警告** 事故の危険性があります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ 車両操縦性の変化に合わせて運転スタイルを調整してください。 ▶ 急カーブでの急加速や急なステアリング操作を避けてください。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤ

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
タイヤ空気圧 タイヤを点検してください	タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** タイヤ空気圧が低すぎると、以下の危険が生じるおそれがある。 • 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。 • タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。 • ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。周囲の状況に注意しながら操作してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 140 ページ） ▶ タイヤを点検し、必要であれば、タイヤのパンクの指示に従ってください。(▷ 260 ページ) ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば適正な空気圧に調整してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。（▷ 285 ページ）

車両

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	テールゲートが開いている。 ⚠ 警告 エンジンをかけた状態でテールゲートが開いたままになっていると、排気ガスが車内に入る可能性がある。 中毒を起こすおそれがある。 ▶ テールゲートを閉じます。
	ボンネットが開いている。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 ボンネットが開いた状態で走行すると視界が遮られるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 140 ページ) ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
 パワーステアリング故障 取扱説明書を参照	ステアリングのパワーアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 ステアリング操作に大きな力が必要になる。 事故の危険性があります。 ▶ 大きな力を加えればステアリングが操作できるか確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができるときは、**注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができないときは、**走行しないでください。 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ﾜｲﾊﾟｰ 故障	ワイパーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
非常点滅灯 故障	非常点滅灯が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メーターパネルの警告および表示灯

全体的な注意事項

この章では、メーターパネルに表示される安全に関わる表示灯と警告灯および対応方法について説明しています。 メーターパネルに表示される他の表示灯と警告灯の概要および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

安全装備

シートベルト

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 50 ページ) 警告灯が消灯します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
[シートベルト警告灯] 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 50 ページ) 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全装備

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっているときに黄色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ 警告 ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されているときは、そのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ 警告 ブレーキのブースト機能が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 140 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ⚠ **警告** ブレーキの性能が損なわれるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 140 ページ） ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。補給しても異常は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	故障のため ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、BAS プラス、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、コリジョンプリベンションアシスト、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障すると、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションなど、他のシステムも作動しなくなる可能性がある。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS が一時的に作動しない。そのため、BAS、BAS プラス、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、コリジョンプリベンションアシスト、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 考えられる原因 • セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 事故の危険性があります。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	EBD が故障している。そのため、ABS、BAS、BAS プラス、ESP®、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、コリジョンプリベンションアシスト、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯、黄色の ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS と ESP® が故障している。そのため、BAS、BAS プラス、ESP®,、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、コリジョンプリベンションアシスト、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニック・プラスは解除されている。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中は緩やかに加速してください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください。 まれに (▷ 71 ページ),、ESP® を解除したほうがいい場合があります。

ディスプレイ

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
[ESP OFF表示灯] エンジンがかかっているときに黄色のESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP® の機能が解除されているとき ⚠ 警告 ESP® がオフになっている場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ ESP® を再び作動させてください。 まれに (▷ 71 ページ), 、ESP® を解除したほうがいい場合があります。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® が作動しないとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
[ESP表示灯] [ESP OFF表示灯] エンジンがかかっているときに黄色のESP® 表示灯と黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、BAS プラス、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、コリジョンプリベンションアシスト、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトが作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 アテンションアシストの機能は解除されている。 セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色の SRS 警告灯が点灯する。	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。 乗員保護補助装置に関する詳しい情報は、(▷ 43 ページ) を参照してください。

エンジン

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
[冷却水警告灯記号] エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120 ℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、冷却水量がかなり不足している可能性がある。 ⚠ **警告** エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。 エンジンが過熱した状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。 ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがあります。 けがをするおそれがあります。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▷ 140 ページ) ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項 (▷ 250 ページ) に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120 ℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。

走行装備

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	設定された速度に対し、先行車との車間距離が近すぎる。 ▶ 車間距離を広げてください。
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	同じ走行車線にいる前車または固定障害物に急速に近付いている。 ▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。 ブレーキ操作や危険回避の操作が必要となる可能性があります。 ディストロニックプラスについて詳しくは、(▷ 147 ページ)をご覧ください。 PRE-SAFE® ブレーキについて詳しくは、(▷ 74 ページ)をご覧ください。 車間距離警告機能について、詳しくは (▷ 68 ページ)をご覧ください。

役に立つ情報

ℹ これらの取扱説明書は印刷時点で利用可能な COMAND システムのすべての標準装備やオプション装備について記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない可能性があることにご留意ください。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ).

全体的な注意事項

これらの取扱説明書の COMAND システムの項には、COMAND システムとオンラインおよびインターネット機能の操作の基本原則が記載されています。 詳細はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

常に交通状況に注意してください。

道路や交通状況が許す場合のみ、COMAND システムや電話を使用してください。

50km/h の速度でも、車両は 1 秒間に約 14 m の距離を走行するということを念頭に置いてください。ナビゲーションシステムは、一時停止の標識や前方優先道路の標識、交通規則、道路の安全性についての情報を提供するものではありません。車両を運転している場合に、これらのことに注意を払うのは運転者の義務です。車両が停止している場合にのみ、新しい目的地を入力してください。

著作権の情報

全体的な注意事項

車両やその電子部品で使用されているフリーのオープンソースソフトウェアのライセンスの情報を以下のウェブサイトで見つけることができます：**http://www.mercedes-benz.com/opensource**

機能の制限

安全のために、車両走行中は COMAND システムのいくつかの機能が制限されたり、利用できないことがあります。 このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、COMAND システムにこの結果に対するメッセージが表示されることで、ご確認いただけます。

COMAND システムの操作

概要

① COMAND ディスプレイ(▷ 214 ページ)
② シングル DVD ドライブ付き COMAND コントロールパネル
③ COMAND コントローラー(▷ 219 ページ)

COMAND システムを使用して以下の基本機能が操作できます。

- ナビゲーションシステム
- オーディオ機能
- 電話機能
- ビデオ機能
- システムの設定
- オンラインとインターネット機能
- デジタル版取扱説明書

以下のようにして基本機能を呼び出すことができます。

- 対応する機能の選択スイッチを使用する
- COMAND ディスプレイの基本機能バーを使用する

COMAND ディスプレイ

ディスプレイの概要

ラジオの表示例

①	ステータスバー	時刻および電話操作の現在の設定を表示します。
②	オーディオメニューの呼び出し	作動しているオーディオ基本機能を強調します。 三角はこの基本機能に選択可能なサブメニューがあることを示します。
③	基本機能バー	基本機能バーから希望する基本機能を呼び出すことができます。 基本機能が作動しているときは、白色の文字によって識別可能です。
④	表示/選択ウインドウ	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の内容を表示します。
⑤	ラジオメニューバー	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の他の機能を表示します。

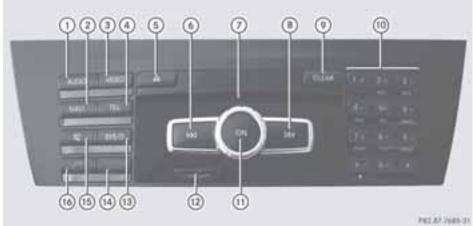
メニュー概要

ナビ	オーディオ	電話	TV/映像	システム	🌐 マーク
地図表示切替	ラジオ	電話	テレビ	設定メニューを呼び出す	デジタル版取扱説明書を呼び出す
地図表示形式	ディスク	アドレス帳	DVD ビデオ		COMAND Online とインターネットを呼び出す
VICS 表示	メモリーカード		外部入力		
施設マークの表示	ミュージックレジスター				
設定	USB メモリー				
案内の中止/継続	メディアインターフェース				
コンパスを表示する	Bluetooth® オーディオ				
	外部入力				

システムメニュー概要

設定	時刻	消費	シート	ディスプレイオフ
ディスプレイの設定	時刻の設定	燃料消費量表示を呼び出す	運転席/助手席の設定を変更する	ディスプレイのオフ
音声認識	フォーマットの設定			
言語の設定	タイムゾーンの設定			
お気に入りスイッチ				

設定	時刻	消費	シート	ディスプレイオフ
☑Bluetooth®の作動/解除				
データのインポート/エクスポート				
COMAND システムをリセットする				

COMAND コントロールパネル

	機能	ページ
①	最後に選択されていたオーディオモード（例：ラジオモード）に切り替える	
②	ナビゲーションモードに切り替える 設定メニューを表示する	
③	最後に選択されていたビデオモード（例：テレビモード）に切り替える	
④	電話基本メニュー（Bluetooth® インターフェースによる電話機能）を呼び出す アドレス帳を呼び出す	
⑤	挿入/排出スイッチ	
⑥	放送局サーチ機能を使って放送局を選択する 早戻し 前のトラックを選択する	
⑦	ディスクスロット • CD/DVD を挿入する • CD/DVD を排出する	
⑧	放送局サーチ機能を使って放送局を選択する 早送り 次のトラックを選択する	
⑨	クリアスイッチ • 文字を削除する • 項目を削除する	

	機能	ページ
⑩	テンキー • 放送局プリセットによって放送局を選択する • 手動で放送局を登録する • 携帯電話の認証 • 電話番号の入力 • 文字入力 • メモリーから天気予報の場所を選択する [#] 再生されている現在のトラックを表示する [#] 文字バーのあるリスト：文字の設定（かな/漢字/アルファベット/カタカナ/数字入力）を切り替える [#] 選択リストとしてのリスト：文字の設定（カタカナ/アルファベット）を切り替える [*] 周波数を手動で入力して放送局を選択する [*] トラックを選択する	
⑪	COMAND システムのオン/オフを切り替える 音量の調整	
⑫	SD メモリーカードスロット	
⑬	設定メニューを呼び出す	
⑭	通話を拒否する 通話を終える 保留中の通話を拒否する	
⑮	ミュート ハンズフリーマイクのオン/オフを切り替える ナビゲーションの音声案内を停止する	
⑯	通話を受ける 番号をダイアルする リダイアル 保留中の通話を受ける	

COMAND コントローラー

概要

① COMAND コントローラー

COMAND コントローラーを使用して COMAND ディスプレイのメニュー項目を選択できます。

以下のことができます。

- メニューまたはリストの呼び出し
- メニューまたはリスト内のスクロール、そして
- メニューまたはリストの終了

操作

例：COMAND コントローラーを操作する

COMAND コントローラーは以下のようなことができます。

- 軽く押す、または押して保持する
- 時計回り、または反時計回りにまわす
- 左右にスライドする
- 前後にスライドする
- 斜めにスライドする

操作の例

説明では、操作の順番は以下に記載されているようになります。

▶ AUDIO スイッチを押す。

最後に選択されていたオーディオソースがオンになります。

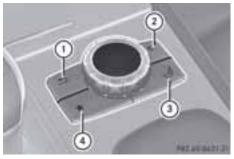
▶ COMAND コントローラーをスライドして、オーディオを選択し、押して確定します。

オーディオメニューが表示されます。

▶ COMAND コントローラーをまわして、ミュージックレジスター のように異なるオーディオソースを選択し、押して 確定します。

ミュージックレジスターがオンになります。

COMAND コントローラーのスイッチ

概要

① リターンスイッチ(▷ 220 ページ)

② クリアスイッチ(▷ 220 ページ)

③ シート機能スイッチ

④ お気に入りスイッチ

ℹ 車両にシート機能スイッチが装備されていない場合は、2 つのお気に入りスイッチがあります。

リターンスイッチ

リターンスイッチ [↩] を使用して、メニューを終了するか、または現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する：** リターンスイッチ [↩] を軽く押します。
COMAND システムは現在の操作モードのなかで、一つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す：** リターンスイッチ [↩] を押して保持します。
COMAND システムは現在の操作モードの基本表示に切り替わります。

クリアスイッチ

▶ **個々の文字を削除する：** クリアスイッチ [c] を軽く押します。

▶ **入力全体を削除する：** クリアスイッチ [c] を押して保持します。

シート機能のスイッチ

[シート] スイッチを使用して、以下のシート機能を呼び出すことができます。

- マルチコントロールシートバック（電動ランバーサポート付）
- アクティブマルチコントロールシートバック（ダイナミックシートとマッサージ機能）
- バランス（シートヒーターの配分）

お気に入りスイッチ

あらかじめ設定した機能をお気に入りスイッチ [*] に指定し、スイッチを押してそれらを呼び出すことができます。

COMAND Online とインターネット

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- インターネットアクセスデータの選択/設定
- COMAND Online とインターネット
- Google™ ローカル検索
- 目的地/ルートのダウンロード
- 天気表示
- インターネット

全体的な注意事項

アクセスの条件

⚠ **警告**
COMAN Online を操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。走行中に通信機器を操作することが法律で認められている場合は、交通状況が許すときのみ操作してください。交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の乗員の方々が負傷するおそれがあります。

オンライン機能とインターネットアクセスは、Bluetooth® インターフェースを介して利用することができます。

機能を使用するには、以下の条件が必要です。

- 携帯電話が DUN Bluetooth® プロファイル（**D**ial-**U**p **N**etworking：ダイアルアップネットワーク）をサポートしていて、Bluetooth® インターフェース によって COMAND システムに接続されていること。 DUN Bluetooth® プロファイルは携帯電話

のインターネットへのダイアルアップ接続を確立させることができます。
- データオプションがある有効な携帯電話の契約が必要で、それには関連する接続費用が請求されます。
- 接続している携帯電話のアクセスデータが COMAND システムに設定されていること(▷ 222 ページ)。

ℹ 適合している携帯電話の詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ℹ 携帯電話によっては、独立して DUN Bluetooth® プロファイルをオンにしなければならないものもあります (携帯電話の取扱説明書をご覧ください)。

ℹ 携帯電話の中には同時に 2 つの Bluetooth® プロファイルのみをサポートするものがあります (例 : Bluetooth® 電話機能のハンズフリープロファイルおよびオーディオストリーミングの Bluetooth® オーディオプロファイル)。さらにインターネット接続を確立させたときは、Bluetooth® オーディオ経由での再生が停止することがあります。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。 これは、契約と違う項目や、他の契約/データパッケージの項目を使用したときに発生します。

ℹ 個々の COMAND システムのメルセデス・ベンツのアプリケーションの使用可能状況は国によって異なります。

ℹ 利用規約は COMAND Online が初めて使用されたとき、およびそれ以降年に 1 度表示されます。 車両が停止しているときにのみ、利用規約を読んで同意してください。

ℹ インターネットのページは走行中は表示できません (▷ 228 ページ)。

データをインポート/エクスポートし、そのために インターネットデータ オプションを選択するときは、携帯電話のネットワークプロバイダーのパスワードは保存**されません**。

インターネットに再度接続するときは、以下のように進めます。

▶ **ステップ 1**: 携帯電話のネットワークプロバイダーを削除します。

▶ **ステップ 2**: 携帯電話のネットワークプロバイダーを再度選択する (オプション 1)か、手動で設定します (オプション 2)。

車両が走行している間の接続障害

以下の場合は、接続が切断されることがあります。
- 特定の地域において、携帯電話のネットワーク範囲が不十分なとき
- 携帯電話の送信/受信エリア（携帯電話の基地局）を他に移動して空いているチャンネルがないとき
- 使用可能なネットワークに適していない SIM カードを使用しているとき

機能の制限

以下の状況のときは、携帯電話を使用できなかったり、携帯電話を使用できなくなったり、使用できるようになるまでに待たなければならないことがあります。
- 携帯電話の電源が入っていないとき
- COMAND システムの"Bluetooth®"機能がオフになっているとき
- Bluetooth® インタフェースの電話機能を使用している間に携帯電話の"Bluetooth®"機能がオフになったとき

- 携帯電話が携帯電話のネットワークにログインしていないとき
- 携帯電話のネットワークおよび携帯電話のどちらにも、電話とインターネット接続の同時使用が認められていないとき

ℹ 使用している携帯電話と携帯電話ネットワークによっては、インターネットに接続しているときは着信できないことがあります。

ローミング

他の国でご自身の車両を運転していて、オンラインとインターネット機能を使用すると、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。他の国にいるときは、SIM カードがデータローミングをできるようにしなければなりません。携帯電話のネットワークプロバイダーがローミングパートナーとデータローミングの契約を結んでいない場合は、インターネット接続を確立できないことがあります。 他の国にいるときにデータローミングを避けたい場合は、携帯電話のこの機能を非作動にしてください。

アクセスデータの設定

概要

接続された携帯電話のインターネットアクセスデータは、携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 COMAND システムにおいて必要なインターネットアクセスデータの設定は以下に記載されています。

選択された/手動で設定された携帯電話のネットワークプロバイダーは、選択/設定されたときに接続されている携帯電話のみで有効です。 再接続されたときは携帯電話のネットワークプロバイダーは自動的に設定されます。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。 例えば、適切でないデータは契約と異なる項目や、他の契約/データパッケージの項目です。

ℹ 他の国で車両を運転していて、COMAND システムとインターネット機能を使用すると、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。

ℹ 車両が停止しているときにアクセスデータの設定を調整してください。 交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

インターネットアクセスデータの選択/設定

携帯のネットワークプロバイダーを呼び出す

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ↻◎↺、基本機能バーでマーク 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ❨◎❩、設定 を選択し、押して ◉ 確定します。

携帯電話を初めて COMAND システムに接続するときは、あらかじめ設定されている携帯電話のネットワークプロバイダーはありません。 プロバイダー： に選択されていません という言葉が続きます。

携帯電話が接続されていて、携帯電話のネットワークプロバイダーが選択されている場合は、携帯電話のネットワークの名称がプロバイダー： の後に表示されます。

▶ COMAND コントローラーを押します ◉。

携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト（空欄）

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定するために、以下のことができます。

- 携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータを選択する(▷ 223 ページ)
- 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを手動で設定する(▷ 226 ページ)

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの選択

プロバイダーの検索

▶ COMAND コントローラーをまわして ❨◎❩、携帯電話のネットワークプロバイダーリストで プロバイダー検索 を選択し、押して ◉ 確定します (▷ 222 ページ)。

国のリストが表示されます。

▶ 押して ⊛、日本 を確定します。
使用可能な携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

ⓘ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータが接続している携帯電話で一度選択されると、携帯電話が接続されるたびに再び読み込まれます (▷ 222 ページ)。

ⓘ 接続している携帯電話の SIM カードおよび関連するデータパッケージ（アクセス設定）を提供している携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定してください。 他に国にいるときは、アクセスデータは同じままです（ローミング)。 他のネットワークのアクセスデータは選択**されません**。
複数のアクセスデータを提供している携帯電話のネットワークプロバイダーがあります。 これは、例えば使用しているデータパッケージによって異なります。

携帯電話のネットワークアクセス設定が 1 つの場合

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、携帯電話のネットワークプロバイダーを選択し、押して ⊛ 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **プリセットアクセスデータを確認する：** 編集 を選択し、⊛ で確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します。 アクセスデータの記載(▷ 226 ページ).

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ [↶] を押すか、または [↶] マークを選択し、押して ⊛ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して ⊛ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：**"携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定" (▷ 226 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

携帯電話のネットワークアクセス設定が複数の場合

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、適切なアクセス設定を選択し、押して ◎ 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **アクセス設定を確認する：** 編集 を選択し、押して ◎ 確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します。 アクセスデータの記載(▷ 226 ページ).

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ [↩] を押すか、または [↩] マークを選択し、押して ◎ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して ◎ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：**"携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定" (▷ 226 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

選択したプロバイダーがある携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト

現在選択されているアクセス設定（項目の前の ● で示されています）は接続されている携帯電話に使用されています。

▶ **カルーセルビュー（マルチウインドウ）に戻る：** リターンスイッチ [↩] を 2 回押します。

または

▶ COMAND コントローラーを押して ◎、リターンスイッチ [↩] を押します。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定

アクセスデータのリスト（新しいプロバイダー）

アクセスデータのリストを呼び出す

▶ COMAND コントローラーを押して ⊛、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストで 新しいプロバイダー作成 を確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。 標準的な名前 プロバイダー <x> がプロバイダー： 欄に自動的に入力されます。 ここで項目を作成することができます。

ℹ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータは接続されている携帯電話に一度設定されます。

アクセスデータの説明

入力欄	意味
プロバイダー名：	携帯電話のネットワークプロバイダーのリストに表示されるプロバイダーの名前。 名前を自由に選択できます。 標準的な項目は プロバイダー <x> です。
電話番号:	接続を確立するためのアクセス番号 ℹ アクセス番号はプロバイダーによって異なります。
アクセスポイント：	APN ネットワークアクセスポイント (Access Point Name：アクセスポイント名) ℹ ネットワークのアクセスポイントは入力されている必要はありません。
ユーザー ID：	ユーザー ID は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力は必要ではありません。

入力欄	意味
パスワード：	パスワードは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力は必要ではありません。 ℹ パスワードはデータをインポート/エクスポートすると失われます。
DNS アドレス：	DNS アドレス (Domain Name Service：ドメインネームサービス) は自動的に決めるか、手動で入力することができます。 必要な情報は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ ほとんどの携帯電話のネットワークプロバイダーは自動 機能をサポートしています。 マニュアル オプションを選択すると、通常は DNS アドレスを入力する必要があります。
DNS 1： DNS 2：	DNS サーバーのアドレスを手動で入力するための欄。 アドレスは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。

接続の確立 / 終了

接続を確立する

接続を確立するための前提条件は、"全体的な注意事項" (▷ 220 ページ) をご覧ください。

▶ **オプション 1：** COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ↺◎↻、基本機能バーでアイコン 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。

カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ Mercedes-Benz Apps パネル、または以前に作成されている場合はお気に入りが前面になるまで、COMAND コントローラーをまわすか ↺◎↻、スライドします ←◎→。

▶ **オプション 2：** ウェブアドレス (▷ 229 ページ) を入力します。

COMAND システム

▶ どちらのオプションも、COMAND コントローラーを押します ⊚。
インターネットの接続が確立されます。 インターネットの接続の作動は、マーク ① で識別されます。例は、Google™ ローカル検索 機能のメニューを示しています。

▶ **接続を中止する：** 接続を確立している間に、押して ⊚ 中止 を確定します。

または

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの [☎] スイッチを押します。

ℹ インターネット接続の作動と同時に通話をすると、[☎] マークが ① に表示されます。インターネット接続は、使用されている携帯電話と携帯電話ネットワークによって接続されたままになります。

接続を終了する

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの [☎] スイッチを押します。

または

▶ カルーセルビュー（マルチウインドウ）の右下にあるハサミマークを選択して、押して ⊚ 確定します。

ℹ 携帯電話のインターネット接続が中止されると、COMAND システムは再接続しようとします。 そのため、COMAND システムでまたはマルチファンクションステアリング経由で接続を常に閉じるようにしてください。

インターネット

表示制限

インターネットのページは走行中は表示できません。

ウェブサイトを呼び出す

カルーセルビュー（マルチウインドウ）を呼び出す

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑⊚、まわして ⟲⊚⟳、基本機能バーで🌐 マークを選択し、押して ⊚ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

ウェブアドレスを入力することができます。

ウェブアドレスの入力

文字バーまたはテンキーのどちらかを使用してウェブアドレスを入力できます。

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ⟲◎⟳、www を選択し、押して ◎ 確定します。
入力メニューが表示されます。

▶ **文字バーを使用して入力する：** 入力行にウェブアドレスを入力します。
最初の文字を入力行に入力するとすみやかに、リストがその下に表示されます。 入力した文字で始まるウェブアドレスと、すでに呼び出されたウェブアドレスがリストに表示されます。
初めて呼び出したときはリストは空欄です。

▶ ウェブアドレスを入力した後に、COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ⟲◎⟳、 ok マークを選択し、押して ◎ 確定します。
ウェブサイトが呼び出されます。

ウェブサイトを操作する

手順	動作
▶ コントローラーをまわす ⟲◎⟳	リンク、文字欄または選択リストなどの選択できる 1 つの項目から次に操作し、ウェブサイトのそれぞれの項目を強調します。
コントローラーをスライドする ▶ 左右 ←◎→ ▶ 上下 ↑◎↓ ▶ 斜め ↘◎↙	ページのポインターを動かします。
▶ コントローラーを押す ◎	メニューを呼び出す、または選択した項目を開きます。
▶ 押す ↩	前のページを呼び出します。
▶ 押す c	インターネットのブラウザーを、または複数が開いているときは現在のウインドウを閉じます。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

ラゲッジルーム

荷物の積み方

⚠ **警告**

荷物や重い荷物を固定していないか、しっかりと固定していないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。 特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。 走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

⚠ **警告**

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。 エンジン作動中、とくに走行中にテールゲートが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒を起こすおそれがあります。

テールゲートを開く前に、エンジンをオフにしてください。 テールゲートを開いたまま走行しないでください。

荷物の積み方は車両の走行安定性に大きく影響します。荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 荷物を運搬するときは、最大車両総重量および許容軸荷重（乗員を含む）を超えないようにしてください。
- 荷物はラゲッジルームに積むことをお勧めします。
- 重い物はできるだけラゲッジルームの前方の低い位置に積んでください。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストよりも高く積み上げないでください。
- トランクに荷物を積むときは、必ずリアシートまたはフロントシートのバックレストに接するように積んでください。シートバックレストがしっかりと固定されていることを確認してください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積み込んでください。
- 固定用リングおよびラゲッジネットを荷物や積載物を運搬するために使用してください。
- 荷物の大きさと重さに適した荷物固定用リングおよび固定具のみを使用してください。
- 荷物を積むときはセーフティネット内に引っ掛けてください。
- 強度のある耐摩耗性の荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

ℹ 荷物固定用のアクセサリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

小物入れ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員がけがをするおそれがあります。 特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はラゲッジルームに収納し、固定する

荷物の積み方 (▷ 232 ページ) をお守りください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- グローブボックス
- アームレスト下の小物入れ
- メガネケース
- フロントセンターコンソールの小物入れ
- センターコンソール（後席）の小物入れ

ラゲッジネット

ラゲッジネットは、助手席の足元、運転席および助手席のシート後部にあります。

荷物の積み方 (▷ 232 ページ) および収納用スペースに関する安全上の注意 (▷ 233 ページ) をお守りください。

後席のスルーローディング

荷物や重い荷物をスルーローディング機能で運搬する際に固定していないと、すべったり、投げ出されたりして、乗員にぶつかる恐れがあります。

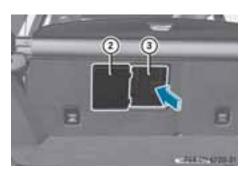
荷物の積み方 (▷ 232 ページ) および収納用スペースに関する安全上の注意 (▷ 233 ページ) をお守りください。

スルーローディングはラゲッジルームから開きます。

▶ 2 列目シートのシートバックレストをロック解除して、カーゴ / ロード位置に傾けます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

▶ リアシートのアームレストを引き出します。

▶ リアシートのセンターヘッドレストを最大位置に引き上げます。 (▷ 102 ページ)

▶ リリースキャッチ ① を左にスライドさせ、フラップ ② を左に開いてリアシートの後側につけます。

▶ カバー ③ を前方に押して、リアシートのアームレストの上に倒します。

ラゲッジルームの拡大

重要な安全上の注意

⚠ 警告

リアベンチシート/後部座席と座席の背もたれが固定されていない場合、急なブレーキ操作や事故のときに、前に倒れる可能性があります。

- これにより、乗員は、リアベンチシート/後部座席または座席の背もたれによってシートベルトに押さえ込まれます。 シートベルトは、充分な保護効果を発揮することができず、さらにけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームの荷物や重い荷物はシートバックレストで固定することはできません。

けがをするおそれが高まります。

走行前に、必ずシートバックレストおよびリアベンチシート/後部座席が固定されていることを確認してください。

! リアシートを前方に倒す前にシートクッションを折りたたんでください。 バックレストが損傷するおそれがあります。

バックレストを前方に倒しているときは、フロントシートを最後方位置に動かすことはできません。 フロントシートおよびリアシートが破損するおそれがあります。

荷物の積み方 (▷ 232 ページ) をお守りください。

ラゲッジルーム容量を拡大するため、左右リアシートのバックレストは別々に倒すことができます。

リアシートを前に倒す

! バックレストは重いです。 したがって、倒すときには特に注意が必要です。 バックレストおよびシートクッションを損傷させないために、ヘッドレストがいっぱいまで押し下げられていることを確認してください。

ℹ 運転席または助手席シートが大柄の人用に設定されている場合、リアシートを前に倒すことができない場合があります。 この場合には、フロントシートをできるだけ前に動かしてください。

▶ ヘッドレストを最も低い位置に動かします。 これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

▶ シートクッション ① を上にたたみます。

▶ リリースハンドル ② を矢印の方向に引いて、バックレストのロックを完全に解除します。

▶ ラゲッジルーム位置に達するまで、バックレストを前方に倒します。

▶ シートベルト ② をそれぞれのクリップ ① の下に導きます。

リアシートを後ろに倒す

⚠ 警告

シートバックレストおよびシートクッションが所定の位置に適切にロックされていることを確認してください。

▶ シートバックレスト ② を起こしてロックします。 その間にシートベルトが引っかかっていないか確認してください。

▶ シートクッション ① を元に戻します。

▶ 必要であれば、ヘッドレストを引き上げて高さを調整します。 これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

荷物の固定

荷物固定用リング

全体的な注意事項

⚠ 警告

テザーアンカーは荷物を固定できません。 トップテザーアンカーで荷物を固定する場合、トップテザーアンカーはブレーキ操作時、急な進路変更または事故のときに引き出される可能性があります。 重い荷物がすべったり、転がったり、飛び出して乗員にぶつかるおそれがあります。 けがの危険性があります。

荷物を固定するときにのみ固定用リングを使用してください。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。

- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

ラゲッジルーム

ラゲッジルーム内に 4 個の荷物固定用リング ① があります。

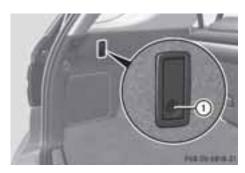
ラゲッジルームのフロント右の荷物固定用リングを使用する前に、ラゲッジネットを押し下げる必要があります。

バッグフック

⚠ **警告**

バッグフックは重い荷物やラゲッジルームの積載物を固定することはできません。 荷物やラゲッジルームの積載物が飛び出す可能性があり、ブレーキ操作や急な進路変更で乗員にぶつかる可能性があります。 けがの危険性があります。

バッグフックには軽い荷物のみをかけてください。 バッグフックに固いもの、鋭利なもの、壊れやすい物をかけないで下さい。

! バッグフックには、約 3 kg 以上の荷物をかけないでください。 バッグフックは、荷物を固定する目的で使用しないでください。

バッグフックはラゲッジルームの左側にあります。

▶ バッグフック ① のマークを押します。

▶ バッグフック ① が回り、フックが使用できます。

固定リング

2 つの固定フック ① がラゲッジルームの両側にあります。

固定フックには、軽い重量の荷物のみを固定してください（最大約 4 kg)。

ラゲッジルームカバー

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

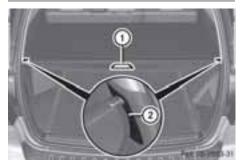
ラゲッジルームカバーには、荷物や重い荷物などを固定することはできません。固定されていない荷物や重い荷物が、急な進路変更やブレーキ操作または事故のときなどにぶつかる可能性があります。

けがや致命的なけがをするおそれが高まります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。 ラゲッジルームカバーを使用していても、荷物や重い荷物がすべったり、放り出されることを防ぐために、荷物固定用ストラップなどで固定してください。

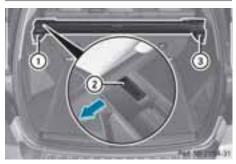
! 荷物を車内に積むときは、ラゲッジルーム内の荷物をサイドウインドウ下端より高く積み上げないでください。 ラゲッジルームカバーの上に重い物を載せないでください。

装備状態に応じて、リアシートバックレスト後部には、ラゲッジルームカバーまたはコンバインドラゲッジカバーおよびネット（セーフティネット付きラゲッジルームカバー）が取り付けられます。

ラゲッジルームカバーの展開 / 収納

- **展開する：** グリップハンドル ① を持って、ラゲッジルームカバー を後方に引き、左右のフック ② に固定します。
- **格納する：**左右のフック ② からラゲッジルームカバーを外します。
- グリップハンドル ① でラゲッジルームカバーを前方に導き、完全に巻き取ります。

ラゲッジルームのカバー取付け / 取外し（内蔵式セーフティネット非装備）

- **取り外す：**ラゲッジルームカバー ① が巻き取られていることを確認します。
- ラゲッジルームカバー ① の右または左側のエンドキャップ ③ を矢印の方向に押します。
- ラゲッジルームカバー ① を反対側のアンカー ② に向けて押します。
- ラゲッジルームカバー ① を取り外します。
- **取り付ける：**ラゲッジルームカバーを取り付けるシート列のサイドパネルから保護キャップを取り外します（取り付けられている場合）。 コインなど、適切なものを使用します。
- 他のシート列のサイドパネルに保護キャップを取り付けます。
- 右または左側のアンカー ② にラゲッジルームカバー ① を置きます。
- ラゲッジルームカバー ① の反対側のエンドキャップ ③ を矢印の方向に押して、ラゲッジルームカバー ① を反対側のアンカー ② に差し込みます。

ラゲッジルームカバーとネットの取付け / 取外し（内蔵式セーフティネット付きラゲッジルームカバー）

ラゲッジルームから一体型ラゲッジカバーとネットを取り付けたり、取り外すことができます。

▶ セーフティネットとラゲッジルームカバーが収納されていることを確認してください。

▶ **取り外す：** スイッチ ②を押します。

▶ 一体型ラゲッジカバーとネットのマーク部を矢印の方向に押します。

▶ まず、一体型ラゲッジカバーとネットを左側のフック ① から外してから、右側の固定部 ③から外します。

▶ **取り付ける：** 一体型ラゲッジカバーとネットを押し上げて右側の固定部 ③に取り付けます。

▶ 一体型ラゲッジカバーとネットを左側の固定部に取り付け、フック ① に押し込んで、ロックさせせます。

▶ 赤色のロックステータスインジケーター ④ が見えないことを確認してください。 インジケーターが見える場合は、一体型ラゲッジカバーとネットが確実にロックされていません。

ラゲッジルームカバーとネットのセーフティネット

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

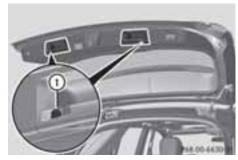
セーフティネットには、荷物や重い荷物などを固定することはできません。 固定されていない荷物や重い荷物が、急な進路変更やブレーキ操作または事故のときなどにぶつかる可能性があります。 けがや致命的なけがをするおそれが高まります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。 セーフティネットを使用していても、荷物や重い荷物がすべったり、放り出されることを防ぐために、荷物固定用ストラップなどで固定してください。

シートのバックレストの高さを超える小物を車両に積載する場合は、セーフティネットを使用することが特に重要になります。 安全上の理由で、荷物を運搬するときは常にセーフティネットを使用してください。

セーフティネットの装着

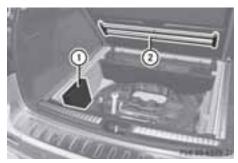
▶ タブ ① を持ってセーフティネットを引き上げ、取り付け部 ② に両手を使って固定します。

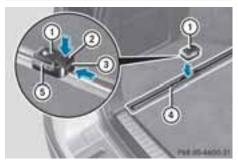
テールゲートのコートフック

① コートフック

EASY-PACK フィックスキット

構成部品および収納

EASY-PACK フィックスキットを使用すれば、ラゲッジルームを多彩な目的に利用できます。 付属部品は、ラゲッジルームのフロアの下に収納されています。

▶ ラゲッジルームのフロアを開きます (▷ 241 ページ)。

EASY-PACK フィックスキット付属部品
① アタッチメント / 伸縮式ベルト収納バッグ
② 伸縮式ベルト

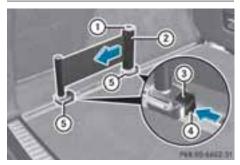
ローディングレールへのアタッチメントの装着

▶ アタッチメント ① をローディングレール ④に差し込みます。

▶ ノブ ② を押して、アタッチメント ① をローディングレール ④の希望の位置に押し込みます。

▶ ノブ ② を離します。

▶ ロックスイッチ ③を押します。
アタッチメント ① がローディングレール ④ に固定されます。

▶ 必要であれば、固定用リング ⑤ を引き上げます。

ラゲッジホルダー

伸縮式ベルトで軽い荷物をラゲッジルームの側面に固定して、荷物が移動するのを防ぐことができます。

▶ **取り付ける：** 2 個のアタッチメント ⑤ を左右のローディングレールに差し込みます。 (▷ 239 ページ)

▶ 伸縮式ベルトのロック解除スイッチ ① を押し、ストラップを少し引き出します。

▶ 伸縮式ベルト ② をアタッチメントに差し込みながら、 ⑤ のロック解除スイッチ ③ を押してラゲッジホルダーをロックさせます。

▶ 伸縮式ベルトのロック解除スイッチ ① を押して、矢印の方向にストラップを引き出します。

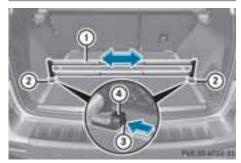
▶ ストラップとラゲッジルーム側面の間に負荷をかけます。

▶ 片手で伸縮式ベルトのロックスイッチ ① を押します。

▶ もう一方の手で、ストラップをゆっくり引き伸ばし固定させます。

▶ アタッチメント ⑤ のロックスイッチ ④ が押されていることを確認します。
これにより、アタッチメント ⑤ をローディングレールに確実に固定できます。

▶ **取り外す：** 各アタッチメント ⑤ のロック解除スイッチ ③ を押して、伸縮式ベルト ② を引き上げて取り外します。

伸縮式ベルト

伸縮式ベルトで荷物をリアシートに固定して、荷物が移動するのを防ぐことができます。

▶ **取り付ける：** アタッチメント ② を左右のローディングレールに差し込み、好みの位置までスライドさせます。 (▷ 239 ページ)

▶ 伸縮式ベルト ① をアタッチメント ② に差し込みながら、ロック解除スイッチ ④ を押してベルトをロックさせます。

▶ アタッチメント ② のロックスイッチ ③ が押されていることを確認します。
これにより、アタッチメント ② をローディングレールに確実に固定できます。

▶ **取り外す：** 各アタッチメント ② ロック解除スイッチ ④ を押して、伸縮式ベルト ① を引き上げて取り外します。

ラゲッジルームフロア下の収納スペース

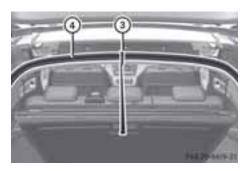
⚠ 警告

ラゲッジルームフロアを開いて走行すると、荷物が放り出され、乗員にぶつかるおそれがあります。 特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

走行する前に、必ずラゲッジルームフロアを閉じてください。

▶ **開く：**フレームを押さえながら、ハンドル ① を下方 ② に押します。
ハンドル ① が浮き上がります。

▶ ハンドル ① を使ってラゲッジルームフロアを、ラゲッジルームカバーに当たるまで持ち上げます。

▶ ラゲッジルームフロアの底面にあるフック ③ を矢印の方向に引き出します。

▶ フック ③ をラゲッジルームの上側ウェザーストリップ ④ にかけます。

▶ **閉じる：**フック ③ をラゲッジルームの上側ウェザーストリップ ④ から外します。

▶ ラゲッジルームフロアボードの底面にあるブラケットにフック ③ を固定します。

▶ ラゲッジルームフロアを下ろします。

▶ ラゲッジルームフロアをロックするまで押し込みます ②。

ℹ ラゲッジルームフロアを取り外すには、ラゲッジルームフロア下のスナップファスナーを外します。ラゲッジルームフロアを再取り付けするときは、スナップファスナーで固定します。

ルーフラック

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ルーフに荷物を積むときは、車両の重心位置を上げ、走行特性を変更してください。 ルーフの最大積載量を越える場合、走行特性や、ステアリング操作やブレーキ操作が大幅に損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。

運転スタイルを調整し、ルーフの最大積載量を決して超えないでください。

! ルーフラックは、メルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧めします。 推奨品以外の製品を取り付けると車両を損傷するおそれがあります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

車両の装備に応じて、ルーフラックを取り付けたときに、以下の操作ができることを確認してください。

- スライディングサンルーフをいっぱいに上げる
- パノラミックスライディングルーフをいっぱいに開ける
- テールゲートをいっぱいに開く

ルーフの最大積載量は約 100 kg です。

ルーフラックの取り付け

▶ ルーフラックをルーフレール ① に固定します。この作業はメーカーの取付説明書を遵守してください。

室内装備

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- カップホルダー
- リアドアウインドウのブラインド
- 灰皿
- ライター
- 12 V 電源ソケット

サンバイザー

概要

① ミラーライト
② フック
③ クリップ
④ バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

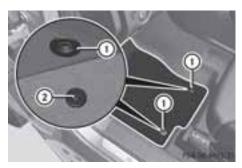
- サンバイザーのバニティミラー
- 横方向からの眩しさを防ぐ

フロアマット

⚠ 警告

運転席の足元にあるものは、ペダルの動きを制限したり、踏んだペダルを妨げることがあります。車両の操作および道路の安全性がおびやかされます。 事故の危険性があります。

すべてのものが車内に正しく収納され、運転席の足元に入り込むことができないことを確認してください。ペダルとの十分な隙間を確保するために、記載されているようにフロアマットを確実に装着し

ます。固定していないフロアマットを使用しないでください。

例：運転席側フロアマット

- **運転席および助手席：**対応するシートを後方にスライドします。
- **後席：**対応する前席を前方にスライドします。
- **取り付ける：**フロアマットを足元に敷きます。
- フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。
- **取り外す：**フロアの凸部 ② からフロアマットを引いて外します。
- フロアマットを取り外します。

後付けした遮光フィルム

ウインドウの内側に遮光フィルムなどを貼り付けると、携帯電話やラジオなどの電波受信に影響を与えるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼り付けた場合は、特に電波受信への影響が懸念されます。遮光フィルムについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

エンジンルーム

ボンネット

重要な安全上の注意

⚠ 警告

解除すると、走行中にボンネットが開いて視界の妨げとなり危険です。 事故の危険性があります。

走行中にボンネットを解除しないでください。

⚠ 警告

開閉中、ボンネットが急に下がる場合があります。 ボンネットの動作範囲では、けがの危険性があります。

ボンネットの動作範囲に誰もいないことを確認して、ボンネットを開閉してください。

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。 エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ 警告

エンジンルームには作動する構成部品があります。 ラジエーターファンなどの特定の構成部品は、エンジンスイッチをオフにしても、動きつづけるか、自動的に作動を開始しします。 けがの危険性があります。

エンジンルームで作業を行わなければならない場合：

- エンジンスイッチをオフにします。
- ファンの回転範囲などの動いている部分は危険なので決して近づかないでください。
- 動いている部品に衣類が触れないようにしてください。

⚠ 警告

イグニッションシステムおよび燃料噴射システムは高電圧下で作動しています。高電圧を含んだ構成部品に接触すると、感電するおそれがあります。 けがの危険性があります。

イグニッションをオンにしたら、イグニッションシステムまたは燃料噴射システムの構成部品に決して触れないでください。

アクティブボンネット（歩行者保護）

作動原理

! 一度作動したアクティブボンネットは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で修理してください。アクティブボン

ネット機能は再度作動可能になります。アクティブボンネットによる歩行者の付加保護は元に戻ります。

ℹ アクティブボンネットシステムは特定の国でのみ作動します。AMG 車以外のすべてのモデルで利用可能です。

アクティブボンネットは、特定の状況下で歩行者のけがの危険性を軽減するシステムです。（アクティブ）ボンネットが持ち上がり、エンジンなどの固い構成部品との間隔が広がります。

アクティブボンネットが作動すると、ボンネットのヒンジ部が約 100 mm 持ち上がります。アクティブボンネットは火薬によって作動します。

ワークショップまで運転するためには、作動したアクティブボンネットをお客様ご自身でリセットしてください。リセット後、アクティブボンネットはボンネットヒンジ部のシールにかぶさった状態になり、ボンネットのヒンジは噛み合っていません。そのため、ワークショップまで走行するときは最高速度が約 130 km/h を超えないようにしてください。アクティブボンネットが作動すると、歩行者保護が制限されます。

リセット

▶ ボンネットのヒンジ（矢印部）付近に手の平を当て、アクティブボンネット ① がシールにかぶさるまで押し下げます。

ボンネットを開く

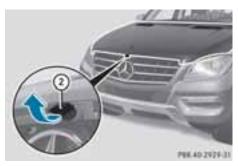
⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンケージでけがをするおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。

▶ ボンネットの解除レバー ① を引きます。
ボンネットが解除されます。

▶ 隙間に手を入れ、ボンネット固定ハンドル ② を引き上げながらボンネットを持ち上げます。

ボンネットを約 40 cm 持ち上げると、ガス封入式の支柱によりボンネットは自動的に開き、開いたまま保持されます。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。

▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに持ち上がる場合は、確実に固定されていません。再度開き、少し力を入れて閉じます。

エンジンオイル

全体的な注意事項

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

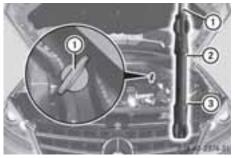
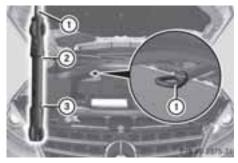
! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的にエンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車は 1000 km 当たり最大で約 0.8 L のオイルを消費します。 新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

エンジンによって、エンジンオイルレベルゲージの取り付け位置が異なる場合があります。

オイルレベルを点検する場合は、以下を確認してください。

- 車を水平な場所に停めます。
- エンジンが温まっている場合は、エンジンを停止してから約 5 分以上お待ちください。
- エンジンが始動直後など、エンジンが温まっていない場合は、測定を開始する前に約 30 分お待ちください。

オイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検する

例：ガソリンエンジン車

例：ディーゼルエンジン車

▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。

▶ オイルレベルゲージ ①を拭きます。

▶ オイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再び引き抜きます。
量が MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあるときは、オイル量は適正です。

▶ オイルレベルが MIN マーク ③ にまで減っている、またはそれより下回っている場合、エンジンオイルを約 1.0 L 追加してください。

エンジンオイルの補給

⚠ **警告**

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。
エンジンオイルが補給口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルで汚れた構成部品を清掃してください。

環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。 エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。
サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

! オイルを過剰に補給しないでください。 エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。 余分なエンジンオイルを抜き取ってください。

例：エンジンオイルキャップ

▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ エンジンオイルを補給します。
オイル量がオイルレベルゲージの MIN マーク以下のときは、約 1.0 L のエンジンオイルを補給してください。

▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。
キャップが元の場所に固定されていることを確認します。

▶ オイルレベルゲージを使用してオイル量を再度点検します。 (▷ 248 ページ)

エンジンオイルについての詳しい情報は、(▷ 304 ページ) をご覧ください。

エンジンオイルの交換時期

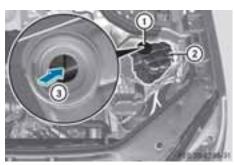
エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。 メンテナンスインジケーター表示により、標準的な交換時期が定められています。 ただし、交換時期は使用状況に左右されます。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

冷却水

冷却水量の点検

⚠ **警告**

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。 キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。 けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。 開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。 キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

▶ 車を水平な場所に停めます。

車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときにのみ冷却水の量を点検します。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にまわします。(▷ 127 ページ)

キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチを 2 回押します。 (▷ 128 ページ)

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計を確認します。

冷却水温度は約 70 ℃以下でなければなりません。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** (▷ 127 ページ) の位置にします。

▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。

水温が低いときに冷却水の液面が補給口のマーカーバー ③ の高さに達していれば、リザーブタンク ② 内の冷却水量は十分です。

温かいときに、冷却水が補給口内のマーカーバー ③から約 1.5 cm のところにあれば、リザーバータンク ② 内の冷却水は十分にあります。

▶ キャップ ① を元通りに取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。

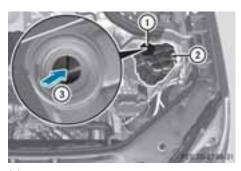
冷却水についての詳しい情報は、(▷ 305 ページ)をご覧ください。

冷却水の補給

⚠ **警告**

不凍液は可燃性の強い液体です。不凍液を取り扱う場合は、火気や裸火を近づけたり、近くで喫煙しないでください。

不凍液が高温のエンジン部品に付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。不凍液をエンジンルームにこぼさないよう注意してください。

! 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

例

冷却水リザーブタンク ② 内の液量が非常に低い場合は、車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
▶ 冷却水をマーカーバー ③ まで補給してください。
使用状況 (▷ 305 ページ) に合わせた水道水と防錆不凍液の濃度で使用します。
▶ キャップ ① を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。
▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷やします。
▶ 冷却水の量 (▷ 250 ページ) を点検し、必要であれば補給します。

冷却水の交換時

冷却水の品質は時間とともに劣化します。 整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

オーバーヒートしたとき

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。 エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。 キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。 けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。 開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。 キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに約 120 ℃ 以上の冷却水温度が表示されている。
- マルチファンクションディスプレイに 冷却水が減少 停車して エンジンを停止 というメッセージが表示されている。

- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の冷却水警告灯 [icon] が表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

エンジンがオーバーヒートした場合の、操作方法に関する詳細は (▷ 183 ページ) を参照してください。

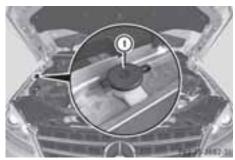
そのほかのサービスプロダクト

ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーの補給

⚠ **警告**

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。 熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

例：ウォッシャー液リザーブタンク

例：AMG 車のウォッシャー液リザーブタンク

▶ **開く：** タブを持ってキャップ ① を引き上げます。

▶ 混合しておいたウォッシャー液を補給します。

▶ **閉じる：** キャップ ① を補給口に押し付けて、固定します。

ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーのウォッシャー液リザーブタンクは共用です。

ウインドウウォッシャー液 / 凍結防止液について、詳しくは (▷ 305 ページ) をご覧ください。

ブレーキ液量

! ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルが MIN マークに下がった、あるいは下回ったことに気がついた場合は、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。 ブレーキパッド /

ライニングの厚さも点検してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

絶対にブレーキ液を補給しないでください。 ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

▶ シール② をカバー部分 ① から矢印の方向に引っ張ってください。

▶ カバー ① を前方向に持ち上げます。

▶ カバー ① を矢印の方向に引き出します。

例

ブレーキ液レベルがブレーキ液リザーブタンクの MIN マーク④と MAX マーク③のあいだにある場合、ブレーキ液レベルは正常です。

カバー ① は手順と逆の順序で交換します。 この作業中には、カバーのガイド ① がバルクヘッドの切り欠き部に確実にかみ合っていることを確認してください。

エンジンルームの概要

例

① オイルレベルゲージ

② ブレーキ液リザーブタンク

③ エンジンオイルキャップ

④ 冷却水リザーブタンク

⑤ ウォッシャー液リザーブタンク

サービス

メンテナンスインジケーター

デジタル取扱説明書には、メンテナンスインジケーター画面に関するその他の情報が記載されています。

日常の手入れ

全体的な注意事項

環境

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

自動洗車機の使用

警告

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行ってください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能が解除されます：

- けん引されるとき
- 洗車時

! 注意：

- サイドウインドウおよびスライディングルーフが完全に閉じていること
- ベンチレーション / ヒーターの送風が停止していること（OFF スイッチが押されていること）
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

! けん引装置付きの洗車機では、オートマチック車の場合シフトポジションを **N** にしてください。車両が損傷するおそれがあります。

- キーレスゴー非装備車：

  エンジンスイッチからキーを抜かないでください。エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランスミッションが自動的に **P** にシフトされ、ホイールがロックします。オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にすることによ

り、ホイールのロックを防ぐことができます。

- キーレスゴー装備車：
  エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランスミッションが自動的に **P** にシフトされ、ホイールがロックします。

以下の注意を守って、オートマチックトランスミッションが **N** の位置に入っていることを確認してください。

▶ 車両が停止中でイグニッションがオフになっていることを確認してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** (▷ 127 ページ) の位置にします。
キーレスゴー装備車の場合は、エンジンスイッチではなくキーレスゴースイッチを操作します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。

▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーの音を低減します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 洗車
- 高圧式スプレーガン
- ホイールの清掃
- 塗装面の清掃
- マットペイント塗装車の取り扱い
- ウインドウの清掃
- ワイパーブレードの清掃
- ライトの清掃
- ドアミラー方向指示灯の清掃
- センサーの清掃
- パーキングアシストリアビューカメラの清掃
- マフラーの清掃

車内の手入れ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ディスプレイの清掃
- ナイトビューアシストプラスの清掃
- 樹脂製トリムの清掃
- ステアリングとギアレバー / セレクターレバーの清掃
- ウッド / トリムストリップの清掃
- シートカバーの清掃
- シートベルトの清掃
- ルーフライニングとカーペットの清掃

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

車載品の収納場所

懐中電灯

車内には懐中電灯が装備されています。

運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

ℹ 新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。 初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

ℹ 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。 電池が切れたら交換してください。

停止表示板

停止表示板の取り外し

例：停止表示板の収納場所

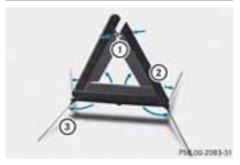
停止表示板 ① はラゲッジルームフロア下の収納スペースにあります。

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルームフロアを持ち上げます (▷ 241 ページ)。

ℹ 車両の装備によって、停止表示板 ① はラゲッジルームフロア下以外の場所にあることもあります。

▶ 停止表示板 ①を取り外します。

停止表示板の組み立て

▶ 脚 ③ を下および、側方外側に出します。

▶ 側方の反射板 ② を引き上げて三角形を作り、上部の押し込み式ビス ① を使用して上部で固定します。

救急セット

▶ テールゲートを開きます。
▶ 救急セット ① をラゲッジネットから取り出します。

ℹ 最低 1 年に 1 回、救急セットの使用期限が切れていないか確認してください。 中身が揃っているか確認し、なくなりかけたものは補充してください。

車載工具

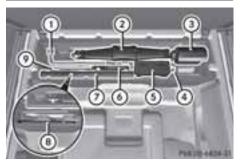
全体的な注意事項

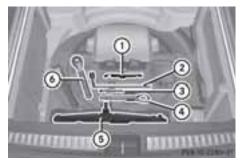
車載工具はラゲッジルームフロアボードの下に収納されています。

ℹ 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。タイヤ交換用ツールの中にはその車両専用のものも含まれています。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ラチェットレンチ
- ガイドボルト

タイヤフィット装備車

例：車載工具
① ホイールレンチ
② ジャッキ
③ タイヤシーラント充填のボトル
④ ガイドボルト
⑤ 電動エアポンプ
⑥ 折りたたみ式輪止め
⑦ 停止表示板
⑧ ラチェットレンチ
⑨ けん引フック

▶ ラゲッジルームフロアを上方に開きます (▷ 241 ページ)。
▶ タイヤフィットキット (▷ 262 ページ) を使用します。

応急用ミニスペアタイヤ装備車

例："ミニスペア"応急用スペアタイヤおよびAIR マティックサスペンション装備車

① 折りたたみ式輪止め
② ホイールレンチ
③ ガイドボルト
④ けん引フック
⑤ ジャッキ
⑥ ラチェットレンチ

▶ ラゲッジルームフロアを上方に開きます (▷ 241 ページ)。
▶ 応急用ミニスペアタイヤ (▷ 298 ページ) を取り外します 。

タイヤのパンク

車両の準備

車両によって、以下の装備があります。

- MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）
  MOExtended タイヤ装備車の場合、車両の準備作業は必要ありません。
- タイヤフィット
- 応急用スペアタイヤ（一部の国のみ）

ホイールの交換 / 装着に関する情報 (▷ 285 ページ)

▶ 走行中にタイヤがパンクしたときは、交通の妨げにならず、地面がかたく滑らない水平な場所に停車します。
▶ 非常点滅灯を点滅させます。
▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 140 ページ)
▶ なるべく前輪を直進位置にしてください。
▶ ハイウェイレベルが選択されていることを確認してください(▷ 157 ページ)。
▶ エンジンを停止します。
▶ **キーレスゴー非装備車：** エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ **キーレスゴー装備車：** 運転席ドアを開きます。
マルチファンクションディスプレイには、0 が表示されます。 キーを抜いたときと同様です。
▶ **キーレスゴー装備車：** エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します (▷ 128 ページ)。
▶ 乗員を全員車から降ろします。そうするときは、彼らが危険にさらされないことを確認してください。
▶ タイヤ交換をするときは、危険な範囲に誰も近付いていないことを確認してください。作業者以外は、フェンスなどで区切られた安全な場所に避難してください。
▶ 運転者も車から降ります。降車時は周囲の交通状況に注意してください。
▶ 運転席ドアを閉じます。
▶ 適切な距離を離して停止表示板を置きます (▷ 258 ページ)。法規を遵守してください。
▶ 重い荷物を降ろします。

ℹ 高速道路や自動車専用道路で駐停車する場合は、周囲に注意を促すため、停

止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

ℹ イグニッションがオフになっていても、12V 電源ソケットのみを使用して、タイヤ充填コンプレッサーを操作します (▷ 242 ページ)。

緊急カットオフにより、バッテリーの電圧が過度に降下しないようにします。バッテリーの電圧が過度に低い場合、ソケットの電源は自動的に停止します。これにより、エンジンを始動するための十分な電力が確保されます。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）

全体的な注意事項

MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）で、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて喪失しても、車両の走行を続けることができます。該当のタイヤの損傷がどこにあるかわからない状態です。

タイヤウォールの MOExtended マークで MOExtended タイヤを識別できます。このマークはタイヤサイズ表示、耐荷重性能 、スピードインデックスの横に表示されています。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧減少警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムと必ず組み合わせて使用してください。

マルチファンクションディスプレイに空気圧警告メッセージが表示された場合：

- ディスプレイメッセージの指示に従ってください。(▷ 183 ページ)
- タイヤに損傷があるか確認してください。
- 運転する際は、以下の注意事項を遵守してください。

最長走行距離は、車両に部分的に積載しているときは約 80 km、車両にいっぱい積載をしているときは約 30 km です。

車両の荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 走行速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況/操作によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージが、マルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

最高速度が約 80 km/h を超えないようにしてください。

ℹ 1 本または 4 本全てのタイヤを交換するときは、必ず以下のものだけを使用してください。

- 車両に指定されたタイヤサイズ、
- 「MOExtended」マーク付きタイヤ

タイヤがパンクし、MOExtended タイヤと交換できない場合は、一時的な措置として標準タイヤを使用してください。必ず適正なサイズと適正な種類（サマータイヤまたはウィンタータイヤ）を使用してください。

ℹ MOExtended タイヤ装備車には、出荷時はタイヤフィットキットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エマージェンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合は、エマージェンシーモードでの運転は中止してください。

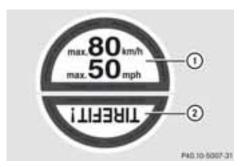
- 大きい異音が聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき
- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマージェンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

タイヤフィット

タイヤフィットの使用

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

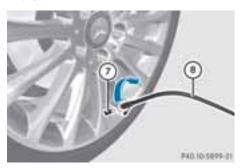
タイヤフィットを使用して、4 mm 以下のパンク、特にタイヤのトレッドのものをふさぐことができます。タイヤフィットは、外気温度が約 - 20 ℃に下がるまで使用できます。

タイヤフィットステッカー、2 部分

▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。

▶ ラゲッジルームフロア下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します(▷ 259 ページ)。

▶ タイヤフィットステッカーの部分 ① を運転者の視界内に貼ります。

▶ タイヤフィットステッカーの部分 ② を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。

- ケーブル付き電源プラグ④およびホース ⑤ をハウジングから取り出します。
- ホース ⑤ をタイヤフィットのボトル①のフランジ ⑥ にしっかり取り付けます。
- タイヤフィットのボトル①を頭を下にして電動エアポンプのリセス②にはめます。

- パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からキャップを取り外します。
- タイヤフィットのホース ⑧ をパンクしたタイヤのバルブ ⑦ にねじ込みます。
- プラグ④を車両の 12 V ソケット (▷ 242 ページ) に差し込みます。
- エンジンスイッチを **1** の位置にまわします。 (▷ 127 ページ)
- 電動エアポンプの電源スイッチ③を **I** の位置にします。
  電動エアポンプが作動し始めます。応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

ℹ 最初に、タイヤにタイヤフィットが送り込まれます。空気圧が一時的に約 500 kPa (5 bar/73 psi) まで上がることがあります。

この期間の間は、タイヤ充填コンプレッサーをオフにしないでください。

- タイヤ充填コンプレッサーを約 5 分間作動させます。その後にタイヤは約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上の圧力になっていなければなりません。

約 5 分後、タイヤ空気圧が約 180 kPa (1.8bar/26 psi) に達している場合：(▷ 264 ページ)

約 5 分後、タイヤ空気圧が約 180 kPa (1.8bar/26 psi) に達していない場合：(▷ 263 ページ)

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。フィルム状になり、剥がすことができます。

衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

不適正なタイヤ空気圧

5 分後に空気圧が約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達しない場合

- 電動エアポンプを停止します。
- パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ごく低速で車を約 10 m 前進または後退させます。
- 再度、タイヤに空気を注入します。
  最大で 5 分後にタイヤ空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上に達していなければなりません。

⚠ **警告**

規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、タイヤフィットによる タイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

それ以上走行を続けないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

適正なタイヤ空気圧

⚠ **警告**

タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。

そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、指定された最高速度を超過しないでください。

! 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた専用袋に収納してください。

環境保護に関する注意

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

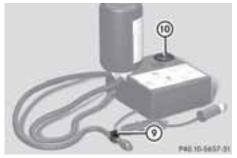
約 5 分後、タイヤ空気圧が約 180 kPa (1.8 bar/26 psi)に達している場合：

- 電動エアポンプを停止します。
- パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。
- **ただちに発進します。**
  タイヤフィットで修理したタイヤの最高速度は 80 km/h です。 タイヤフィットステッカーの上部を、メーターパネルの運転者の視界内に貼ってください。
- 約 10 分間走行した後で車を停め、電動エアポンプを取り付けてタイヤ空気圧を点検してください。
  タイヤ空気圧は 130 kPa（1.3 bar/19 psi）以上である必要があります。

⚠ **警告**

短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。 タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎることにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。 事発生の危険性があります。

それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

- タイヤ空気圧がまだ 130 kPa (1.3 bar/19 psi)以上の場合は調整します（値は燃料給油口をご覧ください)。
- **タイヤ空気圧を上げる：** 電動エアポンプのスイッチを入れます。

⑨ 空気圧解放スイッチ

⑩ 空気圧ゲージ

- **タイヤ空気圧を下げる：** 充填ホースの空気圧解放スイッチ ⑨ を押します。

▶ タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。
▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。
▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤフィットのボトルを交換してください。
▶ タイヤフィットのボトルは４年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意

取り外し、または取り付けなどのバッテリーに関する作業は、専門的な知識と特別な工具の使用が必要です。 したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。ABS(アンチロック ブレーキング・システム)または ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)のような走行安全装備の故障の原因になります。

- ABS が故障している場合は、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ブレーキ時のステアリング操縦性が制限され制動距離が長くなるおそれがあります。 事故発生の危険性があります。
- ESP®が故障している場合は、横滑りしたとき、または車輪が空転したときに車両を安定させることができないので、事故発生の危険性があります。

したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリーを充電するとき、ならびにジャンプスタート時に高い可燃性の混合ガスが発生します。

お客様もバッテリーも静電気に帯電していないことを常に確認してください。例えば以下のような場合に静電気帯電の蓄積があります。

- 合成繊維で出来た衣服を着用することにより
- 衣服とシートのあいだの摩擦のため
- カーペットまたは他の合成物質を横切ってバッテリーを押す、または引く場合
- バッテリーを布で拭く場合

⚠ **警告**

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。

- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。 万が一、例外的な状況では、必ずご自身でバッテリーの接続を外す必要があり、以下のことを遵守してください。

- エンジンを切って、キーを外します。 キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションがオフになっていることを確認します。 メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。 たとえば、オルタネーターのような電子部品を損傷するおそれがあります。
- まずマイナス端子をはずして、次にプラス端子をはずします。 端子を入れ替えないでください。 車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- バッテリーの接続を切った後、トランスミッションは P の位置でロックされます。車両は走り出さないように固定されます。 車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーをしっかり取り付けてください。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。

警告

バッテリーを取り扱うときは、火気や直火、タバコなどを近づけないでください。 火花が発生しないように注意してください。

バッテリー液は腐食性があります。 皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流してください。 応急処置の後、医師の診察を受けてください。

保護眼鏡を着用してください。

子供を近づけないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

安全のため、バッテリーは必ず純正品を使用してください。 これらのバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員が酸で火傷をする危険性を低減します。

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと、徐々に放電する可能性があります。 そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。 純正バッテリー充電器を使用してバッテリーを充電することもできます。 詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻繁にバッテリー液量や充電状態を点検してください。 車を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ 駐車時に電気装備を必要としないときは、キーを抜いてください。 エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、電力をわずかに消費します。

バッテリーの充電

⚠ **警告**

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ **警告**

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

❗ 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。

❗ バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

メルセデス・ベンツが承認しているバッテリー充電器以外では、車両に装着されたままのバッテリーを決して充電しないでください。 メルセデス・ベンツ車両用に特別に適合し、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器ユニットはアクセサリーとして入手できます。装着された位置にあるバッテリーの充電が許可されています。 情報および入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 バッテリー充電器の別冊の取扱説明書に従ってバッテリーを充電してください。

ジャンプスタートターミナルは、エンジンルーム (▷ 269 ページ)内にあります。

バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

▶ ボンネットを開きます。 (▷ 247 ページ)

▶ ジャンプスタートにより救援車のバッテリーを接続したときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続してください。 (▷ 269 ページ)

ジャンプスタート

ジャンプスタートには、エンジンルームのプラス端子とアース端子で構成されているジャンプスタートターミナルのみを使用してください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

⚠ 警告

未燃焼燃料が排気システムに充満して発火するおそれがあります。 火災のおそれがあります。 エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

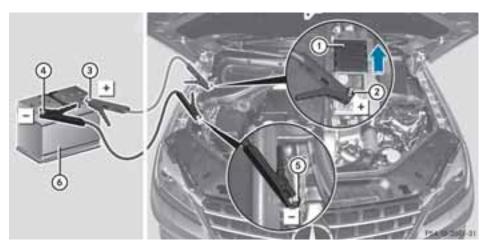
! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。 未燃焼燃料によって触媒が損傷するおそれがあります。

車両の始動のために急速充電機器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電したときは、ブースターケーブルを使用して他車や他のバッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に注意してください。

• バッテリーが手の届きにくい位置に設置されている車もあります。他車のバッテリーに手が届かないときは、他のバッテリーまたはジャンプスタート機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
• エンジンと排気システムが冷えていない場合は、車両のジャンプスタートは実行できません。
• バッテリー液が凍結しているときはジャンプスタートはできません。バッテリー液を解凍してから行なってください。
• ジャンプスタートは、自車と同じ 12 V バッテリーを搭載した救援車に依頼してください。
• 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。
• バッテリーが完全に放電した場合は、ケーブルの接続を完了してすぐにエンジン始動を試みるのでなく、数分置いてから始動操作を行なってください。その間、バッテリーは十分な電力を溜めることができます。
• 自車と救援車が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

• ブースターケーブルが損傷していないこと。
• ブースターケーブルをバッテリーに接続している間、クランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触しないこと。
• ブースターケーブルが V ベルトプーリーやファンなどの部品に巻き込まれないようにすること。エンジンが始動し回転し始めると、これらの部品は動きます。

▶ パーキングブレーキをかけ、車両を停止します。
▶ シフトポジションを P にしてください。
▶ キーをまわしてイグニッション位置を 0 にした後、キーを抜き取ります(▷ 127 ページ)。キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションをオフにします(▷ 128 ページ)。メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。
▶ 電気装備（ラジオ、エアコンディショナーなど）をすべて停止します。
▶ ボンネット (▷ 247 ページ) を開きます。

位置番号 ⑥ は、救援車のバッテリーまたはジャンプスタート装置を示します。

- プラス端子 ② のカバー ① を矢印の方向に動かして開きます。
- ブースターケーブルを使用して、車両のプラス端子 ② を救援車のバッテリー ⑥ のプラス端子 ③ に接続します。その際に、必ず最初に自車のプラス端子 ② から開始します。
- 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
- ブースターケーブルを救援車のバッテリー ⑥ に接続します。次に、救援車のバッテリー ⑥ のマイナス端子 ④ を自車のバッテリーのアース端子 ⑤ に接続します。
- エンジンを始動してください。
- ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させてください。
- 最初にブースターケーブルをアースポイント ⑤ とマイナス端子 ④から、次にプラスクランプ ②とプラス端子 ③ から取り外します。その際、いずれも自車の端子から開始してください。
- ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ② のカバー ① を閉じます。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ℹ ジャンプスタートでエンジンがかかっても、車両は正常な作動状態ではありません。

ℹ ジャンプブースターケーブルおよびジャンプスタートについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引およびけん引による始動

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

安全性に関連する機能は以下の場合に制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンが作動しないとき
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作により大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、けん引バーを使用してください。けん引する前に、ステアリングが自由に動くことを確認してください。

⚠ **警告**

自車の許容総重量より重い車をけん引またはけん引始動しようとすると、以下の状態が発生するおそれがあります。

- けん引フックが外れる。
- トレーラーを連結した車両が横転する。

事故が起こるおそれがあります。

他車をけん引またはけん引始動するときは、自車の許容総重量より軽い車でなければなりません。

⚠ **警告**

ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。 けん引で車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

! パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが故障している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおたずねください。

! けん引ロープやロッドは、けん引フック以外にはかけないでください。 車体が損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは 5m 以内である必要があります。その中間に白い布(30x30cm)を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

! 車体の損傷を防ぐために、車両を運搬する際は、けん引フックを使用しないでください。 可能であれば、クレーンを使用して、車両を回収してください。

! けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

! キーレスゴー装備車のけん引を行なう時は、エンジンスイッチを使用せずにキーを操作します。オートマチック車の場合は、運転席ドアまたは助手席ドアを開くとシフトポジションが **P** になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! ディファレンシャルロック装備車両：ディファレンシャルロックがオートマチックモードであることを確認します。

けん引するときは、ディファレンシャルロックがオンになっていてはいけません。さもないと、トランスミッションが損傷することがあります。

! 車両は最長で約 50 km までけん引できます。 けん引する際の速度は、約 30 km/h を超えないようにしてください。

距離が約 50 km を超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

! お客様の車両より重い車両のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。

けん引を行なうときは、各国の法規を遵守してください。

けん引はできるだけ避け、車両を搬送してください。

車両がトランスミッションに損傷を受けた場合は、運搬車またはトレーラーで運搬してください。

オートマチック車をけん引してもらうときは、シフトポジションを **N** にします。

バッテリーが接続されていて、十分に充電されていることを確認してください。そうしないと、以下の問題が起こります。

- イグニッション位置を **2** にすることができなくなる
- パーキングブレーキを解除できない
- オートマチック車の場合、シフトポジションを **N** にすることができなくなる

ⓘ 車速感応ドアロック (▷ 181 ページ) を解除してください。さもないと、車両を押したり、またはけん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

車両をけん引する前に、けん引防止機能 (▷ 77 ページ) を解除してください。

けん引フックの取り付け / 取り外し

けん引フックの取り付け

例：けん引フック取り付け部のカバー

けん引フックのブラケットは、バンパーに付いています。 前後のバンパーのカバーの下にあります。

▶ 車載工具キットからけん引フックを取り出します。 (▷ 259 ページ)

▶ **フロントのカバーを開く**：カバー①のマークを矢印の方向に内側に押します。

▶ **リアのカバーを開く**：平らでとがっていないものを切り口に挿入し、カバー②をバンパーから引き出します。

▶ カバー①または②を開口部から取り外します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、時計回りに止まるまで締め込みます。

けん引フックの取り外し

▶ けん引フックを緩めて取り外します。

▶ カバー①または②をバンパーに取り付け、固定するまで押します。

▶ けん引フックを車載工具に収納します。

4 輪を接地した状態でけん引する

けん引を行なうときは、以下の安全注意事項を守ってください。(▷ 272 ページ)

運転席または助手席ドアを開いたとき、またはエンジンスイッチからキーを取り外したときは、オートマチックトランスミッションは自動的に **P** の位置にシフトします。

車両をけん引するときにオートマチックトランスミッションを **N** の位置に保つためには、以下の点に従わなければなりません。

▶ 停車していることを確認し、イグニッション位置を **0** にします。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

キーレスゴー装備車の場合は、エンジンスイッチ(▷ 128 ページ)ではなくキーを操作します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。

▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。(▷ 106 ページ)

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引してもらうときは、方向指示を行なうために、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。このときは、希望の方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、非常点滅灯が再度点滅し始めます。

車両を運搬する

❗ 車両運搬車に積載して固定するときは、固定ロープをアクスルやステアリング部品などにかけずに、ホイールやホイールリムにかけてください。 車体が損傷するおそれがあります。

けん引フックやトレーラーヒッチは、車両運搬車に車両を積載して運ぶときにも使用できます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。

車両を積載したら、以下の点に注意してください。

▶ 車両が動き出すのを防止するため、パーキングブレーキを効かせてください。

▶ オートマチックトランスミッショのシフトポジションを **P** にします。

▶ キーをまわしてイグニッションをポジション **0** にした後、キーを抜き取ります。

▶ 車両を固定します。

4MATIC 車に関する情報

❗ 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

車両のトランスミッションが損傷したり、フロントまたはリアアクスルが損傷した場合は、運搬車またはトレーラーで運搬してください。

電気装備が損傷したとき

バッテリーに不具合がある場合は、オートマチックトランスミッションは **P** の位置でロックされます。オートマチックトランスミッションを **N** の位置にシフトするには、ジャンプスタート時と同じ方法で 車両の電気装備に電力を供給しなければなりません(▷ 269 ページ)。

運搬車またはトレーラーで車両を運搬してください。

スタックしたときの脱出方法

! はまった車両を復帰させるときは、車両を急に引いたり、角度をつけて引いたりしないでください。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

柔らかい、または泥の地面に駆動輪がはまった場合、車両に荷物を積んでいる場合は特に、細心の注意で車両を引っ張り出してください。

トレーラーを取り付けたままの車両を引っ張らないでください。

立ち往生したときは、可能であれば自分で作ったわだちを使用して、車両を後方から引っ張ってください。

けん引による始動（エンジンエマージェンシースタート）

! オートマチック車はけん引始動しないでください。 オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

"ジャンプスタート"に関する情報は (▷ 269 ページ) にあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ヒューズは必ずメルセデス・ベンツの車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。 切れているヒューズを修理したり、つなごうとしたりしないでください。 適合しないヒューズを使用したり、切れたヒューズを修理したりつなごうとすると、ヒューズに過負荷がかかり、火災の原因になります。 ヒューズ切れの原因の特定や修理は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! エンジンルーム内およびリアシート下のヒューズボックスには、"S"マークのあるヒューズのみを使用してください。さもなければ、部品またはシステムを損傷するおそれがあります。

車両に装備されているヒューズは、異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れると、回路上のすべての構成部品とそれらの機能は作動しなくなります。

切れたヒューズを交換するときは、ヒューズの色と数字で確認し、必ず同じ規定容量のヒューズと交換してください。 ヒューズの電流値は、ヒューズ一覧に記載されています。

新しいヒューズに交換してもすぐに切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因をたどり、修理を行なってください。

ヒューズを交換する前に

▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 140 ページ)

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、キーを抜き取ります。 (▷ 127 ページ) キーレスゴー装備車では、イグニッションがオフであることを確認します (▷ 128 ページ)。
メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

• ダッシュボードの助手席側のヒューズボックス
• エンジンルーム内右側（進行方向）のヒューズボックス
• リアシート下のヒューズボックス

ヒューズ配置表は、リアシート下のヒューズボックスにあります(▷ 277 ページ)。

ダッシュボードのヒューズボックス

! ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。 ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ **開く：** カバー ① を矢印の方向に外側に引いて、取り外します。

▶ **閉じる：** カバー ① をダッシュボードの前面に差し込みます。

▶ 固定されるまで、カバー ① を内側に押します。

エンジンルーム内のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ ボンネットを開きます。

▶ 乾布で、カバーに付着した水分を拭きとります。

▶ **開く：** クランプ ② を開きます。

▶ カバー ① を矢印の方向に上方に起し、取り外します。

▶ **閉じる：** シールがカバー ① の正しい位置にあるかどうかを点検してください。

▶ カバー ① をヒューズボックスの側方で固定部に差し込みます。

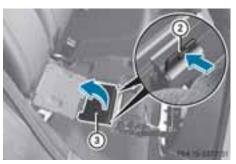
- カバー①を下方に倒し、クランプ②を閉じます。
- ボンネットを確実に閉じてください。

リアベンチシート下のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じるときは、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。ヒューズボックス内に水分やゴミが入るとヒューズの作動に障害が生じたり、カバーがリアシートで損傷するおそれがあります。

- 右側リアシートを前方に倒します。(▷ 234 ページ)

- **開く：**カーペット①を矢印の方向にめくり上げます。

- クランプ②を矢印の方向に押して外します。
- カバー③を矢印の方向に持ち上げて取り外します。

ℹ ヒューズ配置表はカバー③の下にあります。

- **閉じる：カバー**③をヒューズボックス側面のリテーナーに差し込みます。
- クランプ②がカチッとはまるまでカバー③を押し上げます。
- 右側リアシートを後方に倒します。(▷ 234 ページ)

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品の仕様に適合するホイールやタイヤと必ず交換してください。

ホイールを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- タイプ

タイヤを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- メーカー
- タイプ

⚠ **警告**

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。 事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラットタイヤ：

- MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツによりお客様の車両に承認されていない、または正しく使用されていないアクセサリーは操作安全性を損なうことがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおとずれ、以下のことをご質問ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

車両のホイールとタイヤのサイズおよび種類に関する情報は"ホイール／タイヤの組み合わせ"(▷ 291 ページ) に記載されています。

車両のタイヤ空気圧に関する情報は、以下にあります。

- 燃料給油口にあるタイヤ空気圧ラベル
- "タイヤ空気圧"

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。ホイールスペーサブラケットまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。このような改造を行なった場合は、不具合が生じても保証の適用外になります。

ℹ タイヤとホイールについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

操作

走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

走行中は、振動や騒音が発生したり、ステアリングが片側に取られるなど、車両操縦性に変化が現れていないか注意してください。このような症状の原因には、タイヤやホイールの損傷が考えられます。タイヤに異常を感じたら、速度を落として慎重に運転してください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールに損傷がないか点検してください。タイヤが損傷すると、車両操縦性が損なわれる原因になります。損傷が何も認められない場合、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤおよびホイールの点検を受けてください。

車両を駐車するときは、タイヤが縁石や障害物により変形していないことを確認してください。また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。そうしないと、タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

タイヤとホイールの定期点検

⚠ **警告**

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

タイヤとホイールの定期点検は、少なくとも月に 1 度、またオフロードや凹凸路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないか確認してください。ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの裂け目
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤのトレッドの深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください(▷ 282 ページ)。必要であれば、タイヤ表面の内側を点検するために、前輪をフルロックまでまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニターシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください (▷ 283 ページ)。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください (▷ 297 ページ)。

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 走行スタイル
- タイヤ空気圧
- タイヤ総走行距離

タイヤのトレッド

⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。 このようなタイヤは水を排出することができなくなり、 濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

- タイヤとホイールは、4 輪とも同一種類、同一銘柄のものを装着してください。

  例外：パンクした場合は、違う種類、違う銘柄の使用が認められています。MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）(▷ 261 ページ) を遵守してください。
- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新品のタイヤでは最初の約 100 km では適度な速度で走行してください。この距離を走行後にのみ、最高の性能に達します。
- タイヤトレッド部の溝の深さが不足したタイヤで走行しないでください。濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します（ハイドロプレーニング現象）。
- 摩耗の程度に関わらず、6 年以上経過したタイヤは新品と交換してください。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください (▷ 297 ページ)。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）

MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）で、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて喪失しても、車両の走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧減少警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムと必ず組み合わせ、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で専用の点検を受けたタイヤのみを使用してください。

パンクした MOExtended タイヤで走行する時の注意事項 (▷ 261 ページ)

ℹ MOExtended タイヤ装備車には、タイヤフィットを標準装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

寒冷時の取り扱い

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがあります。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがあります。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがあります。

事故の危険性があります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下の場合はスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間に 1 回
- 荷重が変化した時
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行など、使用条件が変わった時

必要に応じて、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ **警告**

適切でないアクセサリーをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

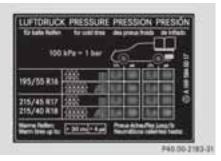
環境保護に関する注意

少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

燃料給油口裏側には、走行状況に応じた空気圧が記載されたタイヤ空気圧ラベルが貼られています。

応急用スペアタイヤでの操作(▷ 297 ページ).

燃料給油口の裏側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。 これらは、さまざまな乗員数および積載量として表に定義されています。 実際の座席数は異なる場合があります。詳しくは、車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は車両に承認されているすべてのタイヤに適用されます。

タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報

は、そのタイヤサイズのみに有効となります。

タイヤ空気圧を点検するには、適切な空気圧ゲージを使用してください。 タイヤの外観を点検しても空気圧を正しく判断することはできません。

タイヤ空気圧の調整は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。

以下のときは、タイヤの温度が低い状態です。

- 車両に直射日光が当たらない状態で最低約 3 時間駐車した場合、および
- 約 1.6 km 以上、走行しなかった場合

周辺温度、走行速度およびタイヤにかかる荷重に応じて、タイヤ温度およびタイヤ空気圧は 10 ℃ ごとに、約 10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) 変化します。 温まっているタイヤの空気圧を点検する際には、このことを考慮に入れてください。そのときの使用条件に比べてタイヤ空気圧が非常に低すぎるときだけ空気圧を修正してください。

空気圧が適正でないタイヤで走行すると、以下のような状態になります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤが損傷を受けやすくなります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響をおよぼします（ハイドロプレーニング現象など）。

ℹ 低負荷荷時の空気圧は、快適な乗り心地を得るために必要な空気圧の下限値を示しています。

ただし、高負荷時の空気圧に調整することもできます。 これらは空気圧許容値であり、車両の走行安全性に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

全体的な注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、走行中に 4 輪すべてのホイール回転速度を感知することによりタイヤ空気圧をモニターします。システムは、タイヤ空気圧の著しい低下を感知することができます。タイヤ空気圧の低下にともないホイールの回転速度が変化すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

マルチファンクションディスプレイの メンテナンス メニューに表示されるタイヤ空気圧警告システム オン OK ボタンで再始動でタイヤ空気圧警告を認識することができます。ディスプレイメッセージの詳細は、"タイヤ空気圧警告システムの再起動 " (▷ 285 ページ)をご覧ください。

重要な安全上の注意

タイヤ空気圧警告システムは、不適切なタイヤ空気圧の設定には警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧に関する注意を遵守してください (▷ 283 ページ)。

タイヤ空気圧警告は、タイヤ空気圧点検を定期的に行うものではありません。タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。

タイヤ空気圧モニターは、タイヤに異物が刺さった場合など急激に空気圧が低下した場合は、警告を行なうことができません。空気圧が突然低下した場合、ブレーキを慎重にかけて車両を停止します。急激なステアリング操作をしないようにしてください。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況では正常に作動しなくなったり、反応が遅れることがあります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 積雪路や凍結路を走行しているとき

- 砂地や砂利道を走行しているとき
- スポーティ走行時（高速コーナリング、急加速など）
- 大型または超重量級のトレーラーをけん引しているとき
- 重い荷物を車内やルーフに積載しているとき

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のような作業を行ったときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤやホイールを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

▶ 再始動する前に、タイヤ空気圧が作動状況に対応して、4 本のタイヤすべてで適正に設定されていることを確認してください。指定タイヤ空気圧は燃料給油口のラベルに記載されています。
タイヤ空気圧警告システムは、適切なタイヤ空気圧に設定したときのみ信頼性のある警告を行なうことができます。不適切なタイヤ空気圧に設定されている場合は、これらの不適切な値がモニターされます。

▶ タイヤ空気圧に記載されている注意事項を守ってください。（▷ 283 ページ）

▶ エンジンスイッチのキーが 2 の位置（▷ 127 ページ）にあることを確認します。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、タイヤ空気圧を選択します。

▶ OK スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧 警告システム オン OK ボタンで再始動 と表示されます。

再起動を確定するには、以下の操作を行なってください。

▶ OK スイッチを押します。
タイヤ空気圧 正常ですか? というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、はいを選択します。

▶ OK スイッチを押す。
マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧 警告システム 再始動しました と表示されます。
測定プロセスが終了すると、タイヤ空気圧警告システムが 4 輪すべてのタイヤ空気圧のモニターします。

再起動をキャンセルするには、以下の操作を行なってください。

▶ ⮌ スイッチを押します。

または

▶ タイヤ空気圧 正常ですか? というメッセージが表示されたら、▲ または ▼ スイッチを使用して キャンセル を選択します。

▶ OK スイッチを押す。
前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧の値が引き続きモニターされます。

タイヤの交換

タイヤのパンク

タイヤがパンクしたときの対処方法に関する情報は、"万一のとき"(▷ 260 ペー

ジ)に記載されています。タイヤがパンクしたときに MOExtended タイヤで走行する際の情報は、"万一のとき"のセクションをご覧ください (▷ 261 ページ)。

応急用スペアタイヤ装備車：タイヤがパンクした場合は、"タイヤの取り付け" (▷ 287 ページ) の記載にしたがって応急用スペアタイヤを装着してください。

タイヤローテーション

⚠ **警告**

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。 事故の危険性があります。

ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントおよびリアのホイールを入れ替えると、一般道での使用許可が無効になることがあります。

"タイヤの取り付け"(▷ 287 ページ)の説明および安全上の注意を遵守してください。

タイヤは、走行状況によって前輪と後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起こします。 これを防止するため、タイヤが摩耗し始めたら早めにタイヤローテーションをしてください。 一般的に、前輪はショルダー部の摩耗が起こりやすく、後輪ではセンター部の摩耗が起こりやすい傾向があります。

フロントとリアの車輪が同じサイズの車両は、タイヤの摩耗具合に応じて約 5000 ～ 10,000 km 毎に車輪を入れ替えてください。 タイヤの回転方向は変えないでください。

タイヤを入れ替えるときは、ホイールの接触面およびブレーキディスクを十分に清掃してください。 必要であれば空気圧を点検し、タイヤ空気圧警告システムを再起動します。

タイヤの回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。 回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

タイヤの保管

タイヤは、乾燥した冷暗所に保管してください。また、 タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

ホイールの清掃

⚠ **警告**

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用してしないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

タイヤの取り付け

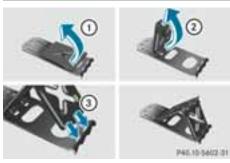
車両の準備

- **応急用スペアタイヤ装備車：**パンクした際に応急用スペアタイヤを装着するときは、"タイヤのパンク" (▷ 260 ページ) の車両の準備にある追加の注意事項を遵守してください。
- 固く、滑らない水平な地面に車両を停車します。
- 重い荷物を降ろします。
- パーキングブレーキを手動で作動させてください。
- ステアリングを操作して、前輪を直進位置にします。
- シフトポジションを P にします。
- エンジンを停止します。
- **キーレスゴー非装備車：**エンジンスイッチからキーを抜きます。
- **キーレスゴー装備車：**運転席ドアを開きます。
  マルチファンクションディスプレイには、キーを抜いたときと同様に、0 が表示されています。
- **キーレスゴー装備車：** エンジンスイッチからスタート/ストップボタンを取り外します。 (▷ 128 ページ)
- 車両装備に含まれている場合は、車両からタイヤ交換工具キットを取り出します。
- 作業中に車が動き出すのを防ぐため、車を固定します。

ℹ 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についての詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換用工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

車両が動き出さないように固定する

車両に輪止めが装備されている場合、輪止めはタイヤ交換工具キットの中に収納されています。 (▷ 259 ページ)

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

- 両側のプレートを上方に起こします ①。
- 下側のプレートを引き出します ②。
- 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます③。

水平な場所で車両に輪止めをする

▶ **水平な場所：** 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、輪止めまたは適切な物を挟みます。

緩い下り坂で車両に輪止めをする

▶ **緩い下り坂：** 前輪と後輪の前方に輪止めまたは適切な物を挟みます。

ジャッキアップ

⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。 負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

! "ミニスペア"応急用スペアタイヤ 装備の AMG 車： "ミニスペア"応急用スペアタイヤは**リアアクスル** にのみ使用してください。"ミニスペア"応急用スペアタイヤ をフロントアクスルに装着すると、ブレーキシステムが損傷するおそれがあります。

フロントアクスルのタイヤに不具合がある場合は、まずリアアクスルの損傷していない車輪を"ミニスペア"応急用スペアタイヤ と交換しなければなりません。フロントアクスルの不具合のある車輪はリアアクスルの損傷していない車輪と交換することができます。

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ の使用説明ラベルを遵守してください。

車両をジャッキアップするときは、以下のことを必ずお守りください。

- 車両をジャッキアップするときは、メルセデス・ベンツ純正の車両専用ジャッキを必ず使用してください。ジャッキを正しく使用しないと、車両をジャッキアップしている間に倒れることがあります。
- ジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的に車両をジャッキアップするためだけに設計されています。 車両の下回りのメンテナンス作業を行なう目的には適していません。
- 上り坂や下り坂でのタイヤ交換は行なわないでください。
- 車両をジャッキアップする前にパーキングブレーキをかけて輪止めをし、車両が動き出さないように固定してください。 車両をジャッキアップしている間は絶対にパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、固く平らで滑らない地面の上に設置してください。 柔らかい地面の上では、大型の耐荷重マットを使用してください。 滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下に木片などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキの高さ制限による耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との距離が 3 cm を超えていないことを確認してください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に手または足を入れないでください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に横たわらないでください。
- ジャッキアップした状態では絶対にエンジンを始動しないでください。

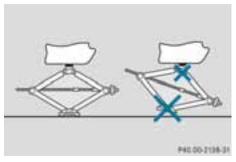
- ジャッキアップしたときは絶対にドアやテールゲートを開閉しないでください。
- ジャッキアップした状態で車両に人が乗っていないことを確認してください。

▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換するタイヤのホイールボルトを約 1 回転緩めます。 この時点では、ホイールボルトを完全に緩めません。

ジャッキポイントは、前輪のすぐ後ろと、後輪のすぐ前にあります（矢印）。

▶ 車載工具からラチェットレンチを取り出して、**AUF** の文字が見えるようにジャッキの六角ナットの上に置きます。

▶ ジャッキ ③ をジャッキポイント ② の位置に合わせます。
ジャッキの中央部分が対象となるジャッキポイントの開口部に挿入されていなければなりません。

例

▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下にくるように設置してください。

▶ ジャッキ ③ がジャッキポイント ② に完全にはまり、ジャッキの底面が地面に均一に接地するまでラチェットレンチ ④ をまわします。

▶ タイヤが地面から最大 3cm 上がるまでラチェットレンチ ④ をまわします。

タイヤの取り外し

! 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ ホイールボルトのかわりにネジ山にガイドボルト ① をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを完全に外します。

▶ タイヤを取り外します。

新しいタイヤの取り付け

⚠ **警告**

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。 それ以上は走行を続けないでください。

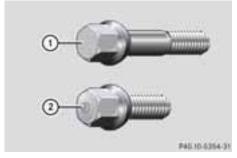
⚠ **警告**

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"タイヤ交換" (▷ 286 ページ) にある説明や安全上の注意に常に注意を払ってください。

ホイールボルトは、必ずホイールと車両に適合した製品を使用してください。 安全のため、ホイールボルトは純正品または承認されている製品を使用することをお勧めします。

! "ミニスペア"応急用スペアタイヤ を装着するときは、必ずホイールボルト ② を使用してください。"ミニスペア"応急用スペアタイヤを装着するときに他のホイールボルトを使用すると、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

① 出荷時に供給されているすべてのホイール用のホイールボルト

② "ミニスペア"応急用スペアタイヤ 用のホイールボルト

▶ ホイールおよびハブの接合面の汚れを拭き取ります。

▶ 装着するホイールをガイドボルトにスライドさせて押し込みます。

- 4 本のホイールボルトを取り付けて、手で締めます。
- ガイドボルトを取り外します。
- 最後のホイールボルトを取り付けて、手で締めます。

ジャッキダウン

⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。

- AB の文字が見えるようにジャッキの六角ナットにラチェットレンチを置きます。
- 車両が再度しっかりと接地するまでラチェットレンチをまわします。
- ジャッキを横に置きます。
- 示されている順番（① ～ ⑤）のように対角に、ホイールボルトを均一に締め付けます。 締め付けトルクは **150 Nm** でなければなりません。
- ジャッキをまわして元の状態に戻します。
- ジャッキと残りのタイヤ交換工具をラゲッジルームフロアの下の収納スペースに収納します。
- 新しく取り付けたタイヤの空気圧を点検し、点検結果に応じて調整します。

  推奨タイヤ空気圧を遵守してください(▷ 283 ページ)。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABS や ESP® などのコントロールシステムに適応しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended(ランフラットタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original(特定の AMG タイヤ)

ランフラットタイヤ(MOExtended)は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・

ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。 中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。 走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越えることが増加するので、ホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

下記のタイヤ一覧表にある略号

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油フラップの内側にあります。 タイヤ空気圧に関してのさらなる情報は (▷ 283 ページ)をご覧ください。 定期的に、かつタイヤが冷えているときのみにタイヤ空気圧を点検してください。

タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、ランフラットタイヤ（MOExtended）など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

MOExtended タイヤ装備車には、出荷時はタイヤフィットキットは装備されていません。 ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。 タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

i すべてのホイール/タイヤの組み合わせが、すべての国の工場で装着できるわけではありません。

タイヤ

ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY

サマータイヤ
R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 255/55 R 18 105 V	BA：8.0 J x 18 H2 ET 56

R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
BA: 225/50 R 19 103 W	BA: 8,5 J x 19 H2 ET 62
BA: 225/50 R 19 103 W MOExtended[1]	BA: 8,5 J x 19 H2 ET 62
BA： 255/50 R 19 103 W	BA：8.0 J x 19 H2 ET 56
BA： 255/50 R18 19 103 W MOExtended[1]	BA：8.0 J x 19 H2 ET 56
BA： 255/50 R 19 103 W[2]	BA：8.5 J x 19 H2 ET 59
BA： 255/50 R 19 103 W MOExtended[1, 2]	BA：8.5 J x 19 H2 ET 59

R 20

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 265/45 R 20 104 Y[2]	BA：9.0 J x 20 H2 ET 57
BA： 265/45 R 20 104 Y MOExtended[1, 2]	BA：9.0 J x 20 H2 ET 57

R 21

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 265/40 R 21 105 Y XL[2, 3, 4]	BA：9.0 J x 21 H2 ET 53

1 MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）は作動しているタイヤ空気圧警告システム、またはタイヤ空気圧モニターとの組み合わせでのみ。
2 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。
3 "ホイール/タイヤの組み合わせ"の"全体的な注意事項"にある"大型ホイール"の注意事項を遵守してください。
4 エアサスペンション装備車のみ。

ウィンタータイヤ
R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 255/55 R 18 105 H M+S	BA：8.0 J x 18 H2 ET 56

R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
BA: 225/50 R 19 103 W	BA: 8,5 J x 19 H2 ET 62
BA: 225/50 R 19 103 W MOExtended[1]	BA: 8,5 J x 19 H2 ET 62
BA： 255/50 R 19 107 H XL M+S	BA：8.0 J x 19 H2 ET 56
BA： 255/50 R 19 107 H XL M+S MOExtended[1]	BA：8.0 J x 19 H2 ET 56
BA： 255/50 R 19 107 H XL M+S [2]	BA：8.5 J x 19 H2 ET 59
BA： 255/50 R 19 107 H XL M+S MOExtended[1, 2]	BA：8.5 J x 19 H2 ET 59

ML 350 BlueTEC 4MATIC

サマータイヤ
R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 255/55 R 18 105 V	BA：8.0 J x 18 H2 ET 56

R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
BA: 225/50 R 19 103 W	BA: 8,5 J x 19 H2 ET 62
BA: 225/50 R 19 103 W MOExtended[1]	BA: 8,5 J x 19 H2 ET 62
BA： 255/50 R 19 103 W	BA：8.0 J x 19 H2 ET 56

1 MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）は作動しているタイヤ空気圧警告システム、またはタイヤ空気圧モニターとの組み合わせでのみ。
2 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 255/50 R 19 103 W MOExtended[1]	BA：8.0 J x 19 H2 ET 56
BA： 255/50 R 19 103 W[2]	BA：8.5 J x 19 H2 ET 59
BA： 255/50 R 19 103 W MOExtended[1, 2]	BA：8.5 J x 19 H2 ET 59

R 20

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 265/45 R 20 104 Y[2]	BA：9.0 J x 20 H2 ET 57
BA： 265/45 R 20 104 Y MOExtended[1, 2]	BA：9.0 J x 20 H2 ET 57

R 21

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 265/40 R 21 105 Y XL[2, 3, 4]	BA：9.0 J x 21 H2 ET 53

オールシーズンタイヤ
R 17

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 235/65 R 17 104 H M+S	BA：7.5 J x 17 H2 ET 53

ウィンタータイヤ
R 17

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 235/65 R 17 104 H M+S	BA：7.5 J x 17 H2 ET 53

1 MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）は作動しているタイヤ空気圧警告システム、またはタイヤ空気圧モニターとの組み合わせでのみ。
2 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。
3 "ホイール/タイヤの組み合わせ"の"全体的な注意事項"にある"大型ホイール"の注意事項を遵守してください。
4 エアサスペンション装備車のみ。

R 18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 255/55 R 18 105 H M+S	BA：8.0 J x 18 H2 ET 56

R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
BA: 225/50 R 19 103 W	BA: 8,5 J x 19 H2 ET 62
BA: 225/50 R 19 103 W MOExtended[1]	BA: 8,5 J x 19 H2 ET 62
BA： 255/50 R 19 107 H XL M+S	BA：8.0 J x 19 H2 ET 56
BA： 255/50 R 19 107 H XL M+S MOExtended[1]	BA：8.0 J x 19 H2 ET 56
BA： 255/50 R 19 107 H XL M+S [2]	BA：8.5 J x 19 H2 ET 59
BA： 255/50 R 19 107 H XL M+S MOExtended[1, 2]	BA：8.5 J x 19 H2 ET 59

ML 63 AMG 4MATIC

サマータイヤ

R 21

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 265/40 R 21 105 Y XL[2]	BA：9.0 J x 21 H2 ET 53

ウィンタータイヤ

R 20

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 255/45 R 20 105 V XL M+S	BA：8.5 J x 20 H2 ET 51

1 MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）は作動しているタイヤ空気圧警告システム、またはタイヤ空気圧モニターとの組み合わせでのみ。
2 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ/応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 適宜運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを 1 つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください
- ESP® をオフにしないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイールとタイヤのサイズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

! "ミニスペア"応急用スペアタイヤ 装備の AMG 車： "ミニスペア"応急用スペアタイヤは**リアアクスル** にのみ使用してください。"ミニスペア"応急用スペアタイヤ をフロントアクスルに装着すると、ブレーキシステムが損傷するおそれがあります。

フロントアクスルのタイヤに不具合がある場合は、まずリアアクスルの損傷していない車輪を"ミニスペア"応急用スペアタイヤ と交換しなければなりません。フロントアクスルの不具合のある車輪はリアアクスルの損傷していない車輪と交換することができます。

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ の使用説明ラベルを遵守してください。

サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを使用するときは、最高速度 80 km/h を超えないようにしてください。

スノーチェーンは応急用スペアタイヤには装着しないでください。

全体的な注意事項

応急用スペアタイヤの装着については"タイヤの取り付け" (▷ 287 ページ)に記載されています。

特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて空気圧を調整してください(▷ 283 ページ)。適用される値は車輪または "サービスデータ" (▷ 299 ページ) にあります。

ただし、応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することができます。応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間と制限速度を守って正しく使用してください。

摩耗の程度に関わらず、6 年以上経過したタイヤは新品と交換してください。これは応急用スペアタイヤにも該当します。

ℹ 応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムは確実に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤの取り外し

"ミニスペア"応急用スペアタイヤはラゲッジルームフロア下の収納スペースにあります。

▶ ラゲッジルームフロアボードを引き上げます。(▷ 241 ページ)

▶ 応急用スペアタイヤ固定具 ② を反時計回りにまわし、取り外します。

▶ "ミニスペア"応急用スペアタイヤを取り外します ①。

Bang & Olufsen サウンドシステム装備車では、"ミニスペア" 応急用スペアタイヤはバッグの中に保管されています。バッグはトランクの固定用リングに固定されています。

▶ **応急用スペアタイヤを取り外す：** テールゲートを開きます。

▶ 両側のテンショニングストラップ ② を緩めます。

▶ テンショニングストラップ ② の固定用スプリングフック ① および ③ を固定用リングから外します。

▶ "ミニスペア"応急用スペアタイヤのバッグを取り外します。

▶ バッグを開き、"ミニスペア"応急用スペアタイヤを取り外します。

▶ **応急用スペアタイヤを収納する：** "ミニスペア" 応急用スペアタイヤをバッグに入れ、バッグを閉じます。

▶ 運搬用ストラップが後方になるようにして、"ミニスペア" 応急用スペアタイヤのバッグをトランクに横たえます。

▶ テンショニングストラップ ② の固定用スプリングフック ① および ③ を固定用リングに掛けます。

▶ 両側のテンショニングストラップ ② を締めます。

車輪の交換と取り付けに関するさらなる情報は、(▷ 287 ページ) をご覧ください。

サービスデータ

ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY

応急用ミニスペアタイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
T 155/90 R18 113 M タイヤ空気圧：420 kPa（4.2 bar / 61 psi）	4.0 B x 18 H2 ET 40

ML 350 BlueTEC 4MATIC

応急用ミニスペアタイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
T 155/90 R18 113 M タイヤ空気圧：420 kPa（4.2 bar / 61 psi）	4.0 B x 18 H2 ET 40

ML 63 AMG

応急用ミニスペアタイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
T 155/80 R19 114 M タイヤ空気圧：420 kPa（4.2 bar / 61 psi）	4.5 B x 19 H2 ET 40

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 29 ページ)

メルセデス・ベンツ純正部品

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

車両の電子制御部品

電子制御部品の不正改造

⚠ **警告**

電子制御部品およびその関連部品に関わる整備作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。

! コントロールユニット、センサー、コネクターケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。 車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、車両の使用許可が無効になることがあります。

無線機と携帯電話の改造（RF 送信機）

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ビークルプレート

ビークルプレートの車台番号

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ビークルプレート
- VIN
- エンジン番号

VIN

▶ 右側のフロントドアを開きます。

▶ カバー ① を矢印の方向に開いて取り外します。
車台番号が確認できます。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

サービスプロダクトは健康に有害で危険です。 けがの危険性があります。

サービスプロダクトの使用、保管および廃棄については、それぞれ元の容器のラベルの指示を遵守してください。 サービ

スプロダクトは必ず元の容器に密閉して保管してください。 サービスプロダクトは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

環境
燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料（ガソリン、軽油など）
- 排気ガス後処理装置の添加剤、AdBlue® など
- 潤滑剤（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイルなど）
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

サービスプロダクトの取り扱い、保管および廃棄については、法令を遵守して取り扱ってください。

構成部品とサービスプロダクトは適合していなければなりません。Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。これらの製品は、本書の該当するセクションに記載されています。

Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定するサービスプロダクトは、容器に以下のようなマークが付いています。

- MB-Freigabe （ MB-Freigabe 229.51 など）
- MB Approval （ MB Approval 229.51 など）

これ以外のマークや記載は、MB シート番号（MB 229.5 など）に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらは、メルセデス・ベンツによる承認は必要としません。

さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意

警告
燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。
火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

警告
燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。
燃料が肌、目または衣服と接触しておらず、飲み込まれていないことを確認しなければなりません。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。
お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医療補助を求めてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医療補助を求めてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ガソリン
- 軽油
- 燃料のグレード

- 燃料消費情報
- AdBlue®

燃料タンク容量

車両の装備に応じて、燃料タンクの全容量は変化することがあります。

車種	全容量
ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY	約 78.0 L または 約 93.0 L
ML 350 BlueTEC 4MATIC ML 63 AMG	約 93.0 L

車種	予備タンク容量
総容量 約 78.0 L のモデル	約 10.0 L
総容量 約 93.0 L のモデル	約 12.0 L
ML 63 AMG	約 14.0 L

エンジンオイル

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エンジンオイルに関する注意事項
- 添加剤
- 粘度

容量

以下の容量は、オイルフィルター分を含むオイル交換時の参考数値です。

車種	交換時の容量
ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY	約 7.0 L
ML 63 AMG	外部オイルクーラーなし：約 8.5 L
ML 350 BlueTEC 4MATIC	約 8.0 L

ブレーキ液

⚠ **警告**

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液の沸点を下げます。ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。 ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。事故の危険性があります。

ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

ブレーキ液 (▷ 302 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意を遵守してください。

ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

承認されたブレーキ液に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、整備手帳をご確認ください。

冷却水

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。 不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

! 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! たとえ熱帯地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

冷却水 (▷ 302 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意を遵守してください。

冷却水は水道水および防錆不凍液の混合液です。冷却水は、以下の効果を発揮します。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

適正な濃度の防錆不凍液では、作動時の冷却水の沸点は約 130 ℃ になります。

エンジン冷却システム内の防錆不凍液の濃度は、

- 約 50 %以上にしてください。約 - 37 ℃ までエンジン冷却システムが凍結するのを防ぎます。
- 55 % (- 45 ℃までの凍結防止) を超えないようにします。 さもないと、熱が効果的に発散しません。

冷却水が不足している場合は、同量の水道水および防錆不凍液を補充してください。

冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備時に点検が行なわれます。

ℹ 車両の納車時には、指定の防錆不凍液を適正な濃度で混合した冷却水がリザーブタンクに充填されています。

フロントウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。 熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

! 夏季用や冬季用など、ヘッドライトの樹脂製レンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。不適切なウォッシャー液を使用すると、ヘッドライトの樹脂製レンズを損傷するおそれがあります。

! 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでくださ

い。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

! 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、 噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

ウォッシャー液 (▷ 302 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意を遵守してください。

気温が氷点より高いとき

▶ 夏用のウォッシャー液および水道水を混合して、ウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

夏用のウォッシャー液および水道水を 1：100 の割合で混合します。

気温が氷点下のとき

▶ 冬用のウォッシャー液および水道水を混合して、ウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

外気温度に応じて混合比を調整してください。

- 約 - 10 ℃に下がるまで：水道水の量 2 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- 約 - 20 ℃に下がるまで：水道水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- 約 - 29 ℃に下がるまで：水道水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 2 を混合します。

i 1 年を通して、夏用と冬用などのウォッシャー濃縮液を水で薄めたウォッシャー液を使用してください。

車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点にご注意ください。

- 記載の車高は、以下の条件に応じて異なります。
  - タイヤ
  - 積載条件
  - サスペンションの状態
  - オプション装備品

レベルコントロールに関する情報に注意してください。

- AIR マティックサスペンションパッケージ (▷ 157 ページ)

寸法および重量

以下の装備車	① 開いたときの高さ	② 最大内側の高さ
スチールサスペンション	約 2195 mm	約 1987 mm
AIR マティックサスペンションパッケージ	約 2140 mm ～ 2215 mm	約 1931 mm ～ 2006 mm

	① テールゲートを開いたときの高さ（外側）	② 最大内側の高さ
AMG 車	約 2148 mm ～ 2208 mm	約 1938 mm ～ 1998 mm

ルーフの制限重量

全車種	
ルーフの制限重量	約 100 kg

電池

全車種	
バッテリー電圧	12 V
バッテリー容量	95 Ah

24 GHz レーダーセンサーシステム

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

http://www.mercedes-benz.co.jp

編集オフィス

この取扱説明書に関してお問い合わせやご提案がございましたら、以下のアドレスの技術文献チームまでお気軽にお尋ねください。

Daimler AG, HPC: CAC, Customer Service, 70546 Stuttgart, Deutschland

編集終了 10.05.2012